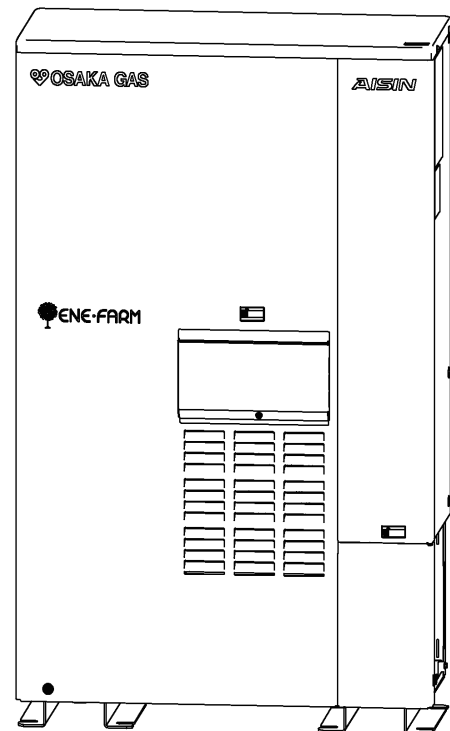




エネファーム type S 燃料電池発電ユニット

商品コード	型式	ガスの種類
192-AS07 (自立運転機能付き)	FCCS07B2NJ	都市ガス13A
	FCCS07B2PJ	LPG
192-AS08 (標準モデル)	FCCS07B2N	都市ガス13A
	FCCS07B2P	LPG

大阪ガス 取扱説明書 (保証書付)



このたびは大阪ガスのエネファームtype S燃料電池発電ユニットをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。
保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保管してください。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- この取扱説明書での機器の呼びかた
 - ・燃料電池発電ユニットを発電ユニット、燃料電池発電ユニットと熱源機を合わせたシステムをエネファームと呼びます。
 - ・セット構成用台所リモコンを台所リモコン、セット構成用浴室リモコンを浴室リモコンと呼びます。
 - ・後付構成用発電連係リモコンを発電リモコンと呼びます。
 - ・ガスメーター（マイコンメーター）をガスマイコンメーターと呼びます。
- 「リモコンの操作説明」～「停電時に電気とお湯を使う」については、リモコンの種類ごとに記載していますので、お客さまがご使用のリモコン記載ページをご覧ください。
 - ・リモコンA（138-N***シリーズ（138-N424は除く））は14ページを参照ください。
 - ・リモコンB（138-T***シリーズ）は36ページを参照ください。
 - ・リモコンC（138-R***シリーズ）は57ページを参照ください。
 - ・発電リモコン（138-N424）は78ページを参照ください。
- 安全についての注意事項を記載しておりますので、必ずお守りください。
- お読みになった後、いつでも見られるところに必ず保管してください。
また、お使いになる方が変わる場合は、必ずこの取扱説明書をお渡しください。
保証書は、お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスよりお受け取りになり、大切に保管してください。
- 別冊の熱源機の取扱説明書とあわせてご覧ください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

目次

1 使用の前	特長	1
	安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください	3
	ラベルの貼付け位置と記載内容	11
	各部のなまえとはたらき	12
	ご使用前の確認	13
2 リモコンA	リモコンの操作説明	14
	基本操作の説明	16
	運転・停止について	27
	停電時に電気とお湯を使う	29
3 リモコンB	リモコンの操作説明	36
	基本操作の説明	38
	運転・停止について	48
	停電時に電気とお湯を使う	50
4 リモコンC	リモコンの操作説明	57
	基本操作の説明	59
	運転・停止について	69
	停電時に電気とお湯を使う	71
5 発電リモコン	リモコンの操作説明	78
	基本操作の説明	80
	運転・停止について	91
	停電時に電気とお湯を使う	93
困ったとき	故障・異常かな？と思ったら	99
	エラー表示について	102
	エラー発生時の処置方法について	104
知っておきたい	災害時にお湯を使う（災害時などに貯湯タンクからお湯を取り出す）	107
	お手入れと周囲の確認	108
	点検に関して	108
	おもな仕様	109
	外形図	110
	アフターサービスと保証について	111
	大阪ガス製エネファームフルメンテナンスサポートサービスのご案内	112
保証書	巻末	

特長

この機器は専用の熱源機と組み合わせて使用することで、電気および熱を供給します。

- 発電ユニットから発生する排熱は、約30℃以下の水として熱源機に供給され、熱源機にて設定温度に調整されて、給湯栓に供給されます。
- 発電ユニットで作られた電気は、家庭内（照明、テレビなど）で使用できます。
- 発電ユニットで作られた電気を優先的に使用し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。
- 異常がある場合、リモコンにエラーを表示し、お知らせします。
- 発電ユニットの操作は、「セット構成」の場合は、熱源機の台所リモコンより行い、「後付構成」の場合は、専用の発電リモコンより操作を行います。
- 断水時や地震など万一の災害時には、貯湯タンクのお湯（水）を雑用水として利用できます。ただし、自立運転機能付きの場合は、断水時でも発電を続けますので、貯湯タンク内の水を使用する場合は、停止していることを確認してください。

自立運転機能付きをお使いのお客さまへ

- 停電した場合でも発電ユニットが発電中であれば、発電ユニットは発電を続けますので、発電した電気と熱源機内のお湯を使うことができます。〈自立運転機能〉
 - ※ 発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、地震等の災害などでガスの供給が停止している場合にも、発電することができません。
- 自立運転機能で使用できる電気の量は約700Wです。
 - ※ 熱源機で使用する電気の量を含みます。実際にご使用できる電気の量は700Wよりも、少なくなります。
- 自立運転時は自動的に自立運転専用のコンセントに電気が供給されます。
 - ※ 自立運転専用コンセントには「エネファーム△type S 停電時自立発電専用」と表示されています。
 - ※ 自立運転専用コンセントは停電しているときだけ、お使いください。なお、停電が復旧すると自動的に自立運転専用コンセントへの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- ※ 自立運転機能の詳細は29～35ページ、50～56ページ、71～77ページ、93～98ページをご覧ください。

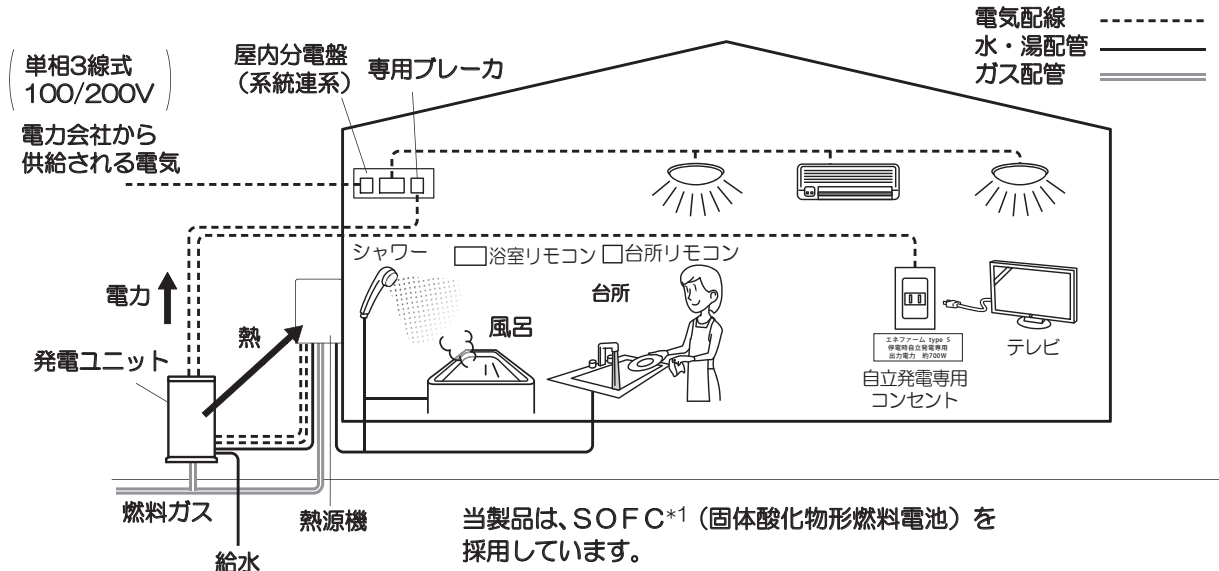
逆潮流ありの設定を選択されたお客さまへ

- 逆潮流に関してのご説明
 - ・ 逆潮流とは、発電ユニットにて発電された電力を電力系統を介して取引等を実施するものです。
 - ・ 逆潮流を実施する場合、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを行う事業者さまへの申込みが必要となります。
- 逆潮流ありの場合、発電ユニットはお客さまの使用電力（消費電力）以上で発電運転（最大700W）を実施し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。
- 逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。
- 詳細は大阪ガスホームページ等をご覧ください。
- 逆潮流のリモコン表示に関してはリモコンの取扱説明書をご覧ください。

特長

1. セット構成かつ自立運転機能付きの場合

※ 発電ユニットは台所リモコンおよび浴室リモコンで操作します。

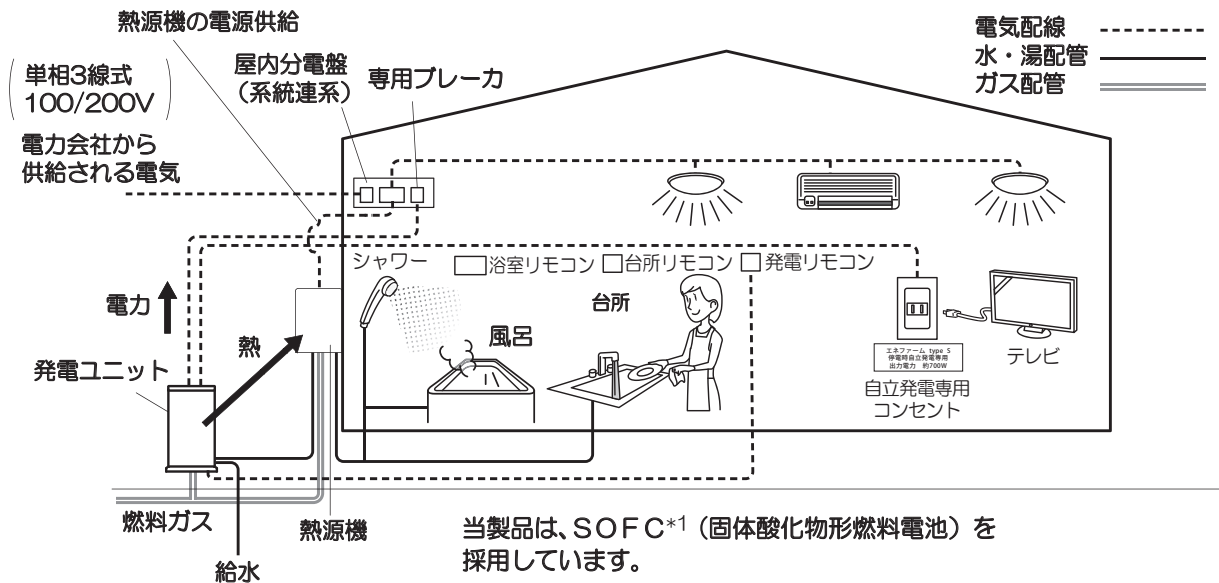


2. 後付構成 (自立運転機能付き、なし) またはセット構成かつ自立運転機能なしの場合

※ 後付構成の場合は、発電ユニットは発電リモコンより操作します。

※ 自立運転機能なしの場合は自立運転コンセントおよびその配線はありません。

※ セット構成の場合は発電リモコンはありません。





*1 SOFCとは・・・

燃料電池は、水素と酸素を化学反応させて電気を起こす発電装置です。当機のように、セラミックを電解質に用いる固体酸化物形燃料電池のことを、英語で Solid Oxide Fuel Cellといい、頭文字をとってSOFCと呼んでいます。

安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください

ご使用前に、この「安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。

【表示の説明】

 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合、人が傷害を負う可能性や物的損害が想定される内容です。
お願い	安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

【絵表示の説明】

 必ず行うこと	 接触禁止	 一般的な禁止
 分解禁止	 発火注意	 火気禁止
 アース線を接続すること	 高温注意	

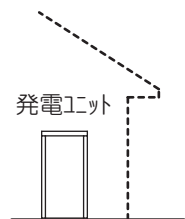
警告

屋内に設置しない

屋外設置据置型ですので、絶対に屋内に設置しないでください。
酸欠・一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



禁止

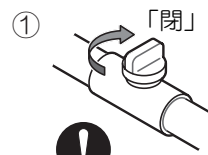


ガス漏れに気付いたら

- ・ガス漏れ異常（エラーコード[10F00]、[10F01]、[10F10]、[10F11]）は、リモコンでのエラー解除はできません。
 - ・屋内でガス臭がする場合は、電気器具（換気扇・電灯など）のスイッチを入/切しないでください。引火し、爆発事故を起こすことがあります。
 - ・ガス漏れに気付いたときは、次の処置を行ってください。
 - ①ガス栓を閉める。（ガス栓を閉めると、エラーコード[AOF00]がリモコンに表示されます。）
 - ②屋内でガス臭がするときは窓や扉をあける。
 - ③販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。
- そのままにしておくと、火災や爆発の原因になります。
また、絶対に火を近づけたりしないでください。



火気禁止



①

「閉」



確認



③

安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください

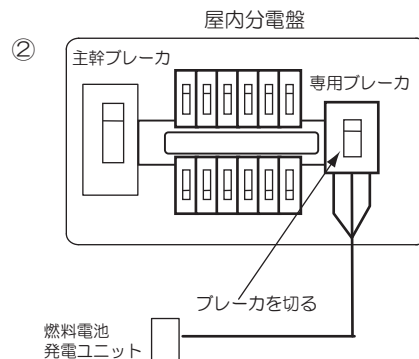
⚠ 警告

異常時の処置

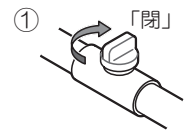
この機器から異常な臭い（こげ臭い・ガス臭い）・発火・煙・異常に大きい音・振動があるときは、すぐにリモコンで機器を停止し、次の処置を行ってください。

- ① ガス栓を閉める。（ガス栓を閉めるとエラーコード[AOFOO]がリモコンに表示されます。）
- ② 発電ユニットに接続された屋内分電盤のブレーカを「OFF」にする。
- ③ 販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。

異常のまま運転を続けると感電・火災・故障などの原因となります。
※ ブレーカ部は濡れ手で触れないでください。



確認



地震・水害・火災の発生したときの処置

地震・水害・火災が発生したときは、ガス栓を閉め、屋内分電盤の専用ブレーカをOFFにしてください。おさまりましたら、機器が安全に使用できるかどうかの確認を販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。



確認

設置・付帯工事は販売店またはもよりの大阪ガスに依頼する

工事に不備があると、感電・水漏れに加え、排気ガスの建物内流入による中毒・火災の原因になりますので販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。
（設置・付帯工事は工事説明書に従い、有資格者が行います。）



確認

移設時の確認

増改築や引越しなどで移設する場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。工事に不備があると、感電・水漏れに加え、排気ガスの建物内流入による中毒・火災の原因になります。（移設は工事説明書に従い、有資格者が行います。）
移設後は、電力会社への手続きが完了した後でないとはできません。
（手続きについては、販売店またはもよりの大阪ガスに確認してください。）



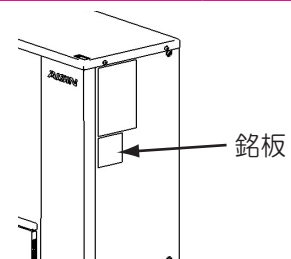
確認

ガスの種類・電源の確認

ガスの種類・電源が異なる場合、火災や感電の原因となります。銘板に表示してある燃料種と使用するガスが一致していることを確認してください。また、電源が「単相3線式100/200V」であることを確認してください。



確認



熱源機を買い替える場合

- ・ 熱源機の組み合わせによっては、安全・性能が担保できず、やけど等の事故が発生する可能性があります。
- ・ 熱源機を買い替える場合は必ず販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。



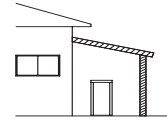
確認

安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください

⚠ 警告

囲いをしない

設置後、発電ユニットを波板やビニールなどで囲んで屋内状態にしないでください。火災や酸欠事故の原因となります。

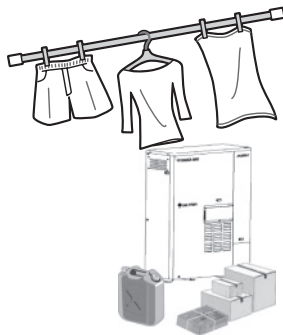


燃えやすい物を周りに置かない

洗濯物・新聞紙・灯油など燃えやすい物を周りに置かないでください。火災の原因となります。



発火注意

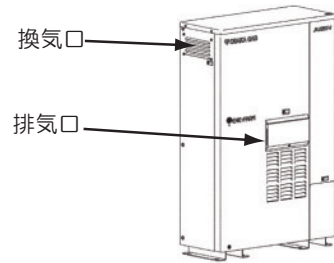


火気を近づけない

換気口・排気口に火気を近づけないでください。火災の原因になる場合があります。



火気禁止



引火のおそれがある物を周りで使用しない

灯油・ガソリン・ベンジンなど引火のおそれがある物を機器の周りで使用しないでください。火災の原因となります。



発火注意



スプレー缶を周りに置かない、使用しない

スプレー缶を周りで使用したり、置かないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発・火災の原因となります。周りでスプレーを使用すると、スプレーに含まれる成分により、機器故障の原因となります。



発火注意



LPガス容器を周りに置かない

所定の離隔距離が必要です。



禁止

離隔距離とメンテナンススペースの確認

周囲の可燃物に対して、防火上の離隔距離をとってください。距離が不足すると火災の原因となります。この離隔距離に加えて、メンテナンススペースが必要です。物を置かないでください。



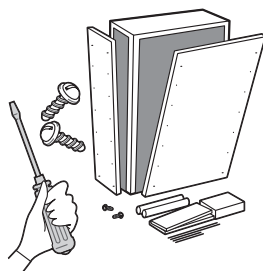
確認

分解・修理・改造をしない

分解・改造を行わないでください。感電・火災・水漏れの原因となります。移設・付帯工事・修理をする場合は、必ず販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。



分解禁止

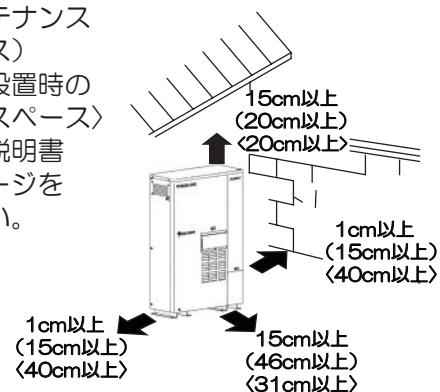


上 防火上の離隔距離

中 (メンテナンススペース)

下 (狭小設置時のメンテナンススペース)

詳細は工事説明書13~16ページをご覧ください。



安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください

⚠ 警告

排気ガスを建物内に入れない

この機器の排気ガスが建物（自宅および隣家など）の吸排気口や窓などから建物内に入らないようにしてください。

排気ガスが建物内に流入すると、中毒などの原因になります。



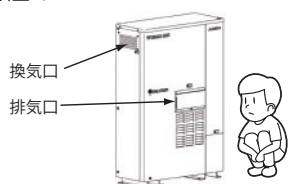
禁止

排気口・換気口に顔を近づけない

大量の排気ガスを吸い込むと、中毒の原因となる可能性があります。



禁止

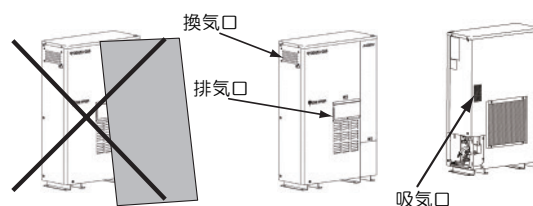


排気口・吸気口・換気口を塞がない

不完全燃焼の原因となります。



禁止



外壁の塗装、増改築、屋内の修繕時などに、機器本体が養生シートで覆われた場合は機器を使用しない

不完全燃焼や一酸化炭素中毒の原因になります。



禁止

積雪時の点検・除雪

積雪時は、排気口・換気口・吸気口が塞がれないように点検・除雪を行ってください。不完全燃焼の原因となります。



確認

機器の吸気口がホコリ・ゴミなどで塞がっていないか確認する

不完全燃焼の原因となります。



確認

必ずアース工事を行う

アース工事が不完全な場合は、感電・火災の原因となります。（D種接地工事）アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。詳しくは工事説明書をご覧ください。



アース

水洗いしない

感電・火災の原因になることがあります。



禁止

排気口付近で子供やペットを遊ばせない

中毒のおそれがあります。

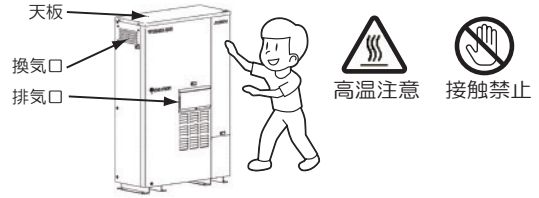


禁止

安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください

⚠ 注意

排気口、換気口、天板に触れない
高温になっており、やけどの原因になることがあります。



発電ユニットの上に乗らない、物を載せない
落下・転倒などにより、けがの原因になることがあります。



排気ガス・換気ガスを動植物に当てない
動植物に悪影響を及ぼす原因になることがあります。



**発電ユニットと熱源機間の配管の上に
乗らない、物を載せない**
けが・やけど・水漏れのおそれがあります。



熱源機行き配管（高温側）に触れない
熱源機行き配管（高温側）は高温になることがあります。
やけどのおそれがあります。



排気口・換気口・吸気口に指や棒など異物を入れない
けが・やけどのおそれがあります。



パネルを開けて、発電ユニット内部に触れない
けが・やけど・感電のおそれがあります。

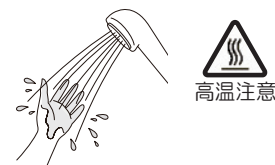


断水時には給湯栓を開けない

発電ユニットより低い位置にある給湯栓は設定温度以上のお湯が出る場合があります。



シャワーなどお湯の使用時は、リモコンに表示の温度をよく確かめ、手で湯温を確認してから使用する
60℃の高温で使ったあと、あらためて使用するときは特に注意してください。やけど予防のため。



浴槽の湯温を手で確認してから入浴する
やけど予防のため。



安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください

注意

機器や配管に長時間たまった水や朝一番のお湯は、雑用水として使用する。

飲用したり調理に使用しないでください



確認

飲用する場合は下記の点に注意し、必ず沸騰させてから使用する。

- ・必ず水道法に定められた飲用水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
- ・熱いお湯が出てくるまでの水（配管にたまっている水）は、雑用水としてお使いください。
- ・固形物・変色・濁り・異臭があった場合は飲用しないですぐに、販売店またはもよりの大阪ガスへ点検を依頼してください。



確認

ご使用にあたってのお願い

家庭用に使用してください

この機器は家庭用です。業務用に使用しないでください。

業務用に使用して事故や故障が発生した場合、保証の対象外になります。

BL認定品について

BL認定品は「優良住宅部品」「瑕疵保障・賠償責任保険付」です。

一般財団法人ベターリビングお客様相談室の電話番号は「03-5211-0680」です。

安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください

ご使用にあたってのお願い

純正部品を使用してください

純正部品を使用しないと、故障の原因になります。

低温になる場所への設置について

外気温が-10℃より低温になる場所に設置しないでください。
設置すると、凍結により重大な破損が発生することがあります。

積雪地域での使用について

この機器を積雪地域で使用するとき、排気口・換気口・吸気口に雪などが固着する場合があります。固着が進むと、この機器は吸入不足になり正常に運転できません。
雪などの固着物は、排気口・換気口・吸気口を塞がないよう取り除いてください。

機器の組み合わせについて

組み合わせることのできるリモコン・熱源機は限定されます。販売店またはもよりの大阪ガスにお問い合わせください。

知っておいてください

- ・雷や無線などのノイズが、この機器に悪影響を与えることがあります。
- ・ご自宅の電気工事などで、分電盤内の電流センサを外す場合は、事前に販売店またはもよりの大阪ガスへ連絡してください。
(電流値の読み込み不良により、発電ができなくなる場合があります。)
- ・発電ユニットの吸気口から自動車の排気ガスが直接吸い込まれると、発電ユニットの故障・性能低下の原因になります。
LPG使用の機器は、運転開始時に臭いがすることがありますが、異常ではありません。

地下水・井戸水・温泉水の使用禁止

- ・給水は必ず水道水を使用してください。
地下水・井戸水・温泉水を使用すると機器内の配管に異物が付着したり、腐食して水漏れすることがあります。

電源について

- ・緊急の場合以外はブレーカーを「切」にしないでください。
凍結予防運転のために電気を使用しています。

長期間使用しない場合の処置

10日間以上連続で使用しない場合は不在停止を行ってください。
不在停止後ブレーカーを「切」にする場合、または長期間(1か月以上)連続して使用しない場合は、不在停止に加え、必ず水抜きを実施してください。

停電時の注意

約24時間以上停電した場合は、暗証番号の入力、現在時刻の設定を行ってください。

ドレン配管のつまりに注意する(故障の原因)

ドレン配管の排出先は大気開放とし、泥や落ち葉などでつまらせないでください。

配管バルブを閉めない

メンテナンス作業時以外は、配管バルブを閉めないでください。正常な動作が妨げられ、故障の原因になります。

後付構成の給湯に関して

- ・後付構成の場合は熱源機が「運転切」でも給水予熱されますが、故障ではありません。
- ・後付構成で熱源機が「運転切」の状態でお湯を使用すると、お湯の温度が変動したり、湯切れで急に水になることがあります。運転切時もお湯の温度を確かめていただいてからお湯をお使いください。また熱源機が「運転切」の状態ではシャワー等のご使用はお控えください。
- ・後付構成では熱源機が給湯「切」、「入」でも予熱されるので、ふる「足し水」機能をご使用いただいてもぬるくなりになる場合があります。

安全に正しくお使いいただくために必ず守ってください

警告（自立運転について）

自立運転専用コンセントには以下の製品をつながない

自立運転専用コンセントには停電時のみ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。途中で電源が切れると生命、財産に被害を受けるおそれがある以下の機器は接続しないでください。

- ・ 全ての医療機器
- ・ 灯油を用いた暖房機器
- ・ バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器
- ・ 炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- ・ 冷蔵庫のような連続的に電力の供給が必要な機器
- ・ その他、電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれのある機器

消費電力が合計で700W以上になる機器は接続しないでください。

【注意】自立運転機能で使用できる電気の量は700Wです。

※ セット構成の場合は、熱源機で使用する電気の量も含まれますので実際にご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。



禁止

自立運転専用コンセントを商用電力線につながない

自立運転専用コンセントと家庭内の普通のコンセントを延長ケーブルなどで絶対に接続しないでください。感電、発火などの事故になるおそれがあります。



禁止

自立運転専用コンセントは停電時のみ使用する

自立運転専用コンセントは停電時のみ使用することができます。停電時以外に自立運転専用コンセントに電気製品を接続しないでください。接続した機器に突然電流が流れ、機器を損傷したり、突然の動作による事故の原因になります。



確認

停電していないときに自立運転を行わない

思わぬ事故の原因になります。また、本来の機能が損なわれ、故障の原因となります。



禁止

注意

ガスファンヒータの使用について

- ・ ガスファンヒータのご使用中は、部屋の換気にご注意ください。
必ず1時間に1～2回（各1～2分）、窓を開けるなどして換気を行ってください。
- ・ 自立運転専用コンセントで使用できる電力が少なく、ガスファンヒータを使用すると過負荷が発生するおそれがある場合は使用しないでください。
- ・ ガスファンヒータ運転中に停電が発生すると、ガスファンヒータの冷却が正常に行われず、温風の吹き出し口や機器背面（エアフィルタ部や取っ手部分）が高温になり、手で触れるとやけどのおそれがあります。
- ・ 自立運転専用コンセントでガスファンヒータを使用しているときに異常を感じた場合は、ただちにガス栓を閉じてガスファンヒータの使用を中止し、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。



確認



禁止



確認



確認

ラベルの貼付け位置と記載内容

この機器を安全に使用していただくために、機器には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルを全て読んでからご使用ください。ラベルは、はっきり見えるようにきれいにしておいてください。この機器に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡して新しいラベルに貼り替えてください。

安全ラベル
721694-10140

安全ラベル

安全ラベル
721694-10230

安全ラベル

安全ラベル
721694-10260

装置銘板 (例)

(N)192-AS07	
大阪ガス株式会社	
燃料電池発電ユニット	
・種類	固体酸化物形
・型式	FCCS07B2NJ
・原燃料種	都市ガス 13A
・原燃料供給圧力	1.0～2.5kPa
・定格原燃料消費量	1.35kW (1.49kW-HHV)
・定格出力	0.7kW
・定格電圧	100/200V
・相数	単相3線式
・周波数	50/60Hz
・設置条件	屋外式 -10～43℃
・質量	106kg
・使用圧力/伝熱面積	0.48MPa以下/0.24m ²
・機種	FCCS07B2NSJ
・製造番号	180410040001
・製造年月	2015-4
・製造者	アイシン精機株式会社
	AISIN 721699-10200

安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

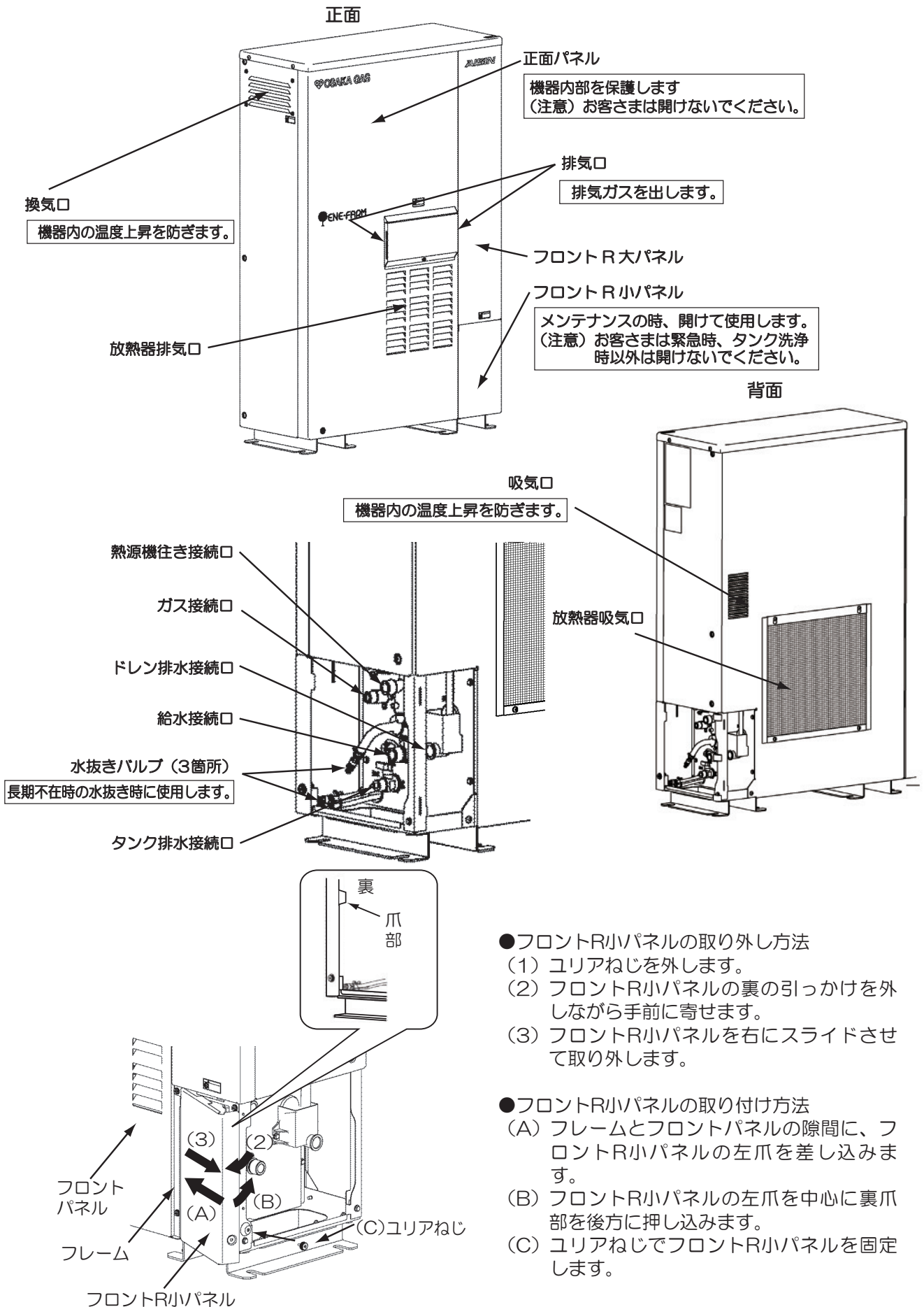
安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

安全ラベル

安全ラベル
721694-10140

各部のなまえとはたらき



- フロントR小パネルの取り外し方法
 - (1) ユリアねじを外します。
 - (2) フロントR小パネルの裏の引っ掛けを外しながら手前に寄せます。
 - (3) フロントR小パネルを右にスライドさせて取り外します。
- フロントR小パネルの取り付け方法
 - (A) フレームとフロントパネルの隙間に、フロントR小パネルの左爪を差し込みます。
 - (B) フロントR小パネルの左爪を中心に裏爪部を後方に押し込みます。
 - (C) ユリアねじでフロントR小パネルを固定します。

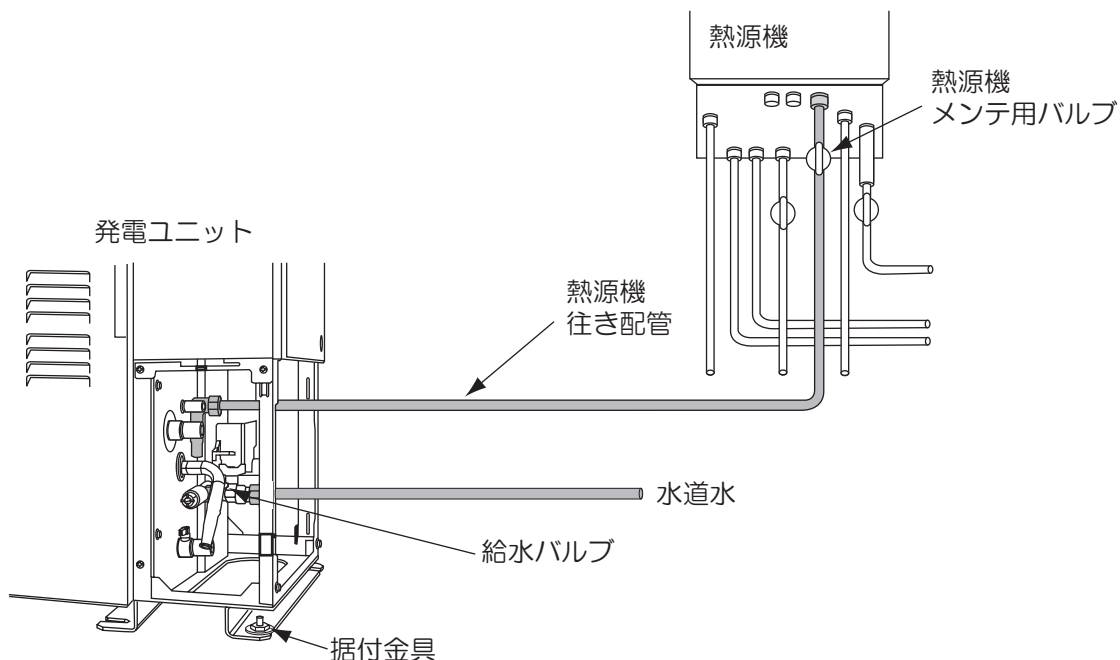
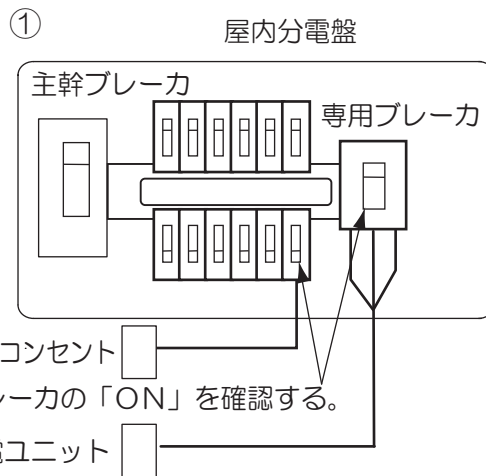
ご使用前の確認

ご使用前に次の確認を行ってください。

確認

発電ユニット、熱源機周辺に異常がないことを確認します。

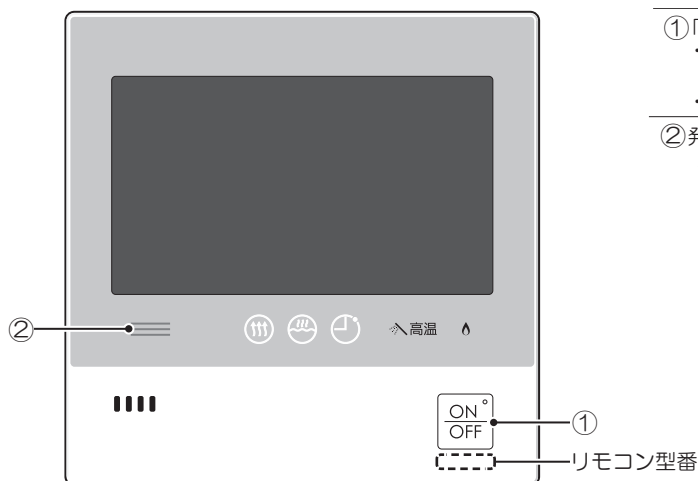
- 機器の周囲に可燃物および、障害物がないことを確認します。
- 機器の排気口、吸気口・換気口が塞がれていないことを確認します。
- 据付金具が緩んでいないことを確認します。
- 台所リモコンまたは発電リモコンにて日時設定、暗証番号設定が完了していることを確認します。確認方法は各リモコンの取扱説明書を参照ください。
- 発電ユニットに接続された屋内分電盤の専用ブレーカと熱源器に接続された屋内分電盤のブレーカが「ON」になっていることを確認します。①参照
- ガス栓、給水バルブ、熱源機メンテ用バルブが開いていることを確認します。②参照



リモコンの操作説明

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について説明いたします。
その他のリモコンの詳細機能についてはリモコン取扱説明書を参照願います。

1. 各部のなまえとはたらき（台所リモコン）



- ①「ON/OFF」スイッチ・ランプ
- ・給湯器の運転「入」「切」の操作に使用します。
 - ・「入」でランプが点灯します。
 - ・画面を表示させたり消したりするときに使用します。

- ②発電ランプ
- ・発電ユニットで発電中に点灯します。
 - ・現在の使用電力の状態を、色で表します。

使用電力が多い

↑	オレンジ色 (節電お知らせ)	購入電力が増えています 節電してください。
0.7kW	青色	使用電力が少し増えて います。
↓	緑色	発電ユニットの発電内で 上手に使用されています。
少ない		

- ・逆潮流の場合は、買電中か売電中かを表示します。

オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より多いので 買電しています。
青色	使用電力が発電電力より少ないので 売電しています。

2. 表示画面（タッチパネル）の操作の基本

- このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- 圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度の力で確実にタッチしてください。

表示がグレーになっている部分は、タッチしてもスイッチ操作できません。



試運転操作については工事説明書を参照ください。

※ 説明中のリモコン表示画面は一例です。

実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコンの操作説明



3. 発電状況表示の見かた

そのときの発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中	
⚡ (点灯)	発電しています。
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です。
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です。
↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。 ^{※1}
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。 ^{※1}
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

※1 電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

表示		状態
発電中		発電しています。
起動中		起動中(発電準備中)です。
停止中		発電停止の動作中です。
(表示なし)		発電ユニットは停止しています。
発電禁止		発電を強制的に禁止しています。
発電×		発電ユニットが使用できない場合に表示します。
逆潮流の場合	電圧抑制 ^{※2}	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
自立運転機能付の場合	⚡ 自立 ↔ ⚡ 自立 (交互表示)	自立運転しています。
	⚡ 自立・高 ↔ ⚡ 自立・高 (交互表示)	高出力モード(32ページ)で自立運転しています。

※2 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

4. 発電モードマークの見かた

↻	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
M	ガスマイコンメーター 確認マーク (Mマーク)	この表示は約24時間出ます。その間発電ユニットは停止し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認します*。24時間停止後は自動で運転を再開します。ただし、ガスのご使用状況や機器の動作状況により、リモコンに[01900]を表示し、停止を継続する場合があります。その場合は106ページを参照し、処置を行ってください。 *詳細は27ページ「運転・停止について」をご参照ください。
凍結予防	凍結予防マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。

基本操作の説明

1. 発電ユニットの水張り方法

下記の場合に実施してください。

- 断水時に湯（水）を使用された場合
- エラー表示部に、[81FO1]、[82FO1]が表示された場合
- 貯湯タンクを洗浄する場合

①リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプが消える）、液晶画面部にタッチしてください。

②トップ画面より[メニュー]を選択してください。



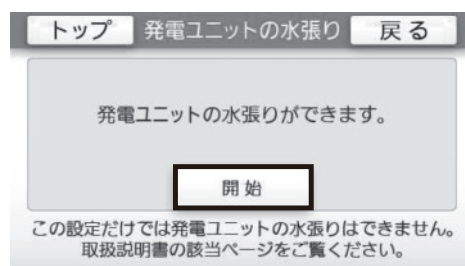
③メニュー画面より[音・その他メニュー]を選択してください。



④音・その他メニュー画面より[発電ユニットの水張り]を選択してください。

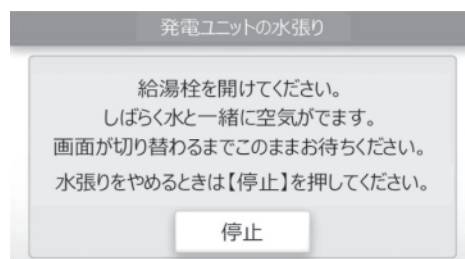


⑤[開始]ボタンを押してください。

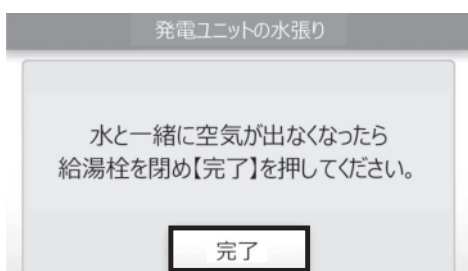


⑥12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水バルブ・熱源機メンテ用バルブを開けてください。（22ページ参照）

⑦屋内の給湯栓を開けてください。



⑧給湯栓から空気が出なくなったら給湯栓を閉めてから、[完了]ボタンを押してください。



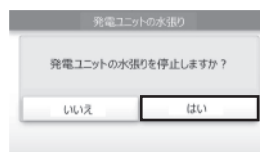
給湯栓 屋内の給湯蛇口です。

停止する場合

①屋内の給湯栓を閉めてから、上記画面の[停止]ボタンを押してください。

②[はい]ボタンを押してください。

[いいえ]ボタンを押すと前の画面に戻ります。



⑨12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

基本操作の説明

2. 発電ユニットの起動方法

■ 2-1. 発電禁止からの再開（19ページ「■ 3-1」（発電禁止）で停止させた場合）

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



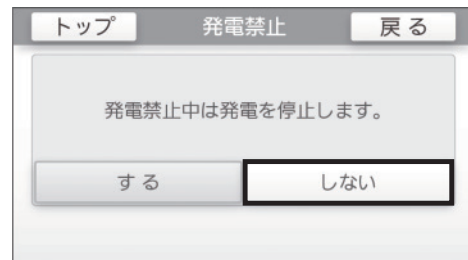
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[発電禁止]を選択してください。



④ 発電禁止画面より[しない]ボタンを押してください。



発電ユニットが起動をはじめます。

■ 2-2. 不在停止からの再開（20ページ「■ 3-2」（不在停止）で停止させた場合）

下記いずれかの方法で再開します。

- ・ リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作をする。
- ・ 不在停止設定後5時間以上経過している場合は、リモコンの液晶画面をタッチする。
- ・ 熱源機による暖房を行う。
- ・ 不在停止設定後5時間未満の場合は、メニュー画面から再開操作をする。

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[不在停止]を選択してください。



④ 不在停止画面より[しない]ボタンを押してください。



発電ユニットが起動をはじめます。

基本操作の説明

■ 2-3. 発電再開からの再開

(27ページ「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」で停止している場合)

① トップ画面より[メニュー]を選択してください



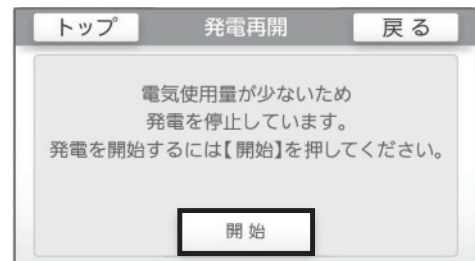
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[発電再開]を選択してください。



④ [開始]ボタンを押してください。



発電ユニットが起動をはじめます。

基本操作の説明

3. 発電ユニットの停止方法

※ お客さま操作により、頻繁に起動・停止(不在停止等)を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、不在停止機能のご使用は10回/年までを目安とし、10日以上不在にされる場合にご使用ください。

■ 3-1 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいときの停止方法(発電禁止)

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



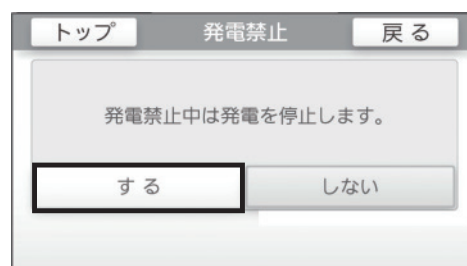
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



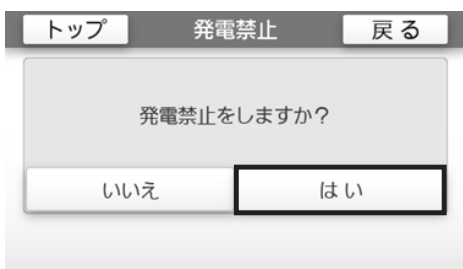
③ 発電メニュー画面より[発電禁止]を選択してください。



④ [する]ボタンを押してください。



⑤ [はい]ボタンを押してください。



※ 約10~12時間後に発電停止表示は消灯し、リモコントップ画面の左上に[発電禁止]と表示されます。

基本操作の説明

■ 3-2 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいときの停止方法（不在停止）

※1か月以上の長期不在時には、この方法に加えて水抜きが必要です。24ページを参考に水抜き操作を行ってください。

※ 10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※ 給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照ください。

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



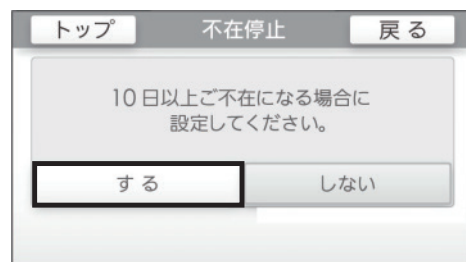
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



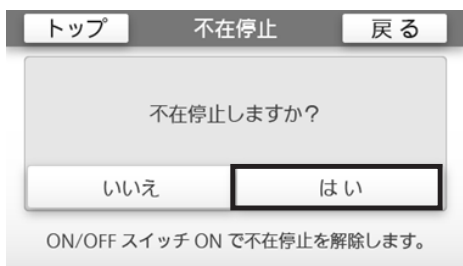
③ 発電メニュー画面より[不在停止]を選択してください。



④ [する]ボタンを押してください。



⑤ [はい]ボタンを押してください。



⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。

※ 不在停止設定を[する]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの液晶画面のタッチで不在停止が解除されます。

※ 不在停止設定を[する]にした後、お風呂または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

基本操作の説明

4. 発電ユニットの貯湯タンク洗浄のための水抜き方法

※ 貯湯タンク洗浄には水抜きが必要となります。

※ この操作開始後水張り（16ページ参照）完了までは、熱源機を使用することはできません。

※ この水抜きでは手順の途中でリモコンによる水抜き停止ボタンを操作しますが、その後も手順書に沿ってエア抜き栓、排水バルブ操作を行ってください。

⚠ 注意

水抜き時タンク排水配管には触れない

場合によってはお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。



※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑧）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑨～⑩）を行ってください。

①リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチする。

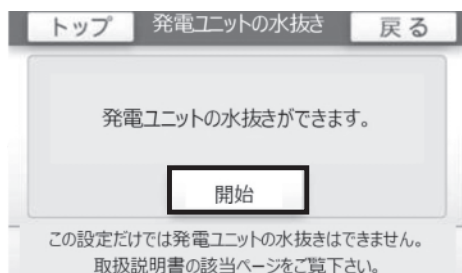
②トップ画面より[メニュー]を選択してください。

③メニュー画面より[音・その他メニュー]を選択してください。



④音・その他メニュー画面より[発電ユニットの水抜き]を選択してください。

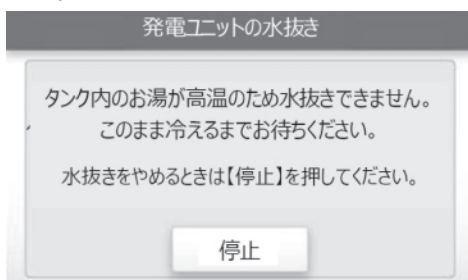
⑤[開始]ボタンを押してください。



※ タンク内水温が下がると⑥に移行します。停止を押すと⑤に移行します。停止させない場合は、[停止]ボタンを押さないでください。

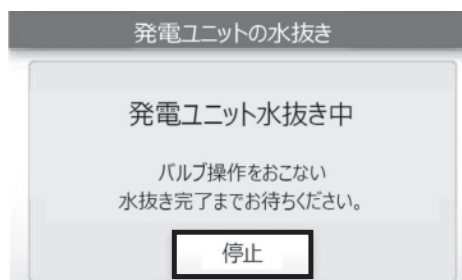
タンク内
高温時

⑥タンク内水温が水抜き可能温度です。停止ボタンを押してリモコンによる水抜きを停止してください。



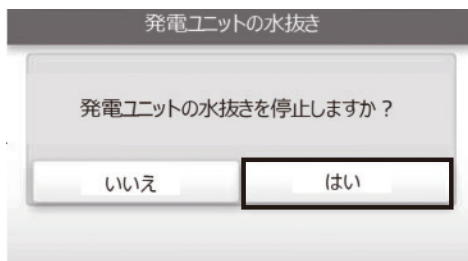
※ タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。

タンク内部
温度冷却後

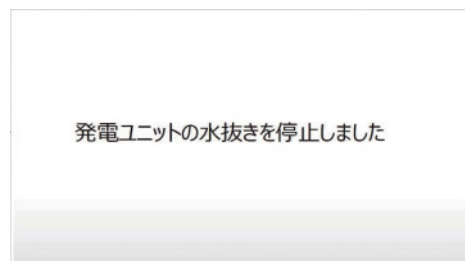


基本操作の説明

⑦ [はい] ボタンを押してください。

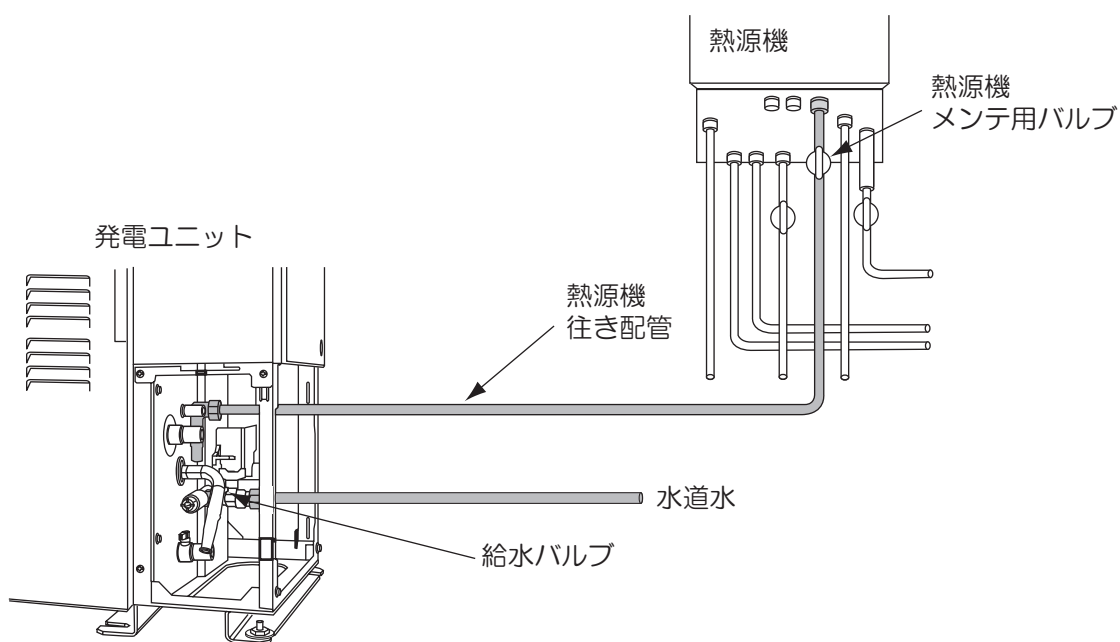


⑧ 下記画面を表示後自動的に、音・その他メニュー画面に切り替わります。



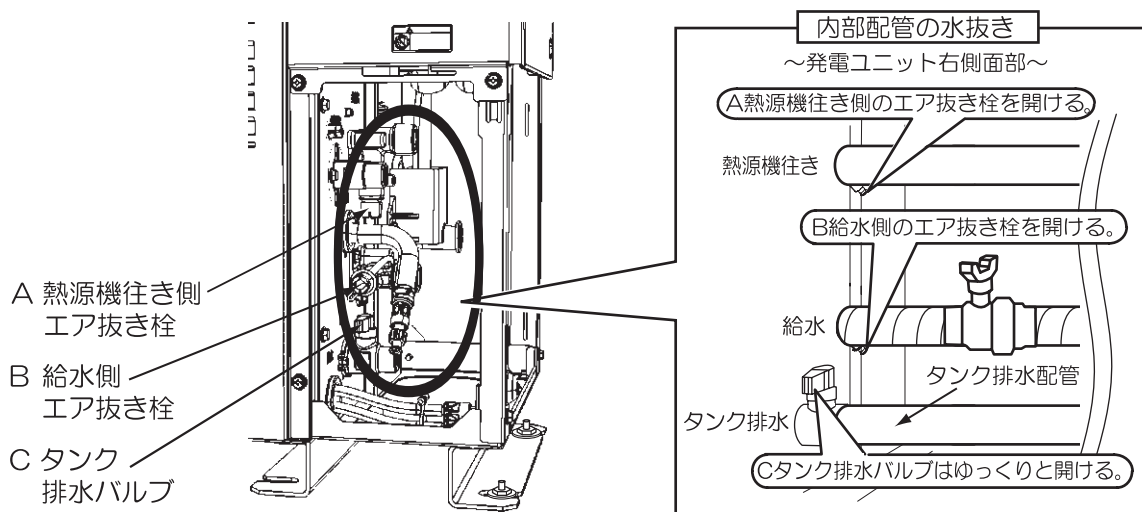
⑨ 音・その他メニュー画面移行後次の操作をしてください。

- ・ 12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外します。
- ・ 給水バルブを閉じます。
※ 給水バルブを閉じずに以降の操作をすると、ユニット内部機器の寿命が著しく短くなりますのでご注意ください。
- ・ 熱源機行き配管途中の熱源機メンテ用バルブを閉じます。



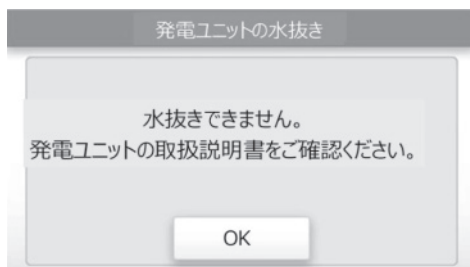
基本操作の説明

- ・ Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- ・ B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を反時計回りに3回転させます。



- ⑩タンク排水配管より湯（水）が出なくなったら、B給水側（下側）、A熱源機行き側（上側）のエア抜き栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。
- ⑪12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合



水抜きは、発電ユニットが停止状態のみ受け付けます。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

基本操作の説明

5. 長期間使用しない場合の発電ユニットの水抜き方法

- 旅行等のため、10日以上使用しないときは、リモコンで「不在停止」にし、発電ユニットを停止させてください。（手順は20ページを参照ください。）
- 1か月以上不在にされる場合もしくは1か月未満でも電源が確保できないことに加えて凍結のおそれがある場合（気温が氷点下になる可能性がある場合）は、下記の発電ユニット水抜き方法に従い水抜きを実施してください。水抜きをしないと故障の原因となります。（お手数ですがお客さまで実施ください。）また、熱源機の水抜きも必ず実施してください。手順は熱源機の取扱説明書をご参照ください。
- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 引越しをされる場合は、その2～3日前までに販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 水抜きを実施する場合は、前日までに発電禁止による停止操作を行ってください。

⚠ 注意

水抜き時タンク排水配管には触れない

場合によってはお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。

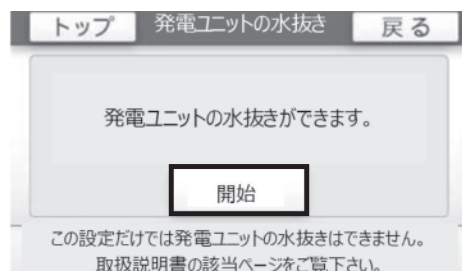


※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑥）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑦～⑩）を行ってください。

- ① リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチする。
- ② トップ画面より[メニュー]を選択してください。
- ③ メニュー画面より[音・その他メニュー]を選択してください。



- ④ 音・その他メニュー画面より[発電ユニットの水抜き]を選択してください。
- ⑤ [開始]ボタンを押してください。



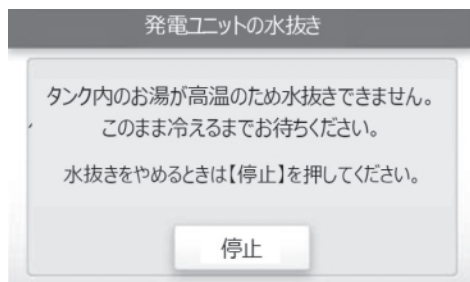
タンク内
高温時

※ タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。

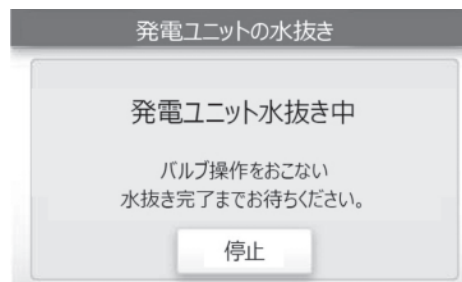
基本操作の説明

※ タンク内水温が下がると⑥に移行します。
[停止]を押すと⑥に移行します。
停止させない場合は、[停止]ボタンを押さないでください。

⑥ タンク内水温が下がりましたので、12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をしてください。



タンク内部
温度冷却後



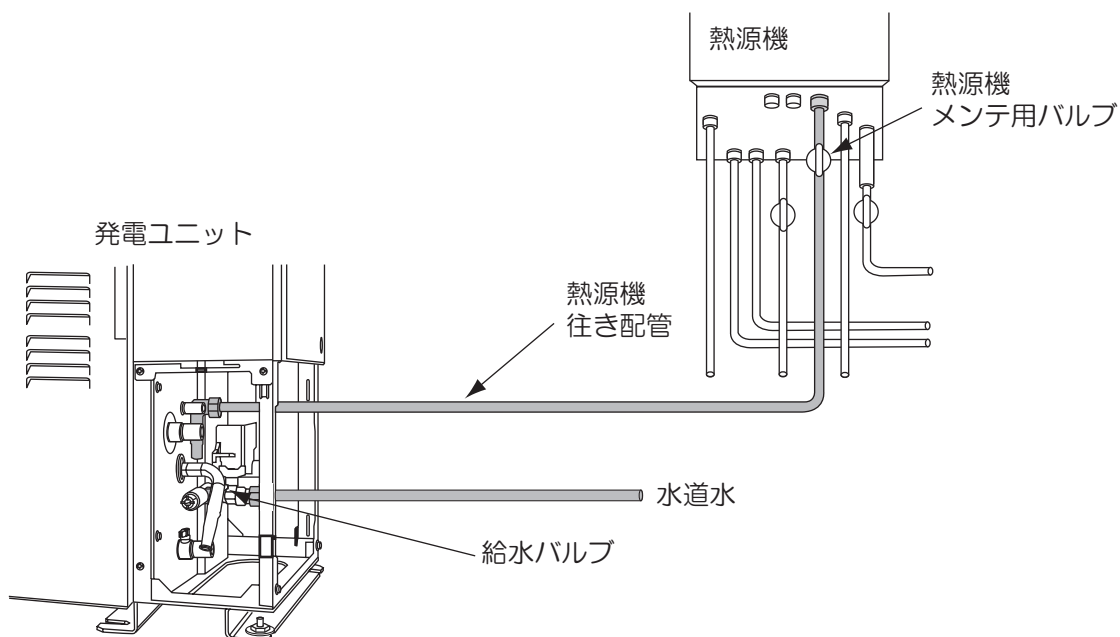
水抜きが完了すると、メイン画面に自動的に移行します。

※ 30分経過しても水抜きが終了しない場合は、[停止]ボタンを押して水抜きを停止し、A～F（26ページ参照）のバルブまたはプラグが開いていることを確認後、再度①より実施してください。

水抜きを停止したい場合は[停止]ボタンを押すと、次ページの※1に移行します。

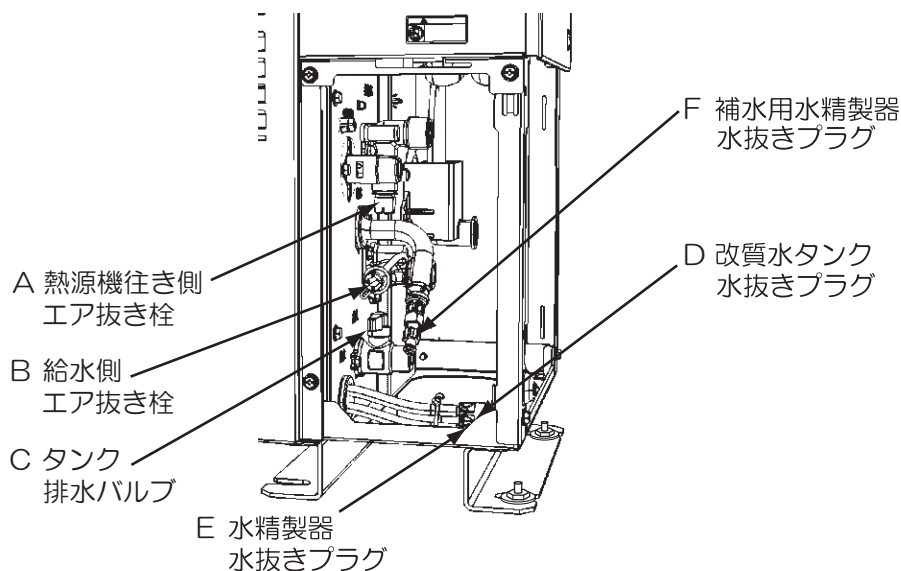
⑦ 下記バルブの操作をしてください。

- ・ 給水バルブを閉じます。
※ 給水バルブを閉じずに以降の操作をすると、ユニット内部機器の寿命が著しく短くなりますのでご注意ください。
- ・ 熱源機行き配管途中の熱源機メンテ用バルブを閉じます。



基本操作の説明

- ・Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- ・B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を反時計回りに3回転させます。



⑧D改質水タンク水抜きプラグとE水精製器水抜きプラグ、F補水用水精製器水抜きプラグ計3か所を反時計回りに1回転させ、改質水を抜きます。

(全て排水されるまで、約10分かかります。)

⑨リモコンの画面がメイン画面に移行し、タンク排水配管およびD、E、Fの水抜きプラグから水が出なくなったことを確認し、D、E、Fの水抜きプラグを時計回りに回して締めてください。

※ 30分経過してもトップ画面に移行しない場合は、水抜きを中止し、各バルブ確認後、再度手順①より実施してください。

⑩B給水側、A熱源機行きのエア抜き栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。

⑪発電ユニットと熱源機のカス栓を閉じ、屋内分電盤の専用ブレーカを「OFF」にします。

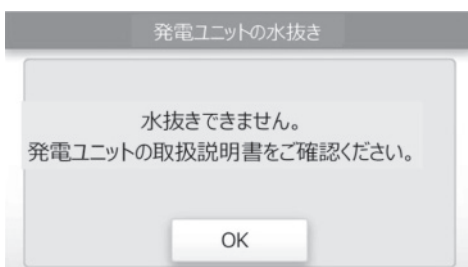
⑫12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

※1 水抜き途中停止方法



[いいえ]を押すと前の画面に戻ります。

※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合



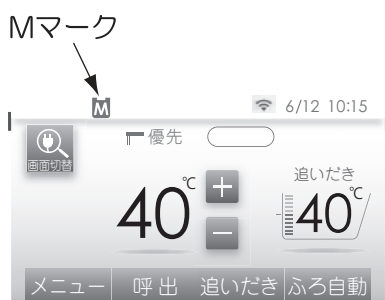
水抜きは、発電ユニットが停止状態のみ受け付けます。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

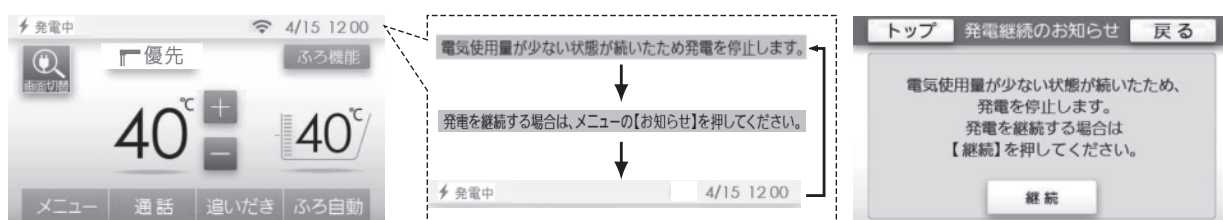
運転・停止について

1. 以下の場合、発電ユニットは停止します。

- ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき
ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日連続して運転した場合、27日目に約24時間停止する仕組みとなっており、その停止期間中リモコンにMマークが表示されます。（約24時間停止した後、発電ユニットは自動で運転を再開します。）
ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



- リモコン操作・お湯・暖房の使用が10日以上使用しなかったとき
自動的に不在停止となります。
- 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F03]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）
- 故障診断をしているとき
リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し一定時間停止したままの場合があります。
- 電気使用量が少ない状態が続いたとき
 - 月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのお知らせ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください」のメッセージが24時間表示され、翌月は自動停止します。
 - 翌月も発電を継続したい場合は、発電継続を選択してください。



- 停止後発電ユニットを起動したい場合は、発電再開操作（18ページ参照）を実施してください。
- 停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

2. 以下の場合、発電ユニットは発電出力を下げます。

- 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。
- 低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器保護のために発電出力を自動的に下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWに下げる場合があります。

運転・停止について

3. 停電のときは

- 発電中に停電した場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
自立運転機能により発電を継続します。
発電した電気は自立運転専用コンセントより出力します。（停電してから約90秒後に出力開始します。）
（29～35ページ参照）
- 発電中に停電した場合（標準モデルのお客さまの場合）
停電中は、アイドル状態になり、復旧待機しています（最長5時間）。ガス、水は閉めないでください。
※ 復旧後約5分で発電が開始します。また、お客さまの発電ユニットの運転状態によっては停電中に停止する場合があります。
※ アイドリング状態とは、運転をしていますが発電電力を出力していない（OW）状態のことです。
- 停電が復旧した場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
自立運転を終了し、通常運転に約5分後自動的に切り替わります。
※ 自立運転専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- 待機中・起動中・停止中に停電した場合
停電中は起動しません。

4. 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっている場合の対応

- 停電が事前に分かっている場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
 - <事前準備>
事前準備は特にありません。
ただし、停電予定期間中に発電をさせたい場合は、30ページの事前準備を行ってください。
 - <停電復旧後>
必要な操作は特にありません。
- 停電が事前に分かっている場合（標準モデルのお客さまの場合）
 - <事前準備>
停電する半日以上前に「発電禁止」操作（19ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
 - <停電復旧後>
「発電禁止からの再開」操作（17ページ参照）を行ってください。
- 断水が事前に分かっている場合
 - <事前準備>
事前準備は特にありません。
※ 断水中は、発電が停止する場合がありますため、お湯、水を使用しないでください。
 - <水道復旧後>
給水栓（レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて）を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。
- ガス停止が事前に分かっている場合
 - <事前準備>
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作（19ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
 - <ガス復旧後>
「発電禁止からの再開」操作（17ページ参照）を行ってください。

5. 緊急時などガス栓を閉にした場合、屋内分電盤の専用ブレーカをOFFした場合

- 再使用前に、13ページの「ご使用前の確認」を行ってください。

6. 暗証番号

- 機器を設置業者からお客さまに引き渡しする際、お客さまに登録していただく番号です。
- 機器に通電していない状態が24時間以上続いた場合は、再通電後に暗証番号を入力する必要があります。
- ※ 暗証番号を入力しない場合は、発電ユニットは起動しません。暗証番号は、リモコンの取扱説明書を参照し入力をお願いします。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

注意 (自立運転について)

自立運転時は浴槽の排水栓を抜く

自立運転中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。



確認

お願い

自立運転専用コンセントが設けられていることを確認する

停電時にエネファームで発電した電気を使用するには、自立運転専用コンセントが必要です。

「エネファーム type S 停電時自立発電専用」と表示のあるコンセントが、自立運転専用コンセントです。

断水時は給水・給湯栓を使用しない

自立運転時に断水状態*のまま水やお湯を使用されますと、発電ユニットが異常停止します。

* 断水状態：停電などの理由により、ご家庭への給水が停止している状態

- 発電ユニットが発電中に停電した場合は、自立運転機能により発電を継続しますので、発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。
 - 発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、ガスの供給が停止している場合にも発電できません。以下の場合、発電ユニットは停止しています。
 - ・ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき（詳細は、27ページ「運転・停止について」をご参照ください。）
 - ・ お湯/暖房を10日以上使用しなかったとき自動的に不在停止となります。
 - ・ 機器保護運転をしているとき夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F03]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）
 - ・ 故障診断しているとき故障診断をしているとき、自動的に停止し一定時間停止したままの場合があります。
- 自立運転機能で使用できる電気の量は最大約700Wです。
 - ※ 熱源機で使用する電気の量も含まれますので、実際にご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。
- 自立運転時は自動的に自立運転専用コンセントに電気が供給されます。自立運転専用コンセントには「エネファーム type S 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。
 - ※ 自立運転専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに自立運転専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- 停電した場合でも 熱源機からのお湯を使用することができます。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

1. 計画停電時の対応

■ あらかじめ計画停電など停電が予定されている場合は、以下の操作を行うことで停電時に発電させることができます。

● ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは一時的に停止します*。
計画停電中の一時的な停止を避けるため、停電予定日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

* 詳細は、27ページ「運転・停止について」をご参照ください。

- ① リモコンで発電停止予定日までの日数をご確認ください。
- ② 停電予定期間中に次回停止がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（19ページ参照）により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了（発電状況表示部の ⚡ が交互表示され、約10～12時間後 ⚡ は消灯します。（発電状況表示については15ページを参照してください。））後連続24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器（給湯・床暖房など）を連続で最低70分停止してください。
- ③ 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が増えていることを確認し、遅くとも計画停電の4時間前までには「発電禁止からの再開」操作（17ページ参照）を実施ください。
停電期間中に次回停止がない場合は、特に操作は必要ありません。
※ ①および③は、リモコンの取扱説明書をご参照ください。

■ 自立運転ができない場合でも、発電ユニットの貯湯タンク内のお湯（水）を、雑用水として利用することができます。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

2. 停電が発生したときの対応

※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

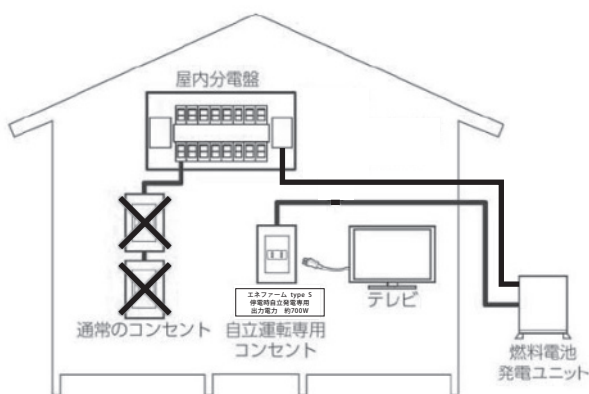
■ 2-1 [自立]の表示がされていることを確認する

- 停電してから約90秒*後に、[自立]の文字部が反転点滅表示になっていることを確認してください。
- 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力モードに切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。

* お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。(最大約10分間)



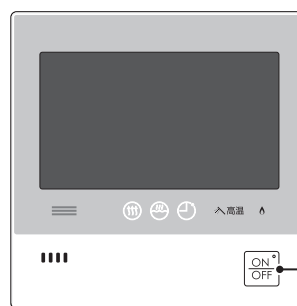
■ 2-2 電化製品の電源プラグを自立運転専用コンセントに差し込む



- 停電時は自立運転専用コンセントしか使うことができません。
- リモコン表示で発電量を確認しながら自立運転専用コンセントに使用したい電化製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が発電電力を越えた場合(過負荷)は、自立運転専用コンセントからの電気の供給が一時停止(約90秒~10分)します。一時停止後に自動的に電気の供給が再開します。ただし、過負荷2回目以降は、一時停止した後にリモコン表示内容に従ってリモコン操作を行う必要があります。
- 接続した電化製品の消費電力が発電量を越えないよう、運転状態をこまめに確認してください。

■ 2-3 過負荷復帰操作

「ON/OFF」スイッチでOFF-ONする。



ON/OFF
スイッチ

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

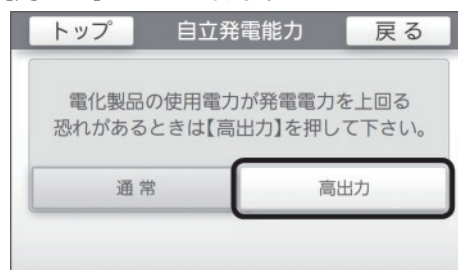
- 自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと自立出力を下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電化製品を使用されるときは下記手順で高出力モードに切り替えてください。

※ 低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げることがあります。

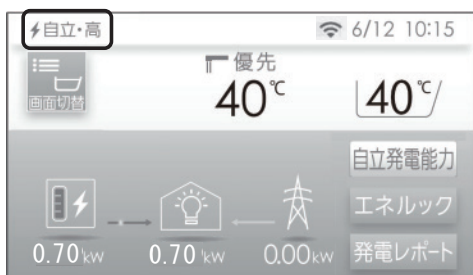
- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[自立発電能力]ボタンを押す。
([自立発電能力]ボタンは、高出力発電が可能となるときのみ表示されます。)



- ② [高出力]ボタンを押す。



- ③ 左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



- 高出力設定を通常に戻す場合
②の画面で[通常]ボタンを押します。



※ 通常モードに戻し忘れた場合は消費電力低下から約5分後に自動的に通常モードに戻ります。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

⚠ 注意

自立運転時は浴槽の排水栓を抜く

自立運転中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。



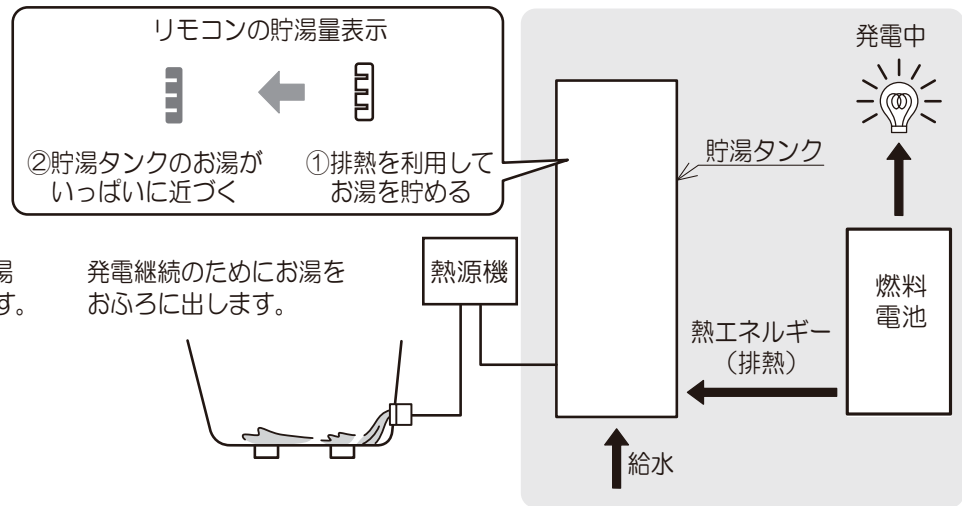
■ 排湯について

自立運転中は運転を継続するために排湯機能*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

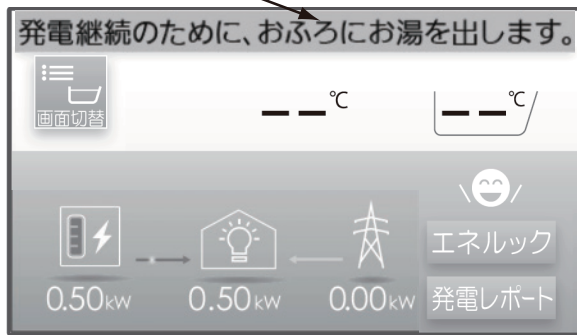
* 排湯機能とは…貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

貯湯量表示がいっぱいに近づくと、リモコンから「発電継続のためにお風呂にお湯を出します」と表示と音でお知らせし、お風呂にお湯を約20リットル出します。

※ 状況により複数回お湯を出す場合があります。



排湯メッセージ



排湯アナウンス

リモコンから表示と音でお知らせ

お知らせ

- お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- 自立時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

①浴室リモコンの給湯トップ画面で[ふろ機能]をタッチする。

②[たし湯]をタッチする。



停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

⚠ 警告

自立運転専用コンセントには以下の機器を接続しない

自立運転専用コンセントには停電時だけ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。途中で電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれがある以下の機器には接続しないでください。

- ・ 全ての医療機器
- ・ 灯油を用いた暖房機器
- ・ 炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- ・ バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器および周辺機器
- ・ 冷蔵庫のような連続的に電力の供給が必要な機器
- ・ その他、電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれのある機器
- ・ 最大電力が700W以上になる機器

主な電化製品の消費電力

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電化製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。(冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどは使用できません。)

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯の充電器	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	75
液晶テレビ32型	150		
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
電気炊飯器	1100	ヘアードライヤ	1200

⇒ご使用できません

⚠ 注意

ガスファンヒータの使用について

- ・ ガスファンヒータのご使用中は、部屋の換気にご注意ください。
必ず1時間に1~2回(各1~2分)、窓を開けるなどして換気を行ってください。
- ・ 自立運転専用コンセントで使用できる電力が少なく、ガスファンヒータを使用すると過負荷が発生するおそれがある場合は使用しないでください。
- ・ ガスファンヒータ運転中に停電が発生すると、ガスファンヒータの冷却が正常に行われず、温風の吹き出し口や機器背面(エアフィルタ部や取っ手部分)が高温になり、手で触れるとやけどのおそれがあります。
- ・ 自立運転専用コンセントでガスファンヒータを使用しているときに異常を感じた場合は、ただちにガス栓を閉じてガスファンヒータの使用を中止し、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。



確認



禁止



確認



確認

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

お知らせ

- 停電時に使用可能な電力は
熱源機の消費電力(数十W*1)と合わせて最大で約700Wです。消費電力の合計が発電量を超えないように注意してください。
*1 凍結予防など運転状態によって消費電力が変わりますので、リモコンの発電量と消費電力を確認しながらお使いください。
- 電化製品の電源を入れたとき
電化製品の種類によっては、一時的に使用できない場合があります。使用負荷によって過負荷を検知し、自立運転専用コンセントからの電気の供給が停止することがあります。
これらの場合は最後につないだ電化製品のコードを抜いた状態で電気の供給停止後、約90秒(発電ユニットの状態によっては10分程度必要になる場合があります)ほど待ち、リモコンON/OFFスイッチをOFFからON後、使用できるようになります。(31ページ参照)
- 自立運転開始直後は
発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電化製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電化製品のコードをさしてください。
- 自立運転中に発電を停止させたい場合は、
リモコン操作により[発電禁止]で停止させてください。ただし、停電が復旧するまで再使用(発電)できません。
操作方法は、19ページ「発電ユニットの停止方法」をご参照ください。
- 自立運転中は、
発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- 断水状態*2時は、使用できる電気量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
 - ・自立コンセントで使用する負荷が小さい場合
 - ・発電ユニットの蓄熱量が多い場合*2 断水状態 停電などの理由により、ご家庭への給水が停止している状態
- 以下の場合には自立運転を停止する場合があります。
 - ・外気温が高く発電ユニット内水温が高い場合※ 停止防止のために貯湯タンクのお湯を利用ください。
- 自立運転中は運転を継続するためにセット構成の場合は、自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

リモコンの操作説明

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について説明いたします。
その他のリモコンの詳細機能についてはリモコン取扱説明書を参照願います。

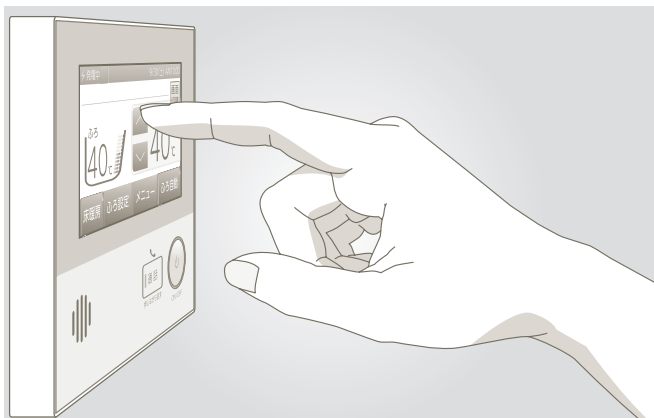
1. 各部のなまえとはたらき（台所リモコン）



- ①「ON/OFF」スイッチ・ランプ
- ・給湯器の運転「入」「切」の操作に使用します。
 - ・「入」でランプが点灯します。
 - ・画面を表示させたり消したりするときに使用します。

2. 表示画面（タッチパネル）の操作の基本

- このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- 圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度力で確実にタッチしてください。

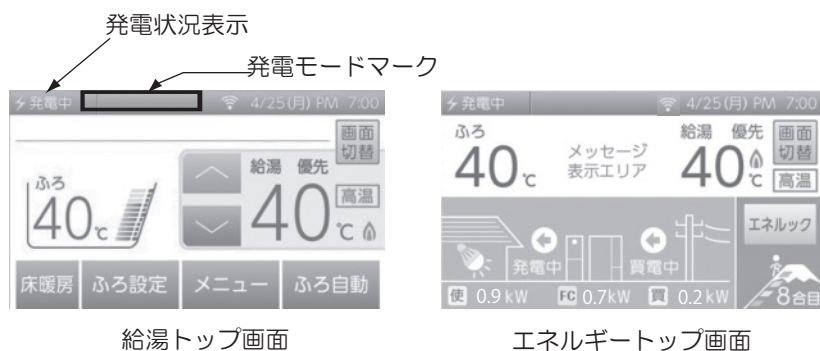


試運転操作については工事説明書を参照ください。

※ 説明中のリモコン表示画面は一例です。

実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコンの操作説明



給湯トップ画面

エネルギートップ画面

3. 発電状況表示の見かた

そのときの発電状態や、発電の設定を表示します。

表示		状態
⚡ (点灯)		発電しています。
 表示部が回転		起動中(発電準備中)です。
⊖		発電停止の動作中です。
		(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは発電停止の動作中または停止しています。 ^{※1}
(表示なし)		発電ユニットは停止しています。
⊘ 禁発電		発電を強制的に禁止しています。
⊗ 発電		発電ユニットが使用できない場合に表示します。
逆潮流の場合	電圧抑制 ^{※2}	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
自立運転機能付の場合	自立	自立運転しています。
	自立・高	高出力モード (53 ページ) で自立運転しています。

※1 電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

※2 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

4. 発電モードマークの見かた

	タンクリフレッシュ運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
	ガスマイコンメーター確認マーク (Mマーク)	この表示は約24時間出ます。その間発電ユニットは停止し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認します*。24時間停止後は自動で運転を再開します。ただし、ガスのご使用状況や機器の動作状況により、リモコンに[01900]を表示し、停止を継続する場合があります。その場合は106ページを参照し、処置を行ってください。 *詳細は48ページ「運転・停止について」をご参照ください。
	凍結予防マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。

運転モード (リモコン)

基本操作の説明

1. 発電ユニットの水張り方法

下記の場合に実施してください。

- 断水時に湯（水）を使用された場合
- エラー表示部に[81F01]、[82F01]が表示された場合
- 貯湯タンクを洗浄する場合

①リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプが消える）、液晶画面部にタッチしてください。

②トップ画面より[メニュー]を選択してください。



③メニュー画面より[メンテナンス]を選択してください。



④メンテナンス画面より[発電ユニット水張り]を選択してください。



⑤[開始]ボタンを押してください。



⑥12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水バルブ・熱源機メンテ用バルブを開けてください。（44ページ参照）

⑦給湯栓を開けてください。

⑧給湯栓から空気が出なくなったら給湯栓を閉めてから、[確認]ボタンを押してください。



給湯栓 屋内の給湯蛇口です。

停止する場合

①屋内の給湯栓を閉めてから、[中止]を押してください。
[戻る]を押すと前の画面に戻ります。



⑨12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

基本操作の説明

2. 発電ユニットの起動方法

■ 2-1. 発電禁止からの再開（41ページ「■ 3-1」（発電禁止）で停止させた場合）

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



② メニュー画面より[発電]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[発電禁止]を選択してください。



④ 発電禁止設定画面より[発電許可]ボタンを押してください。



発電ユニットが起動をはじめます。

■ 2-2. 不在停止からの再開（42ページ「■ 3-2」（不在停止）で停止させた場合）

下記いずれかの方法で再開します。

- ・ リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作をする。
- ・ 不在停止設定後5時間以上経過している場合は、リモコンの液晶画面をタッチする。
- ・ 熱源機による暖房を行う。
- ・ 不在停止設定後5時間未満の場合は、メニュー画面から再開操作をする。

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



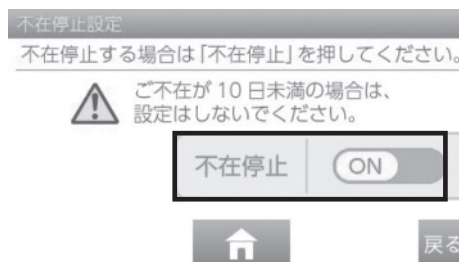
② メニュー画面より[発電]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[不在停止]を選択してください。



④ 不在停止設定画面より[ON]ボタンを押してください。



表示が[OFF]に変わり発電ユニットが起動をはじめます。

基本操作の説明

■ 2-3. 発電再開からの再開

(48ページ「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」で停止している場合)

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



(イラストは待機状態を表示)

② メニュー画面より[発電]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[発電再開]を選択してください。



④ 下記画面を5秒程度表示します。



トップ画面に移行し、発電ユニットが起動をはじめます。

■ 2-4. 発電の継続

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



(イラストは待機状態を表示)

② メニュー画面より[発電]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[発電継続]を選択してください。



④ 下記画面を5秒程度表示します。



トップ画面に移行し、翌月も発電を継続します。

基本操作の説明

3. 発電ユニットの停止方法

※ お客さま操作により、頻繁に起動・停止(不在停止等)を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、不在停止機能のご使用は10回/年までを目安とし、10日以上不在にされる場合にご使用ください。

■ 3-1 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいときの停止方法(発電禁止)

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



② メニュー画面より[発電]を選択してください。



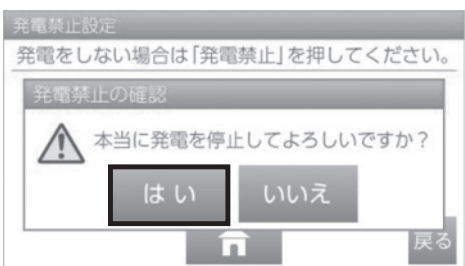
③ 発電メニュー画面より[発電禁止]を選択してください。



④ 発電禁止設定画面より[発電禁止]ボタンを押してください。



⑤ [はい]ボタンを押してください。



※ 約10~12時間後に発電表示は消灯し、リモコントップ画面の左上に[禁発電]と表示されます。

基本操作の説明

■ 3-2 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいときの停止方法（不在停止）

※1か月以上の長期不在時には、この方法に加えて水抜きが必要です。45ページを参考に水抜き操作を行ってください。

※ 10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房を使用しない場合、自動的に不在停止が[ON]になります。

※ 給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照ください。

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



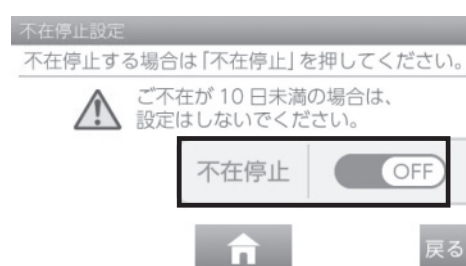
② メニュー画面より[発電]を選択してください。



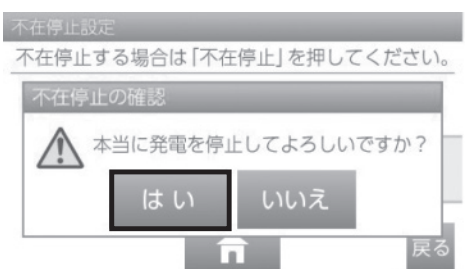
③ 発電メニュー画面より[不在停止]を選択してください。



④ 不在停止設定画面より[OFF]ボタンを押してください。



⑤ [はい]ボタンを押してください。



⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。

※ 不在停止設定を[ON]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの液晶画面のタッチで不在停止が解除されます。

※ 不在停止設定を[ON]にした後、お風呂または熱源機による暖房を使用されると、不在停止が解除されます。

基本操作の説明

4. 発電ユニットの貯湯タンク洗浄のための水抜き方法

※ 貯湯タンク洗浄には水抜きが必要となります。

※ この操作開始後水張り（38ページ参照）完了までは、熱源機を使用することはできません。

※ この水抜きでは、手順の途中でリモコンによる水抜き停止ボタンを操作しますが、その後も手順書に沿って、エア抜き栓、排水バルブの操作を行ってください。

⚠ 注意

水抜き時タンク排水配管には触れない

場合によってはお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。



※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑦）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑧～⑨）を行ってください。

①リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチする。

②トップ画面より[メニュー]を選択してください。

③メニュー画面より[メンテナンス]を選択してください。



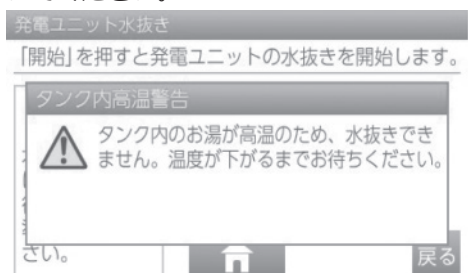
④メンテナンス画面より[発電ユニット水抜き]を選択してください。

⑤[開始]ボタンを押してください。



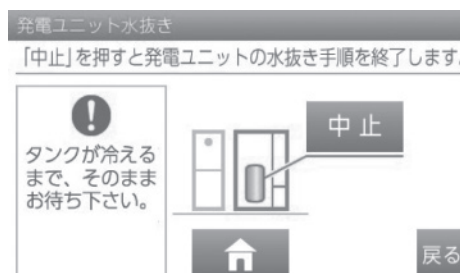
※ タンク内水温が下がると⑥に移行します。停止を押すとトップ画面に移行します。停止させない場合は、停止ボタンを押さないでください。

タンク内
高温時



※ タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。

5秒後



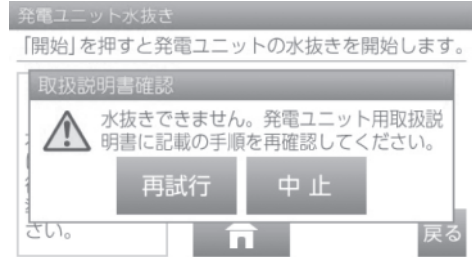
基本操作の説明

- ⑥タンク内水温が下がりましたので、リモコンによる水抜きを中止してください。



タンク内部
温度冷却後

- ※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合

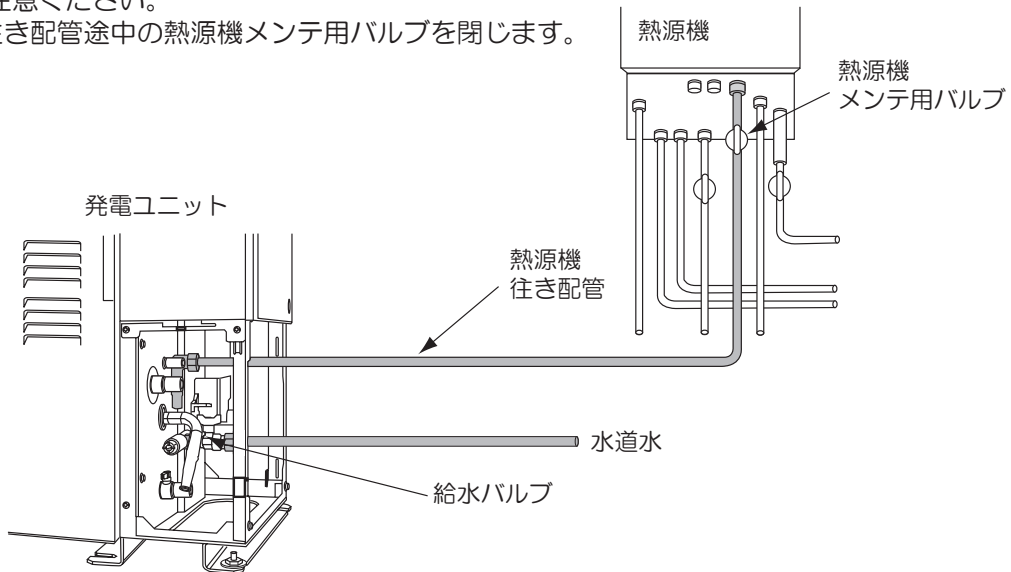


水抜きは、発電ユニットが停止状態のみ受け付けます。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

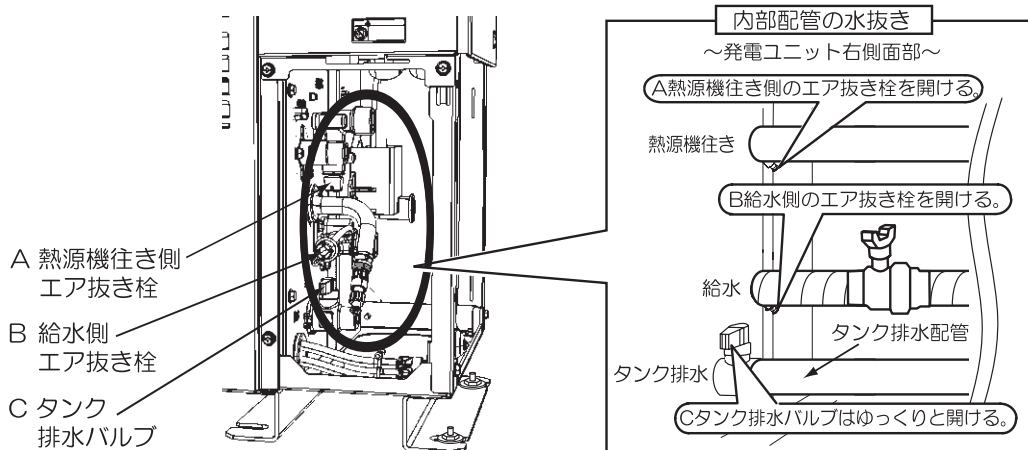
- ⑦自動的にトップ画面に切り替わります。

- ⑧トップ画面移行後次の操作をしてください。

- ・12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外します。
- ・給水バルブを閉じます。
※ 給水バルブを閉じずに以降の操作をすると、ユニット内部機器の寿命が著しく短くなりますのでご注意ください。
- ・熱源機行き配管途中の熱源機メンテ用バルブを閉じます。



- ・Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- ・B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を反時計回りに3回転させます。



- ⑨タンク排水配管より湯（水）が出なくなったら、B給水側（下側）、A熱源機行き側（上側）のエア抜き栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。
- ⑩12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

基本操作の説明

5. 長期間使用しない場合の発電ユニットの水抜き方法

- 旅行等のため、10日以上使用しないときは、リモコンで「不在停止」にし、発電ユニットを停止させてください。（手順は42ページを参照ください。）
- 1か月以上不在にされる場合もしくは1か月未満でも電源が確保できないことに加えて凍結のおそれがある場合（気温が氷点下になる可能性がある場合）は、下記の発電ユニット水抜き方法に従い水抜きを実施してください。水抜きをしないと故障の原因となります。（お手数ですがお客さまで実施ください。）また、熱源機の水抜きも必ず実施してください。手順は熱源機の取扱説明書をご参照ください。
- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 引越しをされる場合は、その2～3日前までに販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 水抜きを実施する場合は、前日までに発電停止による停止操作を行ってください。

⚠ 注意

水抜き時タンク排水配管には触れない

場合によってはお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。



※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑥）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑦～⑩）を行ってください。

- ① リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチする。
- ② トップ画面より[メニュー]を選択してください。
- ③ メニュー画面より[メンテナンス]を選択してください。



- ④ メンテナンス画面より[発電ユニット水抜き]を選択してください。
- ⑤ [開始]ボタンを押してください。



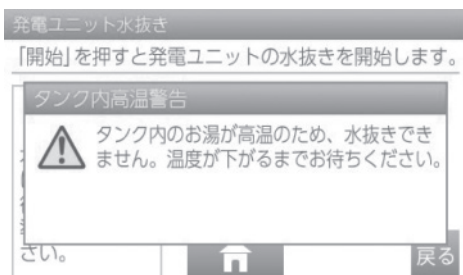
タンク内高温時

※ タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。

基本操作の説明

※ タンク内水温が下がると⑥に移行します。
[停止]を押すとトップ画面に移行します。
停止させない場合は、[停止]ボタンを押さないでください。

⑥ タンク内水温が下がりましたので、12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をしてください。



タンク内部
温度冷却後



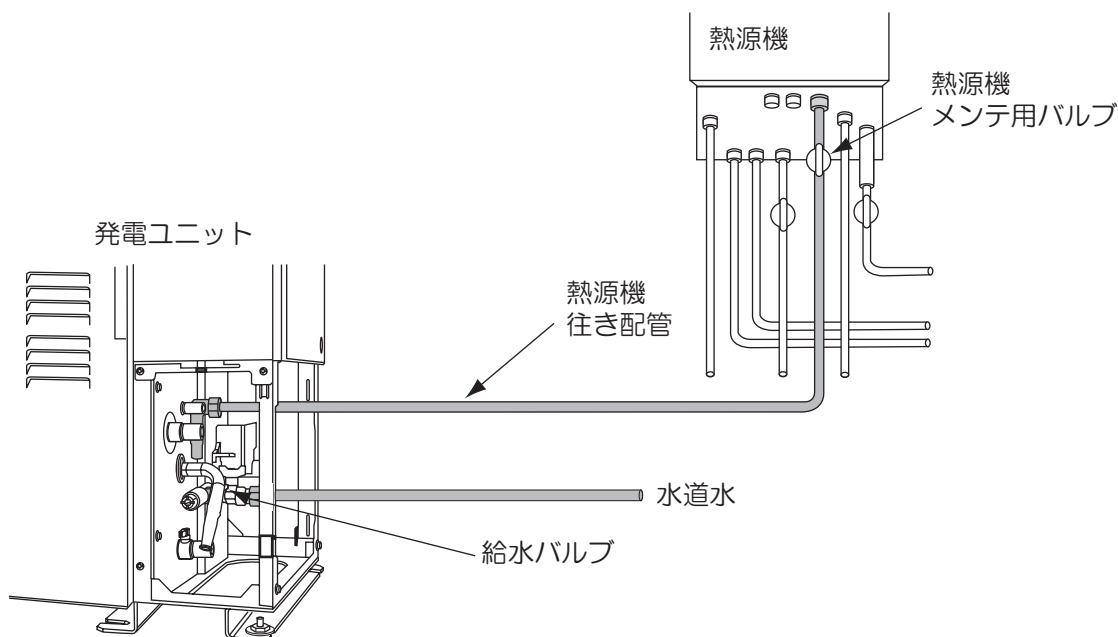
水抜きが完了すると、メイン画面に自動的に移行します。

※ 30分経過しても水抜きが終了しない場合は、[中止]ボタンを押して水抜きを停止し、A~F（47ページ参照）のバルブまたはプラグが開いていることを確認後、再度①より実施してください。

水抜きを停止したい場合は[停止]ボタンを押すと、次ページの※1に移行します。

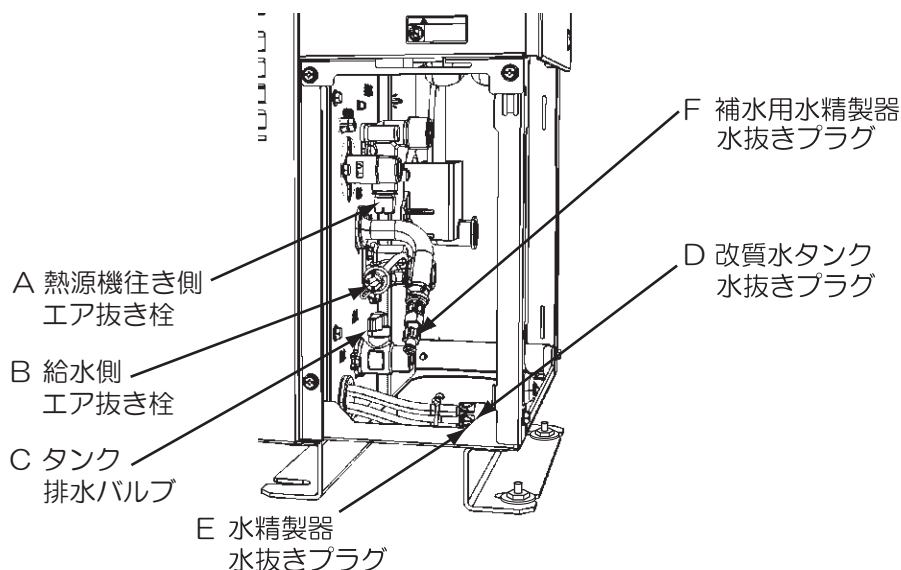
⑦ 下記バルブの操作をしてください。

- ・ 給水バルブを閉じます。
※ 給水バルブを閉じずに以降の操作をすると、ユニット内部機器の寿命が著しく短くなりますのでご注意ください。
- ・ 熱源機行き配管途中の熱源機メンテ用バルブを閉じます。



基本操作の説明

- ・Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- ・B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を反時計回りに3回転させます。



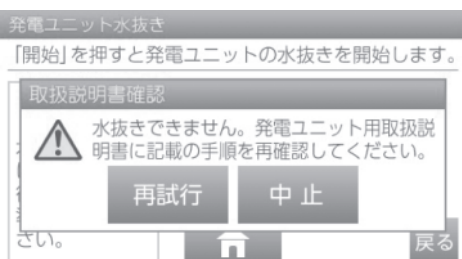
- ⑧D改質水タンク水抜きプラグとE水精製器水抜きプラグ、F補水用水精製器水抜きプラグ計3か所を反時計回りに1回転させ、改質水を抜きます。
(全て排水されるまで、約10分かかります。)
- ⑨リモコンの画面がメイン画面に移行し、タンク排水配管およびD、E、Fの水抜きプラグから水が出なくなったことを確認し、D、E、Fの水抜きプラグを時計回りに回して締めてください。
※ 30分経過してもトップ画面に移行しない場合は、水抜きを中止し、各バルブ確認後、再度手順①より実施してください。
- ⑩B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。
- ⑪発電ユニットと熱源機のガス栓を閉じ、屋内分電盤の専用ブレーカを「OFF」にします。
- ⑫12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

※1 水抜き途中停止方法

[中止]ボタンを押してください。



※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合



水抜きは、発電ユニットが停止状態のみ受け付けます。
発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

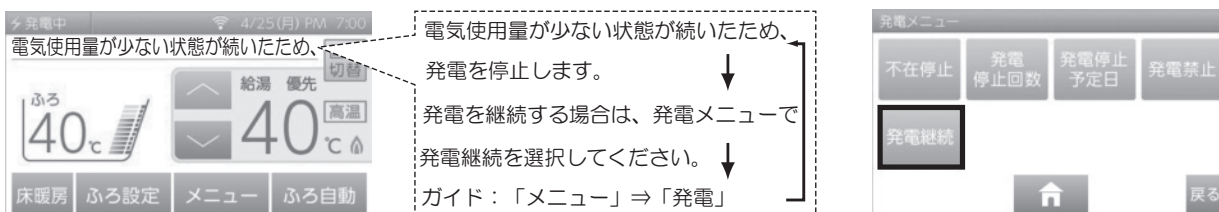
運転・停止について

1. 以下の場合、発電ユニットは停止します。

- ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき
ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日連続して運転した場合、27日目に約24時間停止する仕組みとなっており、その停止期間中リモコンにMマークが表示されます。（約24時間停止した後、発電ユニットは自動で運転を再開します。）
ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



- リモコン操作・お湯・暖房の使用が10日以上使用しなかったとき
自動的に不在停止となります。
- 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F03]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）
- 故障診断をしているとき
リモコンに[発電ユニットセルフチェック実施中]を表示し一定時間停止したままの場合があります。
- 電気使用量が少ない状態が続いたとき
 - 月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのお知らせ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合は発電メニューで発電継続を選択してください。」のメッセージが24時間表示され、翌月は自動停止します。
 - 翌月も発電を継続したい場合は、発電メニュー画面より[発電継続]を選択してください。



- 停止後発電ユニットを起動したい場合は、発電再開操作（40ページ参照）を実施してください。
- 停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

2. 以下の場合、発電ユニットは発電出力を下げます。

- 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。
- 低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器保護のために発電出力を自動的に下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWIに下げる場合があります。

運転・停止について

3. 停電のときは

- 発電中に停電した場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
自立運転機能により発電を継続します。
発電した電気は自立運転専用コンセントより出力します。（停電してから約90秒後に出力開始します。）
（50～56ページ参照）
- 発電中に停電した場合（標準モデルのお客さまの場合）
停電中は、アイドル状態になり、復旧待機しています（最長5時間）。ガス、水は閉めないでください。
※ 復旧後約5分で発電が開始します。また、お客さまの発電ユニットの運転状態によっては停電中に停止する場合があります。
※ アイドリング状態とは、運転をしていますが発電電力を出力していない（OW）状態のことです。
- 停電が復旧した場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
自立運転を終了し、通常運転に約5分後自動的に切り替わります。
※ 自立運転専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- 待機中・起動中・停止中に停電した場合
停電中は起動しません。

4. 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっている場合の対応

- 停電が事前に分かっている場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
＜事前準備＞
事前準備は特にありません。
ただし、停電予定期間中に発電をさせたい場合は、51ページの事前準備を行ってください。
＜停電復旧後＞
必要な操作は特にありません。
- 停電が事前に分かっている場合（標準モデルのお客さまの場合）
＜事前準備＞
停電する半日以上前に「発電禁止」操作（41ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
＜停電復旧後＞
「発電禁止からの再開」操作（39ページ参照）を行ってください。
- 断水が事前に分かっている場合
＜事前準備＞
事前準備は特にありません。
※ 断水中は、発電が停止する場合がありますため、お湯、水を使用しないでください。
＜水道復旧後＞
給水栓（レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて）を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。
- ガス停止が事前に分かっている場合
＜事前準備＞
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作（41ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
＜ガス復旧後＞
「発電禁止からの再開」操作（39ページ参照）を行ってください。

5. 緊急時などガス栓を閉にした場合、屋内分電盤の専用ブレーカをOFFした場合

- 再使用前に、13ページの「ご使用前の確認」を行ってください。

6. 暗証番号

- 機器を設置業者からお客さまに引き渡しする際、お客さまに登録していただく番号です。
- 機器に通電していない状態が24時間以上続いた場合は、再通電後に暗証番号を入力する必要があります。
- ※ 暗証番号を入力しない場合は、発電ユニットは起動しません。暗証番号は、リモコンの取扱説明書を参照し入力をお願いします。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

注意 (自立運転について)

自立運転時は浴槽の排水栓を抜く

自立運転中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。



お願い

自立運転専用コンセントが設けられていることを確認する

停電時にエネファームで発電した電気を使用するには、自立運転専用コンセントが必要です。

「エネファーム type S 停電時自立発電専用」と表示のあるコンセントが、自立運転専用コンセントです。

断水時は給水・給湯栓を使用しない

自立運転時に断水状態*のまま水やお湯を使用されますと、発電ユニットが異常停止します。

* 断水状態：停電などの理由により、ご家庭への給水が停止している状態

- 発電ユニットが発電中に停電した場合は、自立運転機能により発電を継続しますので、発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。
 - 発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、ガスの供給が停止している場合にも発電できません。以下の場合、発電ユニットは停止しています。
 - ・ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき（詳細は、48ページ「運転・停止について」をご参照ください。）
 - ・ お湯/暖房を10日以上使用しなかったとき自動的に不在停止となります。
 - ・ 機器保護運転をしているとき夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F03]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）
 - ・ 故障診断しているとき故障診断をしているとき、自動的に停止し一定時間停止したままの場合があります。
- 自立運転機能で利用できる電気の量は最大約700Wです。
 - ※ 熱源機で使用する電気の量も含まれますので、実際にご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。
- 自立運転時は自動的に自立運転専用コンセントに電気が供給されます。自立運転専用コンセントには「エネファーム type S 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。
 - ※ 自立運転専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに自立運転専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- 停電した場合でも熱源機からのお湯を使用することができます。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

1. 計画停電時の対応

- あらかじめ計画停電など停電が予定されている場合は、以下の操作を行うことで停電時に発電させることができます。
 - ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは一時的に停止します*。
計画停電中の一時的な停止を避けるため、停電予定日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。
* 詳細は、48ページ「運転・停止について」をご参照ください。
 - ① リモコンで発電停止予定日までの日数をご確認ください。
 - ② 停電予定期間中に次回停止がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（41ページ参照）により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了（発電状況表示部が[⊖停止中][⊙禁発電]の交互表示から、約10～12時間後[⊙禁発電]の固定表示になります。（発電状況表示については37ページを参照してください。））後連続24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器（給湯・床暖房など）を連続で最低70分停止してください。
 - ③ 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が増えていることを確認し、遅くとも計画停電の4時間前までには「発電禁止からの再開」操作（39ページ参照）を実施ください。
停電期間中に次回停止がない場合は、特に操作は必要ありません。
※ ①および③は、リモコンの取扱説明書をご参照ください。
-
- 自立運転ができない場合でも、発電ユニットの貯湯タンク内のお湯（水）を、雑用水として利用することができます。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

2. 停電が発生したときの対応

※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

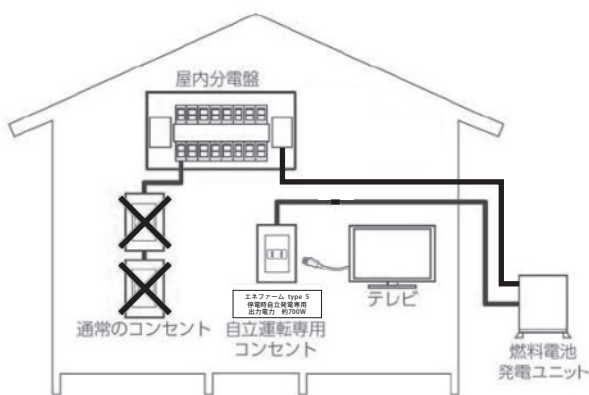
■ 2-1 [自立]の表示がされていることを確認する

- 停電してから約90秒*後に、[自立]の文字が表示されていることを確認してください。
- 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力モードに切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。

* お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。(最大約10分間)



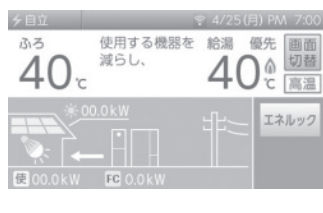
■ 2-2 電化製品の電源プラグを自立運転専用コンセントに差し込む



- 停電時は自立運転専用コンセントしか使うことができません。
- リモコン表示で発電量を確認しながら自立運転専用コンセントに使用したい電化製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が発電電力を越えた場合(過負荷)は、自立運転専用コンセントからの電気の供給が一時停止(約90秒~10分)します。一時停止後に自動的に電気の供給が再開します。ただし、過負荷2回目以降は、一時停止した後にリモコン表示内容に従ってリモコン操作を行う必要があります。
- 接続した電化製品の消費電力が発電量を超えないよう、運転状態をこまめに確認してください。

■ 2-3 過負荷復帰操作

「ON/OFF」スイッチでOFF-ONする。



停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

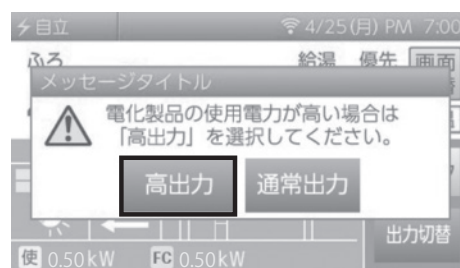
- 自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと自立出力を下げる場合があります。消費電力の大きい（ただし合計しても700Wをこえない）電化製品を使用されるときは下記手順で高出力モードに切り替えてください。

※ 低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[出力切替]ボタンを押す。
（[出力切替]ボタンは、高出力発電が可能なおとぎのみ表示されます。）



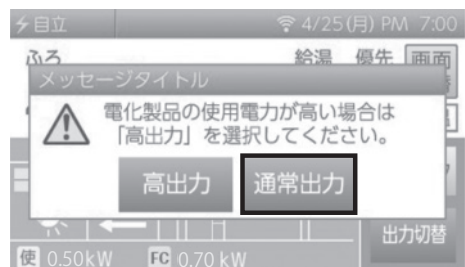
- ② [高出力]ボタンを押す。



- ③ 左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



- 高出力設定を通常に戻す場合
②の画面で[通常出力]ボタンを押します。



※ 通常モードに戻し忘れた場合は消費電力低下から約5分後に自動的に通常モードに戻ります。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

⚠ 注意

自立運転時は浴槽の排水栓を抜く

自立運転中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。



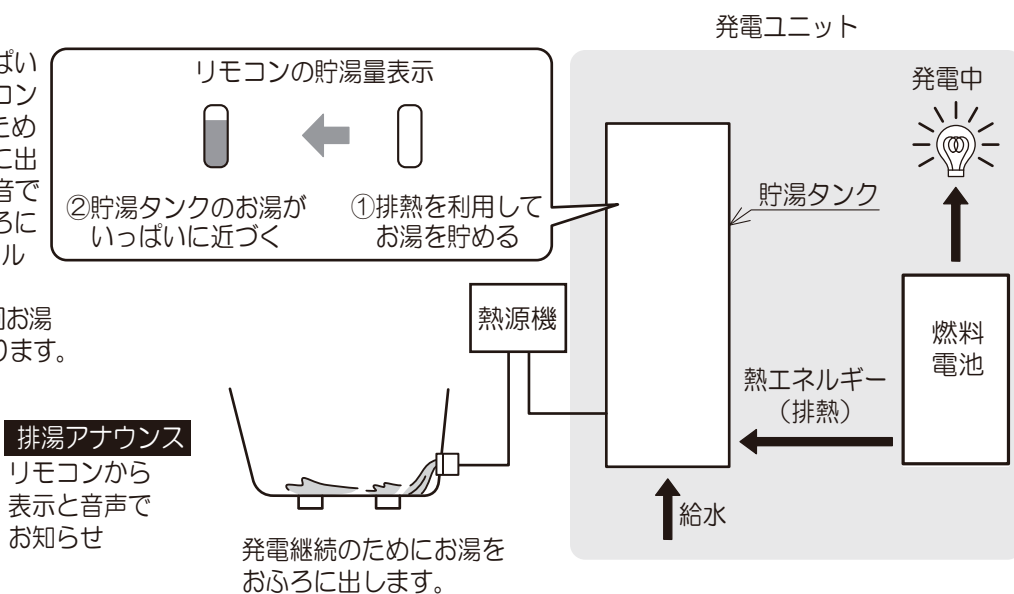
■ 排湯について

自立運転中は運転を継続するために排湯機能*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

* 排湯機能とは…貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音声でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

貯湯量表示がいっぱいに近づく、リモコンから「発電継続のために、お湯をお風呂に出します」と表示と音でお知らせし、お風呂にお湯を約24リットル出します。

※ 状況により複数回お湯を出す場合があります。



排湯メッセージ



お知らせ

- お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

⚠ 警告

自立運転専用コンセントには以下の機器を接続しない

自立運転専用コンセントには停電時だけ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。途中で電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれがある以下の機器には接続しないでください。

- ・ 全ての医療機器
- ・ 灯油を用いた暖房機器
- ・ 炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- ・ バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器および周辺機器
- ・ 冷蔵庫のような連続的に電力の供給が必要な機器
- ・ その他、電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれのある機器
- ・ 最大電力が700W以上になる機器

主な電化製品の消費電力

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電化製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。(冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどは使用できません。)

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯の充電器	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	75
液晶テレビ32型	150		
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
電気炊飯器	1100	ヘアードライヤ	1200

⇒ご使用できません

⚠ 注意

ガスファンヒータの使用について

- ・ ガスファンヒータのご使用中は、部屋の換気にご注意ください。
必ず1時間に1~2回(各1~2分)、窓を開けるなどして換気を行ってください。
- ・ 自立運転専用コンセントで使用できる電力が少なく、ガスファンヒータを使用すると過負荷が発生するおそれがある場合は使用しないでください。
- ・ ガスファンヒータ運転中に停電が発生すると、ガスファンヒータの冷却が正常に行われず、温風の吹き出し口や機器背面(エアフィルタ部や取っ手部分)が高温になり、手で触れるとやけどのおそれがあります。
- ・ 自立運転専用コンセントでガスファンヒータを使用しているときに異常を感じた場合は、ただちにガス栓を閉じてガスファンヒータの使用を中止し、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。



確認



禁止



確認



確認

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

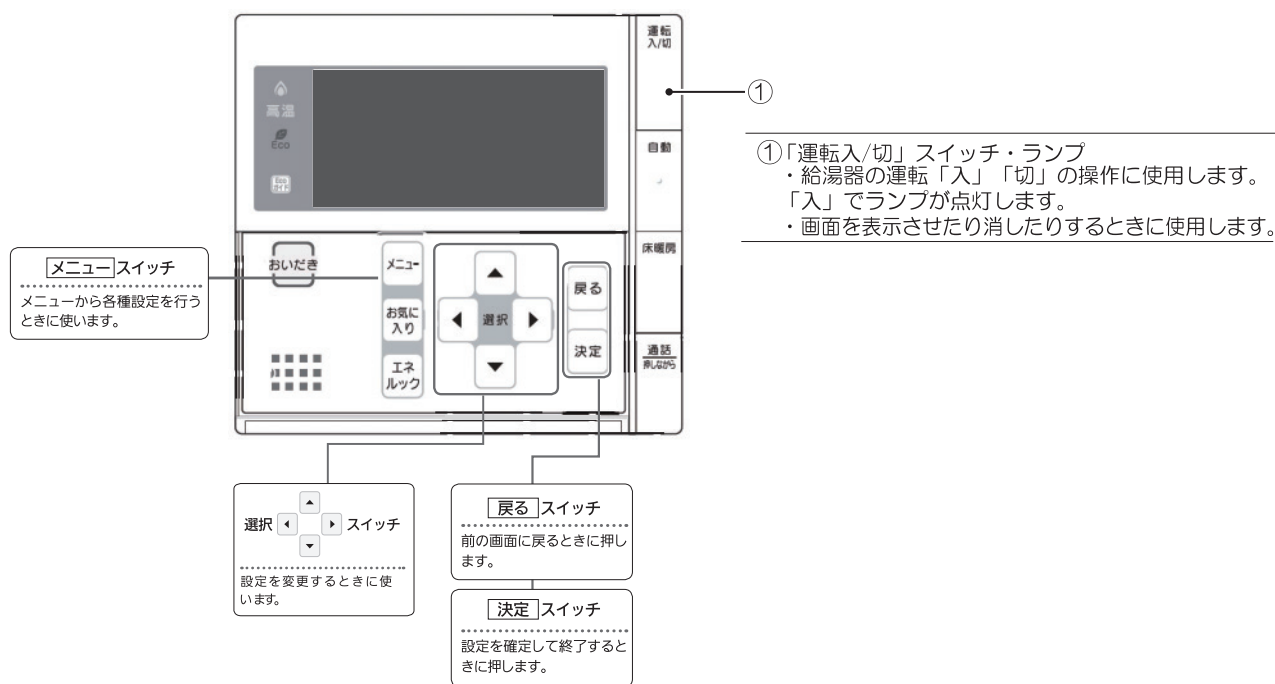
お知らせ

- 停電時に使用可能な電力は
熱源機の消費電力(数十W*1)と合わせて最大で約700Wです。消費電力の合計が発電量を超えないように注意してください。
*1 凍結予防など運転状態によって消費電力が変わりますので、リモコンの発電量と消費電力を確認しながらお使いください。
- 電化製品の電源を入れたとき
電化製品の種類によっては、一時的に使用できない場合があります。使用負荷によって過負荷を検知し、自立運転専用コンセントからの電気の供給が停止することがあります。
これらの場合は最後につないだ電化製品のコードを抜いた状態で電気の供給停止後、約90秒(発電ユニットの状態によっては10分程度必要になる場合があります)ほど待ち、リモコンON/OFFスイッチをOFFからON後、使用できるようになります。(52ページ参照)
- 自立運転開始直後は
発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電化製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電化製品のコードをさしてください。
- 自立運転中に発電を停止させたい場合は、
リモコン操作により[発電禁止]で停止させてください。ただし、停電が復旧するまで再使用(発電)できません。
操作方法は、41ページ「発電ユニットの停止方法」をご参照ください。
- 自立運転中は、
発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- 断水状態*2時は、使用できる電気量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
 - ・自立コンセントで使用する負荷が小さい場合
 - ・発電ユニットの蓄熱量が多い場合*2 断水状態 停電などの理由により、ご家庭への給水が停止している状態
- 以下の場合には自立運転を停止する場合があります。
 - ・外気温が高く発電ユニット内水温が高い場合※ 停止防止のために貯湯タンクのお湯を利用ください。
- 自立運転中は運転を継続するためにセット構成の場合は、自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

リモコンの操作説明

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について説明いたします。
その他のリモコンの詳細機能についてはリモコン取扱説明書を参照願います。

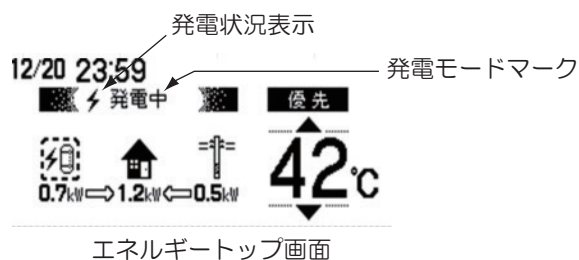
1. 各部のなまえとはたらき（台所リモコン）



試運転操作については工事説明書を参照ください。

※ 説明中のリモコン表示画面は一例です。

リモコンの操作説明



2. 発電状況表示の見かた

そのときの発電状態や、発電の設定を表示します。

	発電しています。
	起動中(発電準備中)です。
 (交互表示)	発電停止の動作中です。
 (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。 ^{※1}
	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。 ^{※1}
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

※1 電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています。	
起動中	起動中(発電準備中)です。	
停止中	発電停止の動作中です。	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。	
発電禁止	発電を強制的に禁止しています。	
発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します。	
逆潮流の場合	電圧抑制 ^{※2}	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
自立運転機能付の場合	自立 ↔ 自立 (交互表示)	自立運転しています。
	自立・高 ↔ 自立・高 (交互表示)	高出力モード(74ページ)で自立運転しています。

※2 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

3. 発電モードマークの見かた

	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
	ガスマイコンメーター 確認マーク (Mマーク)	この表示は約24時間出ます。その間発電ユニットは停止し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認します*。24時間停止後は自動で運転を再開します。ただし、ガスのご使用状況や機器の動作状況により、リモコンに[01900]を表示し、停止を継続する場合があります。その場合は106ページを参照し、処置を行ってください。 *詳細は69ページ「運転・停止について」をご参照ください。
	凍結予防マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。

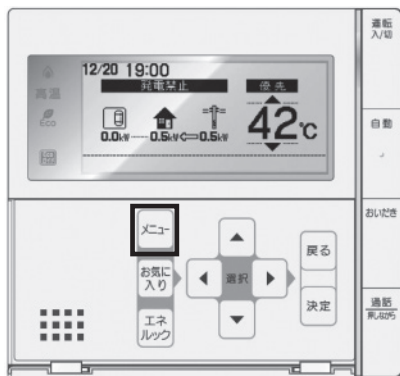
基本操作の説明

1. 発電ユニットの水張り方法

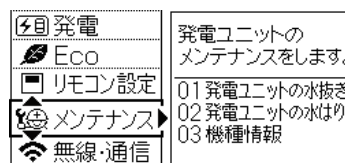
下記の場合に実施してください。

- 断水時に湯（水）を使用された場合
- エラー表示部に[81F01]、[82F01]が表示された場合
- 貯湯タンクを洗浄する場合

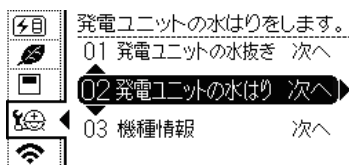
① 「メニュー」ボタンを押してください。



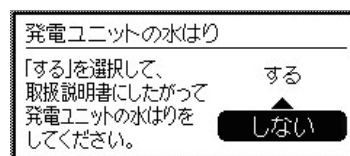
② ▲または▼で[メンテナンス]を選択し ▶ または「決定」を押してください。



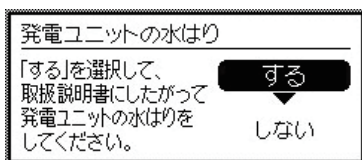
③ ▲または▼で[発電ユニットの水はり]を選択し ▶ または「決定」を押してください。



④ ▲を押してください。

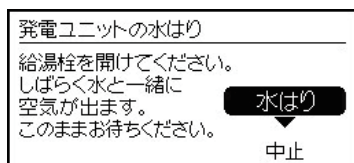


⑤ 「決定」を押してください

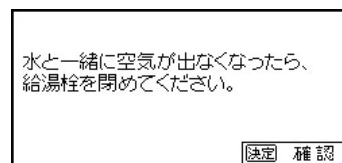


⑥ 12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水バルブ・熱源機メンテ用バルブを開けてください。（65ページ参照）

⑦ 屋内の給湯栓を開けてください



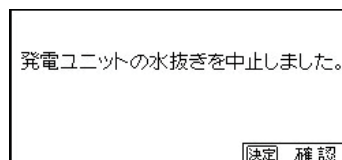
⑧ 給湯栓から空気が出なくなったら給湯栓を閉めてから、「決定」を押してください。



⑨ 12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

給湯栓 屋内の給湯蛇口です。停止する場合

- ① 屋内の給湯栓を閉めてから、上記画面の▼で[中止]を選択し「決定」を押してください。
- ② 「決定」を押してください。



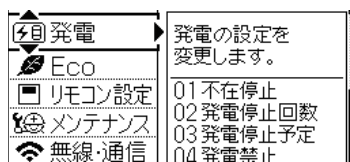
運転について
(リモコンの)

基本操作の説明

2. 発電ユニットの起動方法

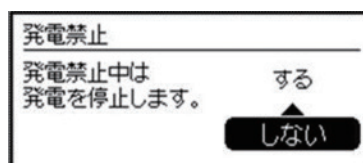
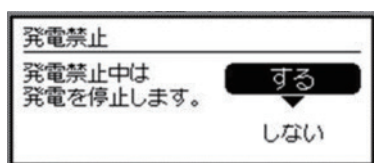
■ 2-1. 発電禁止からの再開（62ページ「■ 3-1」（発電禁止）で停止させた場合）

- ①「メニュー」ボタンを押してください。
- ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押してください。
- ③▲または▼で[発電禁止]を選択し▶または「決定」を押してください。



- ④▼を押してください。

- ⑤「決定」を押してください。



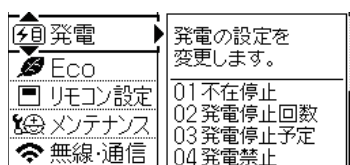
発電ユニットが起動をはじめます。

■ 2-2. 不在停止からの再開（63ページ「■ 3-2」（不在停止）で停止させた場合）

下記いずれかの方法で再開します。

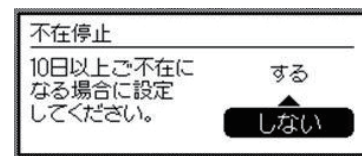
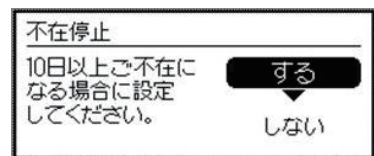
- ・リモコンの「入/切」スイッチの「入」操作をする。
- ・不在停止設定後5時間以上経過している場合は、リモコンのボタン（全てのボタンに対応）を押すと、3分後に発電ユニットが起動をはじめます。
- ・熱源機による暖房を行う。
- ・不在停止設定後5時間未満の場合は、メニュー画面から再開操作をする。

- ①「メニュー」ボタンを押してください。
- ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押してください。
- ③▲または▼で[不在停止]を選択し▶または「決定」を押してください。



- ④▼を押してください。

- ⑤「決定」を押してください。



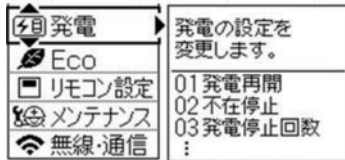
発電ユニットが起動をはじめます。

基本操作の説明

■ 2-3. 発電再開からの再開

(69ページ「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」で停止している場合)

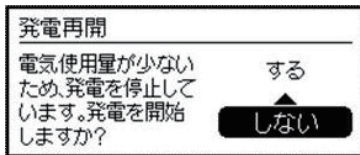
- ① 「メニュー」ボタンを押してください。
- ② ▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押してください。



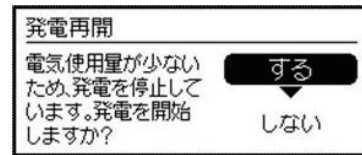
- ③ ▲または▼で[発電再開]を選択し▶または「決定」を押してください。



- ④ ▲を押してください。



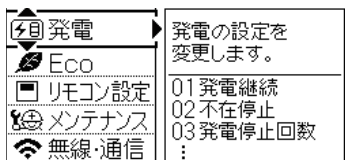
- ⑤ 「決定」を押してください。



発電ユニットが起動をはじめます。

■ 2-4. 発電の継続

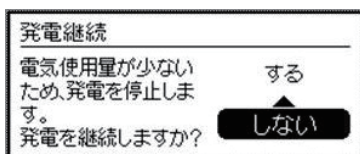
- ① 「メニュー」ボタンを押してください。
- ② ▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押してください。



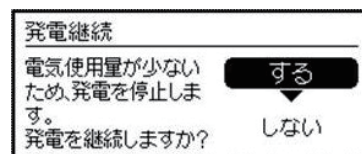
- ③ ▲または▼で[発電継続]を選択し▶または「決定」を押してください。



- ④ ▲を押してください。



- ⑤ 「決定」を押してください。



基本操作の説明

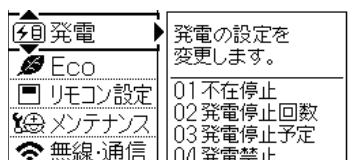
3. 発電ユニットの停止方法

※ お客さま操作により、頻繁に起動・停止(不在停止等)を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、不在停止機能のご使用は10回/年までを目安とし、10日以上不在にされる場合にご使用ください。

■ 3-1 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいときの停止方法（発電禁止）

① 「メニュー」ボタンを押してください。

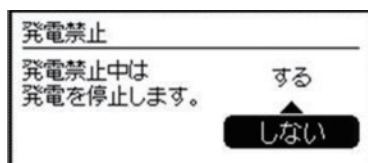
② ▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押してください。



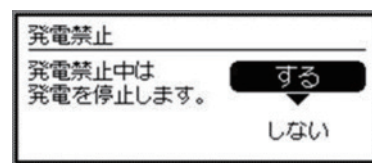
③ ▲または▼で[発電禁止]を選択し▶または「決定」を押してください。



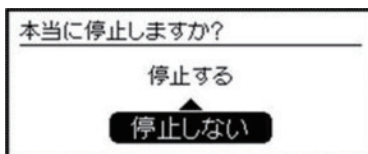
④ ▲を押してください。



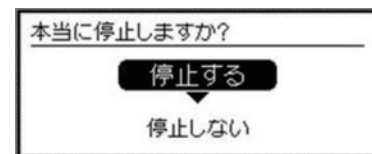
⑤ 「決定」を押してください。



⑥ ▲を押してください。



⑦ 「決定」を押してください。



基本操作の説明

■ 3-2 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいときの停止方法（不在停止）

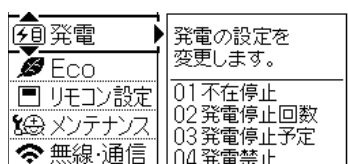
※1か月以上の長期不在時には、この方法に加えて水抜きが必要です。66ページを参考に水抜き操作を行ってください。

※ 10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房を使用しない場合、自動的に不在停止が[する]になります。

※ 給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照ください。

① 「メニュー」ボタンを押してください。

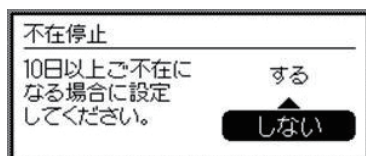
② ▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押してください。



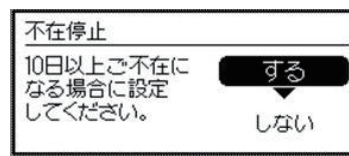
③ ▲または▼で[不在停止]を選択し▶または「決定」を押してください。



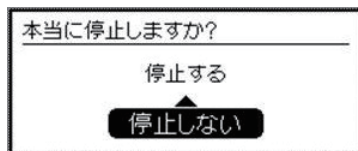
④ ▲を押してください。



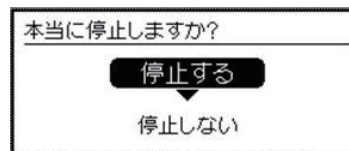
⑤ 「決定」を押してください。



⑥ ▲を押してください。



⑦ 「決定」を押してください。



⑧ 液晶画面が消え、「運転入/切」スイッチのランプが消灯します。

※ 不在停止設定を[する]にした後、リモコンの「入/切」ボタンを「入」操作、または5時間経過後は、リモコンの操作ボタン（全てのボタンに対応）を押すと、不在停止が解除されます。

※ 不在停止設定を[する]にした後、お風呂または熱源機による暖房を使用されると不在停止が解除されます。

基本操作の説明

4. 発電ユニットの貯湯タンク洗浄のための水抜き方法

※ 貯湯タンク洗浄には水抜きが必要となります。

※ この操作開始後水張り（59ページ参照）完了までは、熱源機を使用することはできません。

※ この水抜きでは、手順の途中にリモコンによる水抜き停止ボタンを操作しますが、その後も手順書に沿って、エア抜き栓、排水バルブの操作を行ってください。

⚠ 注意

水抜き時タンク排水配管には触れない

場合によってはお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



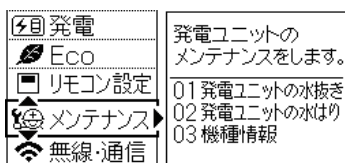
水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。

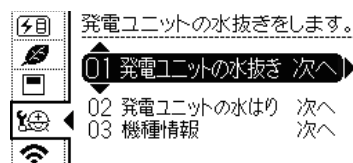


※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑧）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑨～⑩）を行ってください。

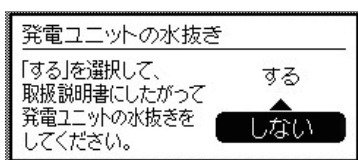
- ① 「メニュー」ボタンを押してください。
- ② ▲または▼で[メンテナンス]を選択し▶または「決定」を押してください。



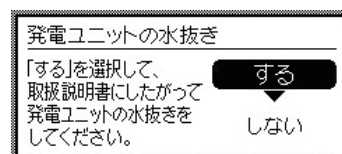
- ③ ▲または▼で[発電ユニットの水抜き]を選択し▶または「決定」を押してください。



- ④ ▲を押してください。



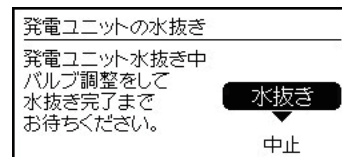
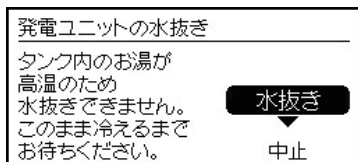
- ⑤ 「決定」を押してください。



※ タンク内水温が下がると⑥に移行します。
[中止]を選択して「決定」押すと、水抜きは中止されトップ画面に切り替わります。

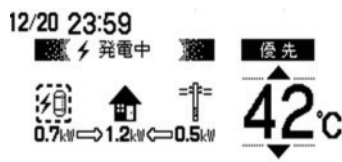
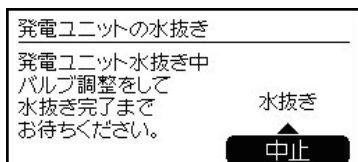
※ タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。

- ⑥ タンク内水温が水抜き可能温度です。▼を押してください。



- ⑦ 「決定」を押してリモコンによる水抜きを停止してください。

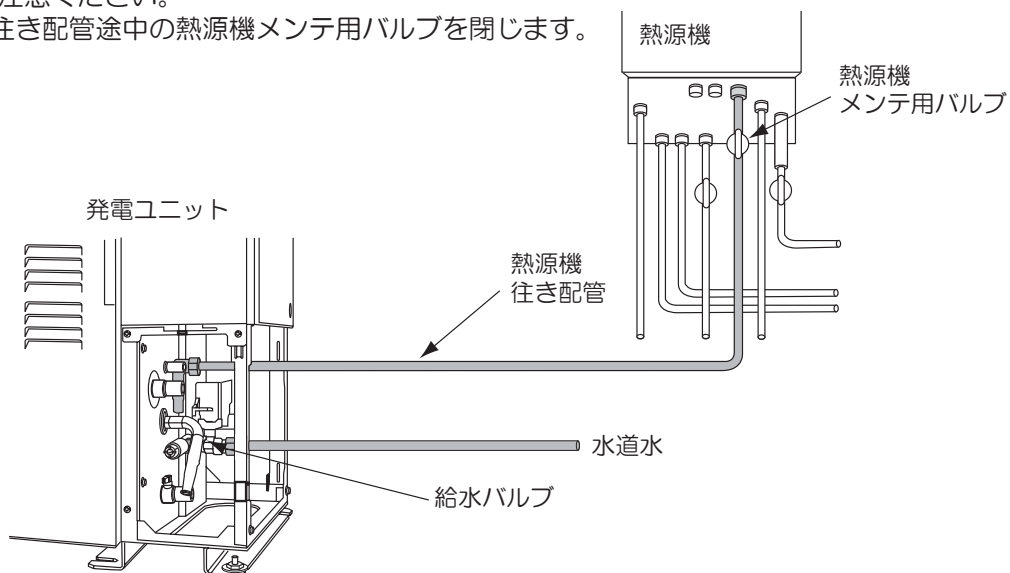
- ⑧ メンテナンス画面に切り替わった後、「メニュー」を押してください。



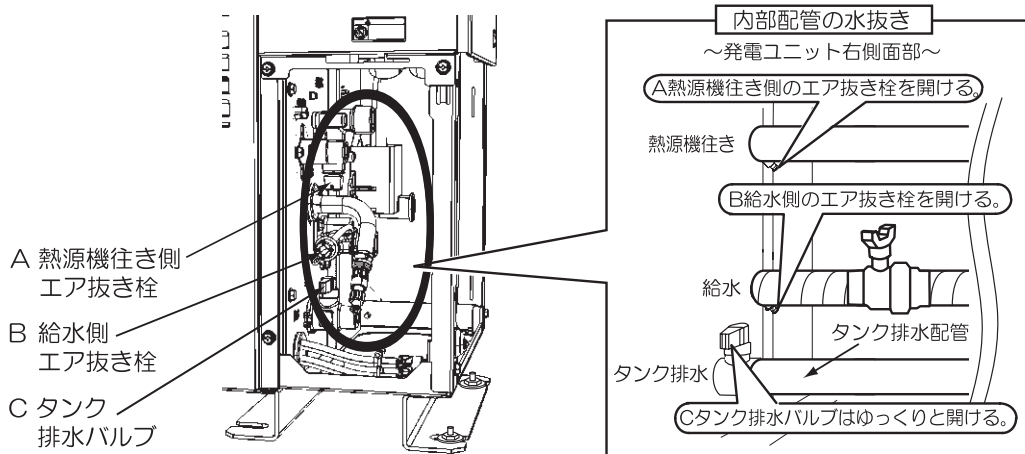
基本操作の説明

⑨ トップ画面移行後次の操作をしてください。

- ・ 12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外します。
- ・ 給水バルブを閉じます。
※ 給水バルブを閉じずに以降の操作をすると、ユニット内部機器の寿命が著しく短くなりますのでご注意ください。
- ・ 熱源機行き配管途中の熱源機メンテ用バルブを閉じます。



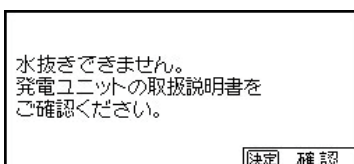
- ・ Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- ・ B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を反時計回りに3回転させます。



⑩ タンク排水配管より湯（水）が出なくなったら、B給水側（下側）、A熱源機行き側（上側）のエア抜き栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。

⑪ 12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合
(2秒程度表示レトップ画面に移行します。)



水抜きは、発電ユニットが停止状態のみ受け付けます。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

基本操作の説明

5. 長期間使用しない場合の発電ユニットの水抜き方法

- 旅行等のため、10日以上使用しないときは、リモコンで「不在停止」にし、発電ユニットを停止させてください。（手順は63ページを参照ください。）
- 1か月以上不在にされる場合もしくは1か月未満でも電源が確保できないことに加えて凍結のおそれがある場合（気温が氷点下になる可能性がある場合）は、下記の発電ユニット水抜き方法に従い水抜きを実施してください。水抜きをしないと故障の原因となります。（お手数ですがお客さまで実施ください。）また、熱源機の水抜きも必ず実施してください。手順は熱源機の取扱説明書をご参照ください。
- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 引越しをされる場合は、その2～3日前までに販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 水抜きを実施する場合は、前日までに発電禁止による停止操作を行ってください。

⚠ 注意

水抜き時タンク排水配管には触れない

場合によってはお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



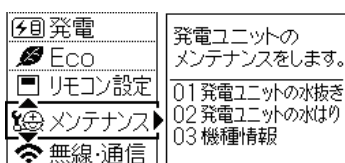
水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。

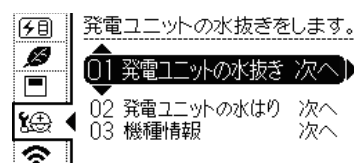


※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑥）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑦～⑩）を行ってください。

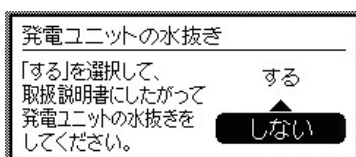
- ① 「メニュー」ボタンを押してください。
- ② ▲または▼で[メンテナンス]を選択し▶または「決定」を押してください。



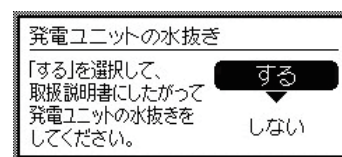
- ③ ▲または▼で[発電ユニットの水抜き]を選択し▶または「決定」を押してください。



- ④ ▲を押してください。



- ⑤ 「決定」を押してください。

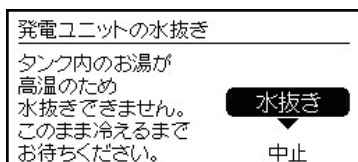


タンク内
高温時

※ タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。

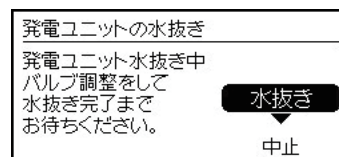
基本操作の説明

※ タンク内水温が下がると⑥に移行します。
[中止]を選択し「決定」を押すとトップ画面に移行します。



タンク内部
温度冷却後

⑥タンク内水温が下がりましたので、12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をしてください。



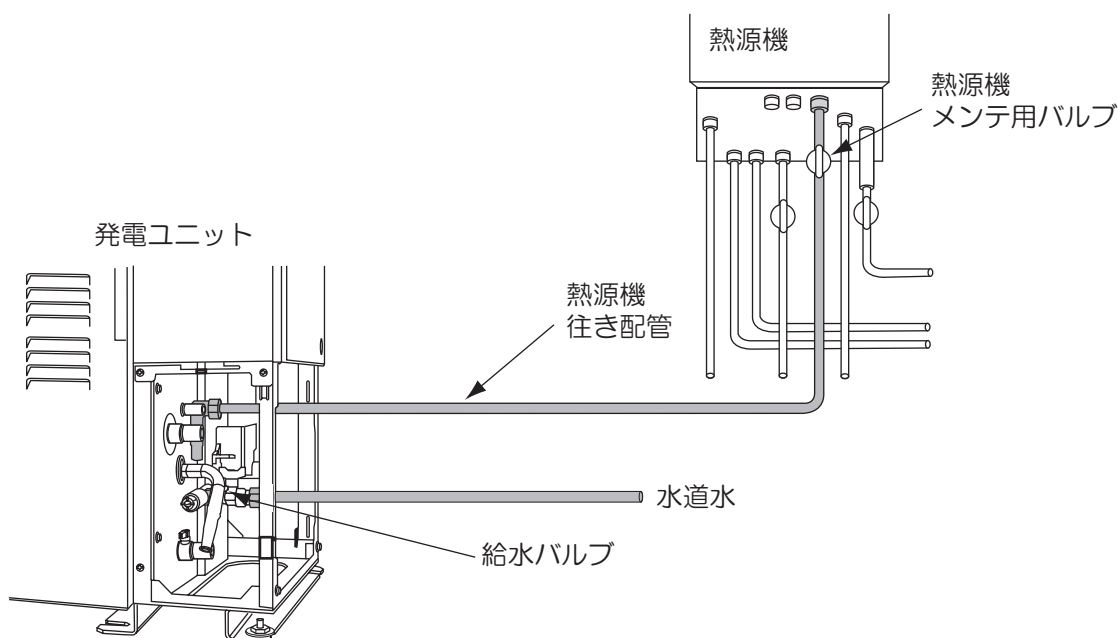
水抜きが完了すると、メイン画面に自動的に移行します。

※ 30分経過しても水抜きが終了しない場合は、[停止]ボタンを押して水抜きを停止し、A~F（68ページ参照）のバルブまたはプラグが開いていることを確認後、再度①より実施してください。

水抜きを停止したい場合は[中止]を選択して「決定」を押すとトップ画面に移行します。

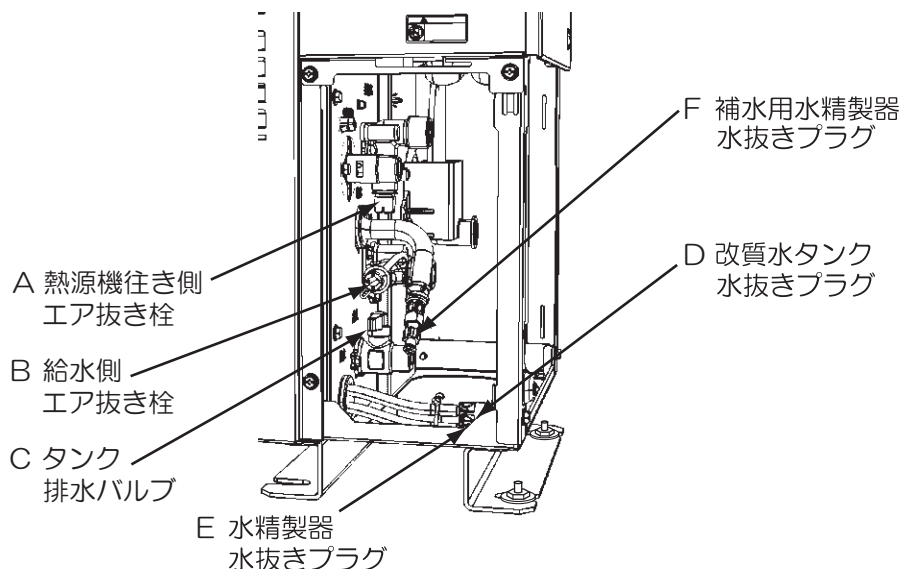
⑦下記バルブの操作をしてください。

- ・ 給水バルブを閉じます。
※ 給水バルブを閉じずに以降の操作をすると、ユニット内部機器の寿命が著しく短くなりますのでご注意ください。
- ・ 熱源機行き配管途中の熱源機メンテ用バルブを閉じます。



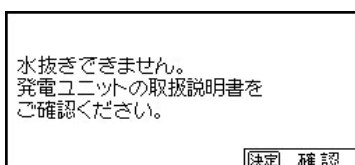
基本操作の説明

- ・Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- ・B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を反時計回りに3回転させます。



- ⑧D改質水タンク水抜きプラグとE水精製器水抜きプラグ、F補水用水精製器水抜きプラグ計3か所を反時計回りに1回転させ、改質水を抜きます。
(全て排水されるまで、約10分かかります。)
- ⑨リモコンの画面がメイン画面に移行し、タンク排水配管およびD、E、Fの水抜きプラグから水が出なくなったことを確認し、D、E、Fの水抜きプラグを時計回りに回して締めてください。
※ 30分経過してもトップ画面に移行しない場合は、水抜きを中止し、各バルブ確認後、再度手順①より実施してください。
- ⑩B給水側、A熱源機行きのエア抜き栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。
- ⑪発電ユニットと熱源機のガス栓を閉じ、屋内分電盤の専用ブレーカを「OFF」にします。
- ⑫12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合
(2秒程度表示しトップ画面に移動する)



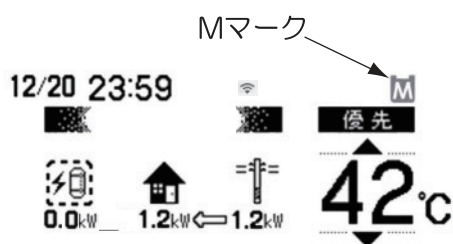
水抜きは、発電ユニットが停止状態のみ受け付けます。
発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

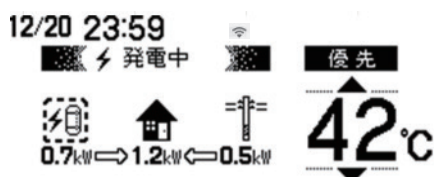
運転・停止について

1. 以下の場合、発電ユニットは停止します。

- ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき
ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日連続して運転した場合、27日目に約24時間停止する仕組みとなっており、その停止期間中リモコンにMマークが表示されます。（約24時間停止した後、発電ユニットは自動で運転を再開します。）
ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



- リモコン操作・お湯・暖房の使用が10日以上使用しなかったとき
自動的に不在停止となります。
- 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F03]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）
- 故障診断をしているとき
リモコンに[発電ユニットセルフチェック実施しています]を表示し一定時間停止したままの場合があります。
- 電気使用量が少ない状態が続いたとき
 - 月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのお知らせ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合は【メニュー】→【発電】より発電継続を選択してください。」のメッセージが24時間表示され、翌月は自動停止します。
 - 翌月も発電を継続したい場合は、発電継続を選択してください。



電気使用量が少ない状態が続いたため ←——— メッセージ表示部
(メッセージが右から左にながれる)

- 停止後発電ユニットを起動したい場合は、発電再開操作（61ページ参照）を実施してください。
- 停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

2. 以下の場合、発電ユニットは発電出力を下げます。

- 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。
- 低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器保護のために発電出力を自動的に下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間0Wに下げる場合があります。

運転・停止について

3. 停電のときは

- 発電中に停電した場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
自立運転機能により発電を継続します。
発電した電気は自立運転専用コンセントより出力します。（停電してから約90秒後に出力開始します。）
（71～77ページ参照）
- 発電中に停電した場合（標準モデルのお客さまの場合）
停電中は、アイドル状態になり、復旧待機しています（最長5時間）。ガス、水は閉めないでください。
※ 復旧後約5分で発電が開始します。また、お客さまの発電ユニットの運転状態によっては停電中に停止する場合があります。
※ アイドリング状態とは、運転をしていますが発電電力を出力していない（OW）状態のことです。
- 停電が復旧した場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
自立運転を終了し、通常運転に約5分後自動的に切り替わります。
※ 自立運転専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- 待機中・起動中・停止中に停電した場合
停電中は起動しません。

4. 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっている場合の対応

- 停電が事前に分かっている場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
 - <事前準備>
事前準備は特にありません。
ただし、停電予定期間中に発電をさせたい場合は、72ページの事前準備を行ってください。
 - <停電復旧後>
必要な操作は特にありません。
- 停電が事前に分かっている場合（標準モデルのお客さまの場合）
 - <事前準備>
停電する半日以上前に「発電禁止」操作（62ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
 - <停電復旧後>
「発電禁止からの再開」操作（60ページ参照）を行ってください。
- 断水が事前に分かっている場合
 - <事前準備>
事前準備は特にありません。
※ 断水中は、発電が停止する場合がありますため、お湯、水を使用しないでください。
 - <水道復旧後>
給水栓（レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて）を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。
- ガス停止が事前に分かっている場合
 - <事前準備>
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作（62ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
 - <ガス復旧後>
「発電禁止からの再開」操作（60ページ参照）を行ってください。

5. 緊急時などガス栓を閉にした場合、屋内分電盤の専用ブレーカをOFFした場合

- 再使用前に、13ページの「ご使用前の確認」を行ってください。

6. 暗証番号

- 機器を設置業者からお客さまに引き渡しする際、お客さまに登録していただく番号です。
- 機器に通電していない状態が24時間以上続いた場合は、再通電後に暗証番号を入力する必要があります。
- ※ 暗証番号を入力しない場合は、発電ユニットは起動しません。暗証番号は、リモコンの取扱説明書を参照し入力をお願いします。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

注意 (自立運転について)

自立運転時は浴槽の排水栓を抜く

自立運転中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。



確認

お願い

自立運転専用コンセントが設けられていることを確認する

停電時にエネファームで発電した電気を使用するには、自立運転専用コンセントが必要です。

「エネファーム type S 停電時自立発電専用」と表示のあるコンセントが、自立運転専用コンセントです。

断水時は給水・給湯栓を使用しない

自立運転時に断水状態*のまま水やお湯を使用されますと、発電ユニットが異常停止します。

* 断水状態：停電などの理由により、ご家庭への給水が停止している状態

- 発電ユニットが発電中に停電した場合は、自立運転機能により発電を継続しますので、発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。
 - 発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、ガスの供給が停止している場合にも発電できません。以下の場合、発電ユニットは停止しています。
 - ・ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき (詳細は、69ページ「運転・停止について」をご参照ください。)
 - ・ お湯/暖房を10日以上使用しなかったとき 自動的に不在停止となります。
 - ・ 機器保護運転をしているとき 夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード [O3F00]、[O3F03]、[O3F07]、[O8F00] を表示することもあります。故障ではありません。(停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。)
 - ・ 故障診断しているとき 故障診断をしているとき、自動的に停止し一定時間停止したままの場合があります。
- 自立運転機能で利用できる電気の量は最大約700Wです。
 - ※ 熱源機で使用する電気の量も含まれますので、実際にご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。
- 自立運転時は自動的に自立運転専用コンセントに電気が供給されます。自立運転専用コンセントには「エネファーム type S 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。
 - ※ 自立運転専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに自立運転専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- 停電した場合でも 熱源機からのお湯を使用することができます。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

1. 計画停電時の対応

■ あらかじめ計画停電など停電が予定されている場合は、以下の操作を行うことで停電時に発電させることができます。

● ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは一時的に停止します*。
計画停電中の一時的な停止を避けるため、停電予定日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

* 詳細は、69ページ「運転・停止について」をご参照ください。

① リモコンで発電停止予定日までの日数をご確認ください。

② 停電予定期間中に次回停止がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（62ページ参照）により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了（発電状況表示部の⚡が交互表示され、約10～12時間後⚡は消灯します。（発電状況表示については58ページを参照してください。））後連続24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器（給湯・床暖房など）を連続で最低70分停止してください。

③ 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が増えていることを確認し、遅くとも計画停電の4時間前までには「発電禁止からの再開」操作（60ページ参照）を実施ください。

停電期間中に次回停止がない場合は、特に操作は必要ありません。

※ ①および③は、リモコンの取扱説明書をご参照ください。

■ 自立運転ができない場合でも、発電ユニットの貯湯タンク内のお湯（水）を、雑用水として利用することができます。

停電時に電気とお湯を使う

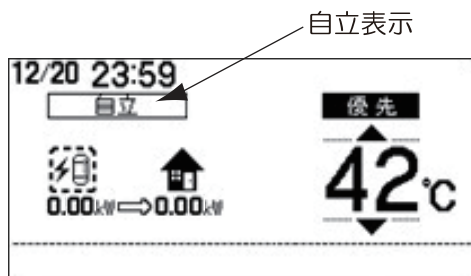
(自立運転機能付きのお客さまへ)

2. 停電が発生したときの対応

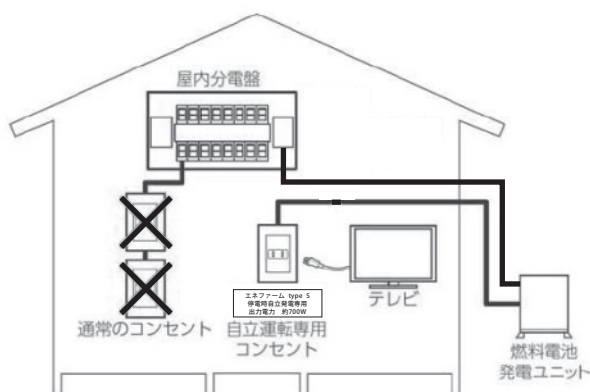
※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

■ 2-1 [自立]の表示がされていることを確認する

- 停電してから約90秒*後に、[自立]の文字部が反転点滅表示されていることを確認してください。
 - 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力モードに切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- * お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。(最大約10分間)



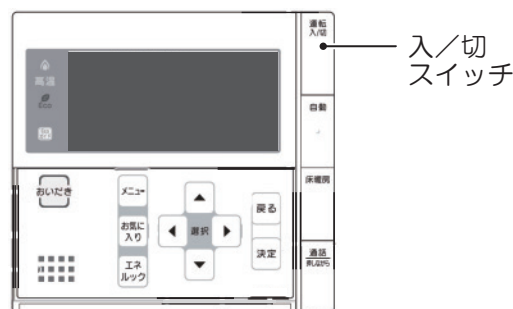
■ 2-2 電化製品の電源プラグを自立運転専用コンセントに差し込む



- 停電時は自立運転専用コンセントしか使うことができません。
- リモコン表示で発電量を確認しながら自立運転専用コンセントに使用したい電化製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が発電電力を越えた場合(過負荷)は、自立運転専用コンセントからの電気の供給が一時停止(約90秒~10分)します。一時停止後に自動的に電気の供給が再開します。ただし、過負荷2回目以降は、一時停止した後にリモコン表示内容に従ってリモコン操作を行う必要があります。
- 接続した電化製品の消費電力が発電量を越えないよう、運転状態をこまめに確認してください。

■ 2-3 過負荷復帰操作

「入/切」スイッチで入一切する。



停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

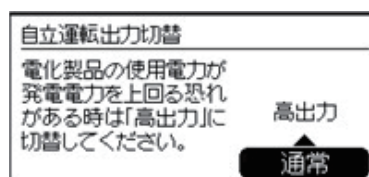
- 自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと自立出力を下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電化製品を使用されるときは下記手順で高出力モードに切り替えてください。

※ 低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

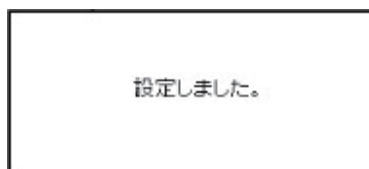
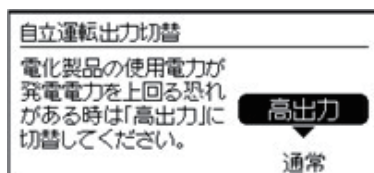
- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は▶を押してください。
([出力切替]は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)



- ② ▲を押してください。



- ③ 「決定」押してください。



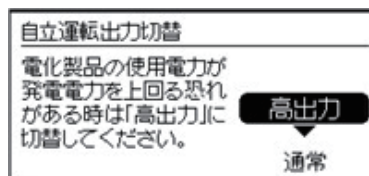
- ④ 左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



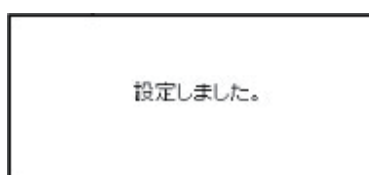
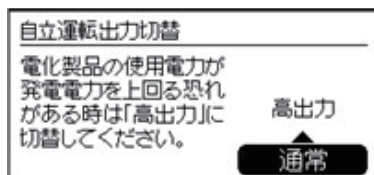
- 高出力設定を通常に戻す場合①▶を押してください。



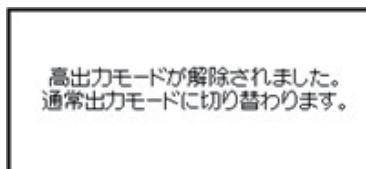
- ② ▼を押してください



- ③ 「決定」押してください。



※ 通常モードに戻し忘れた場合は消費電力低下から約5分後に自動的に出力を下げます。その場合は右画面が表示されます。



停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

⚠ 注意

自立運転時は浴槽の排水栓を抜く

自立運転中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。



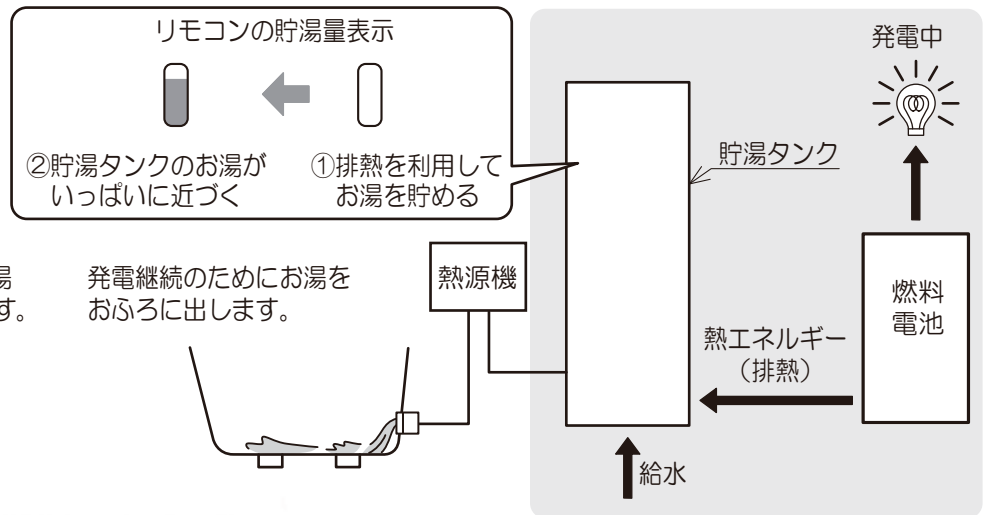
■ 排湯について

自立運転中は運転を継続するために排湯機能*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

* 排湯機能とは…貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音声でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

貯湯量表示がいっぱいに近づく、リモコンから「発電継続のために、お湯をふろに出します」と表示と音でお知らせし、お風呂にお湯を約20リットル出します。

※ 状況により複数回お湯を出す場合があります。



12/20 23:59

自立 ▶ 出力切替

優先

0.55kW ⇄ 0.55kW

42℃

発電継続のために、お湯をふろに出します。

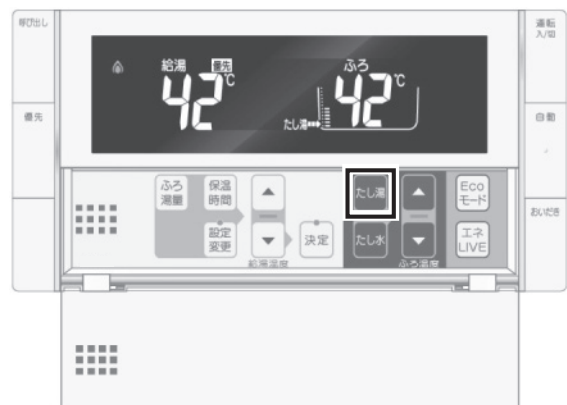
排湯メッセージ

排湯アナウンス

リモコンから表示と音声でお知らせ

お知らせ

- お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- 自立時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に繰り返し排湯を行うことがあります。
 - ①浴室リモコンの「たし湯」ボタンを押す。



停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

⚠ 警告

自立運転専用コンセントには以下の機器を接続しない

自立運転専用コンセントには停電時だけ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。途中で電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれがある以下の機器には接続しないでください。

- ・ 全ての医療機器
- ・ 灯油を用いた暖房機器
- ・ 炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- ・ バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器および周辺機器
- ・ 冷蔵庫のような連続的に電力の供給が必要な機器
- ・ その他、電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれのある機器
- ・ 最大電力が700W以上になる機器

主な電化製品の消費電力

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電化製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。(冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどは使用できません。)

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯の充電器	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	75
液晶テレビ32型	150		
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
電気炊飯器	1100	ヘアードライヤ	1200

⇒ご使用できません

⚠ 注意

ガスファンヒータの使用について

- ・ ガスファンヒータのご使用中は、部屋の換気にご注意ください。
必ず1時間に1~2回(各1~2分)、窓を開けるなどして換気を行ってください。
- ・ 自立運転専用コンセントで使用できる電力が少なく、ガスファンヒータを使用すると過負荷が発生するおそれがある場合は使用しないでください。
- ・ ガスファンヒータ運転中に停電が発生すると、ガスファンヒータの冷却が正常に行われず、温風の吹き出し口や機器背面(エアフィルタ部や取っ手部分)が高温になり、手で触れるとやけどのおそれがあります。
- ・ 自立運転専用コンセントでガスファンヒータを使用しているときに異常を感じた場合は、ただちにガス栓を閉じてガスファンヒータの使用を中止し、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。



停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

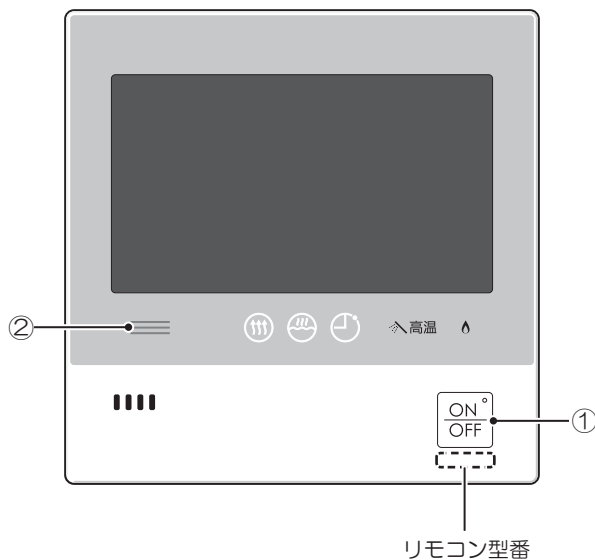
お知らせ

- 停電時に使用可能な電力は
熱源機の消費電力(数十W*1)と合わせて最大で約700Wです。消費電力の合計が発電量を超えないように注意してください。
*1 凍結予防など運転状態によって消費電力が変わりますので、リモコンの発電量と消費電力を確認しながらお使いください。
- 電化製品の電源を入れたとき
電化製品の種類によっては、一時的に使用できない場合があります。使用負荷によって過負荷を検知し、自立運転専用コンセントからの電気の供給が停止することがあります。
これらの場合は最後につないだ電化製品のコードを抜いた状態で電気の供給停止後、約90秒(発電ユニットの状態によっては10分程度必要になる場合があります)ほど待ち、リモコン「入/切」スイッチを切から入後、使用できるようになります。(73ページ参照)
- 自立運転開始直後は
発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電化製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電化製品のコードをさしてください。
- 自立運転中に発電を停止させたい場合は、
リモコン操作により[発電禁止]で停止させてください。ただし、停電が復旧するまで再使用(発電)できません。
操作方法は、62ページ「発電ユニットの停止方法」をご参照ください。
- 自立運転中は、
発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- 断水状態*2時は、使用できる電気量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
 - ・自立コンセントで使用する負荷が小さい場合
 - ・発電ユニットの蓄熱量が多い場合*2 断水状態 停電などの理由により、ご家庭への給水が停止している状態
- 以下の場合には自立運転を停止する場合があります。
 - ・外気温が高く発電ユニット内水温が高い場合※ 停止防止のために貯湯タンクのお湯を利用ください。
- 自立運転中は運転を継続するためにセット構成の場合は、自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

リモコンの操作説明

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について説明いたします。
その他のリモコンの詳細機能についてはリモコン取扱説明書を参照願います。

1. 各部のなまえとはたらき（発電リモコン）



- ①「ON/OFF」スイッチ・ランプ
- ・画面を表示させたり消したりするときに使用します。
 - ・画面を表示するとランプ点灯します。
 - ・不在停止中はランプ点滅します。

- ②発電ランプ
- ・発電ユニットで発電中に点灯します。
 - ・現在の使用電力の状態を、色で表します。

使用電力が多い

↑	オレンジ色 (節電お知らせ)	購入電力が増えています 節電してください。
1.2kW	青色	使用電力が少し増えて います。
0.7kW	緑色	発電ユニットの発電内で 上手に使用されています。
↓		少ない

- ・逆潮流の場合は、買電中か売電中かを表示します。

オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より多いので 買電しています。
青色	使用電力が発電電力より少ないので 売電しています。

2. 表示画面（タッチパネル）の操作の基本

- このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- 圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度の力で確実にタッチしてください。

表示がグレーになっている部分は、タッチしてもスイッチ操作できません。

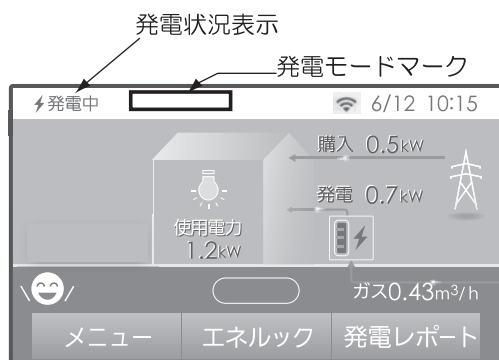


試運転操作については工事説明書を参照ください。

※ 説明中のリモコン表示画面は一例です。

実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコンの操作説明



3. 発電状況表示の見かた

そのときの発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中	
⚡ (点灯)	発電しています。
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です。
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です。
↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。 ^{※1}
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。 ^{※1}
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

※1 電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

	表示	状態
	発電中	発電しています。
	起動中	起動中(発電準備中)です。
	停止中	発電停止の動作中です。
	(表示なし)	発電ユニットは停止しています。
	発電禁止	発電を強制的に禁止しています。
	発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します。
逆流の場合	電圧抑制 ^{※2}	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
自立運転機能付の場合	⚡ 自立 ↔ ⚡ 自立 (交互表示)	自立運転しています。
	⚡ 自立・高 ↔ ⚡ 自立・高 (交互表示)	高出力モード(96ページ)で自立運転しています。

※2 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

4. 発電モードマークの見かた

↻	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
M	ガスマイコンメーター 確認マーク (Mマーク)	この表示は約24時間出ます。その間発電ユニットは停止し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認します*。24時間停止後は自動で運転を再開します。 ●この表示が出たら、午後7時から翌日午後1時までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で最低70分停止してください。 *詳細は91ページ「運転・停止について」をご参照ください。
凍結予防	凍結予防マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。

運転について
(発電リモコン)

基本操作の説明

1. 発電ユニットの水張り方法

下記の場合に実施してください。

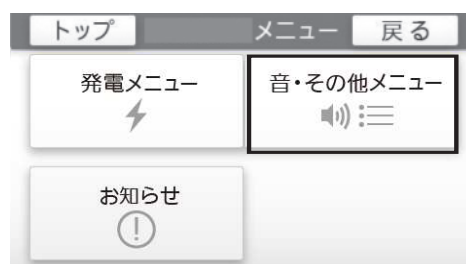
- 断水時に湯（水）を使用された場合
- エラー表示部に[81F01]、[82F01]が表示された場合
- 貯湯タンクを洗浄する場合

①リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプが消える）、液晶画面部にタッチしてください。

②トップ画面より[メニュー]を選択してください。



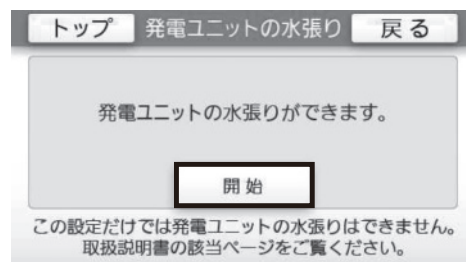
③メニュー画面より[音・その他メニュー]を選択してください。



④音・その他メニュー画面より[発電ユニットの水張り]を選択してください。

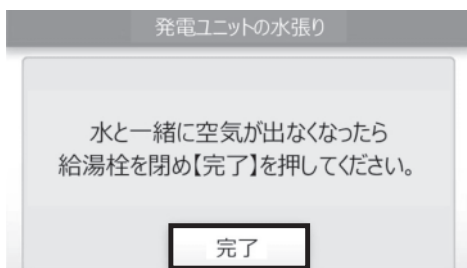


⑤[開始]ボタンを押してください。



⑥12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水バルブ・熱源機メンテ用バルブを開けてください。（86ページ参照）

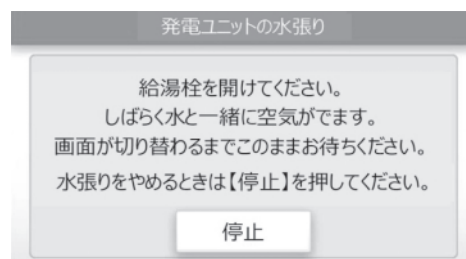
⑧給湯栓から空気が出なくなったら給湯栓を閉めてから、[完了]ボタンを押してください。



給湯栓 屋内の給湯蛇口です。

⑨12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

⑦屋内の給湯栓を開けてください。

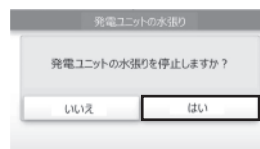


停止する場合

①屋内の給湯栓を閉めてから、上記画面の[停止]ボタンを押してください。

②[はい]ボタンを押してください。

[いいえ]ボタンを押すと前の画面に戻ります。



基本操作の説明

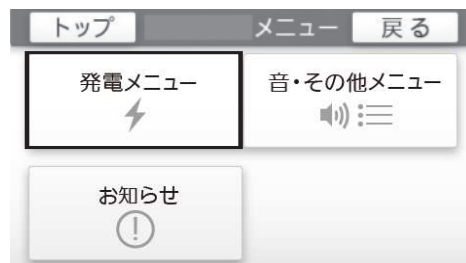
2. 発電ユニットの起動方法

■ 2-1. 発電禁止からの再開（83ページ「■ 3-1」（発電禁止）で停止させた場合）

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



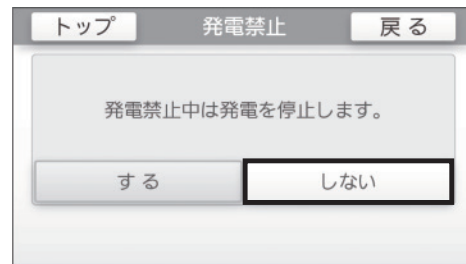
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[発電禁止]を選択してください。



④ 発電禁止画面より「しない」ボタンを押してください。



発電ユニットが起動をはじめます。

■ 2-2. 不在停止からの再開（84ページ「■ 3-2」（不在停止）で停止させた場合）

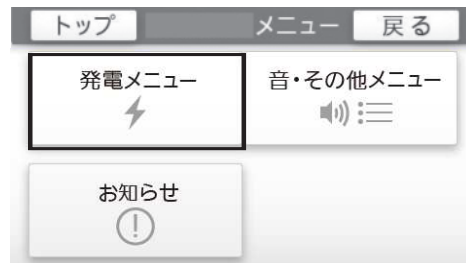
下記いずれかの方法で再開します。

- ・ 不在停止設定後5時間以上経過している場合は、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作をする。
- ・ 不在停止設定後5時間以上経過している場合は、リモコンの液晶画面をタッチする。
- ・ 不在停止設定後5時間未満の場合は、メニュー画面から再開操作をする。

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



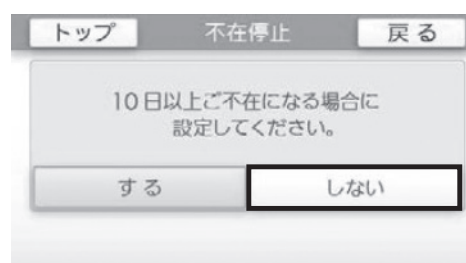
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[不在停止]を選択してください。



④ 不在停止画面より[しない]ボタンを押してください。



発電ユニットが起動をはじめます。

基本操作の説明

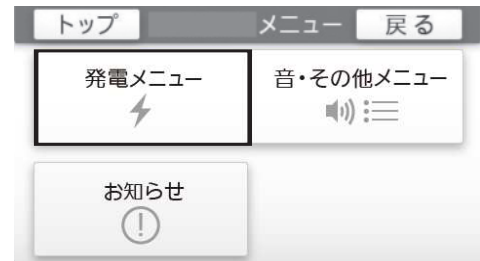
■ 2-3. 発電再開からの再開

(91ページ「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」で停止している場合)

① トップ画面より[メニュー]を選択してください



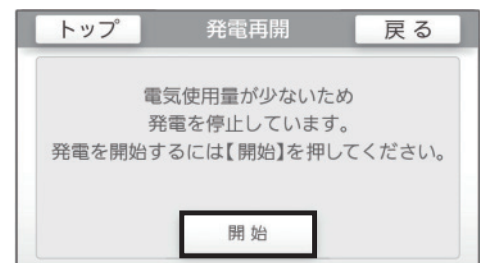
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



③ 発電メニュー画面より[発電再開]を選択してください。



④ [開始]ボタンを押してください。



発電ユニットが起動をはじめます。

基本操作の説明

3. 発電ユニットの停止方法

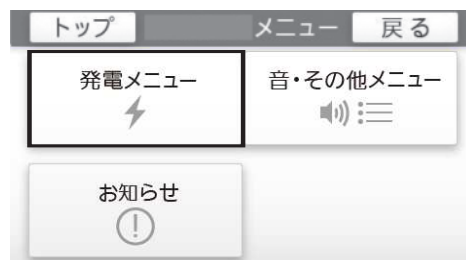
※ お客さま操作により、頻繁に起動・停止(不在停止等)を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、不在停止機能のご使用は10回/年までを目安とし、10日以上不在にされる場合にご使用ください。

■ 3-1 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいときの停止方法（発電禁止）

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



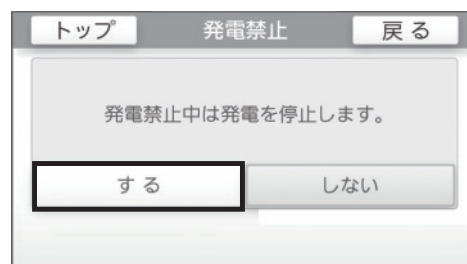
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



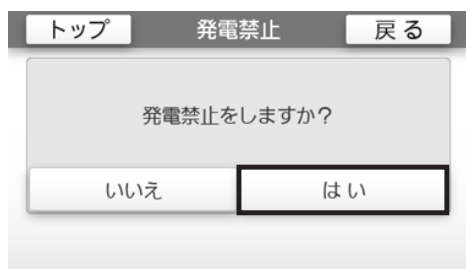
③ 発電メニュー画面より[発電禁止]を選択してください。



④ [する]ボタンを押してください。



⑤ [はい]ボタンを押してください。



※ 約10～12時間後に発電停止表示は消灯し、リモコントップ画面の左上に[発電禁止]と表示されます。

基本操作の説明

■ 3-2 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいときの停止方法（不在停止）

※1か月以上の長期不在時には、この方法に加えて水抜きが必要です。88ページを参考に水抜き操作を行ってください。

※ 10日以上リモコン操作・お湯（水）を使用しない場合、自動的に不在停止が[する]になります。

※ 給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照ください。

① トップ画面より[メニュー]を選択してください。



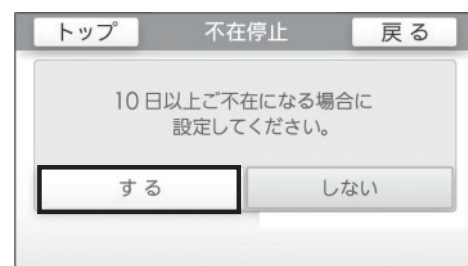
② メニュー画面より[発電メニュー]を選択してください。



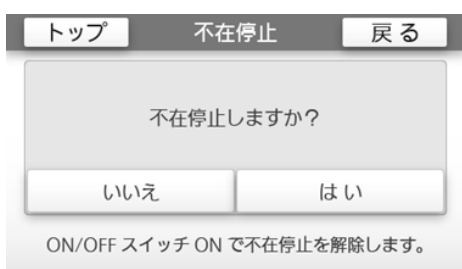
③ 発電メニュー画面より[不在停止]を選択してください。



④ [する]ボタンを押してください。



⑤ [はい]ボタンを押してください。



⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが点滅します。

※ 不在停止設定を[する]にした後5時間経過後は、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、またはリモコンの液晶画面のタッチ、お湯（水）の使用で不在停止が解除されます。

基本操作の説明

4. 発電ユニットの貯湯タンクの洗浄のための水抜き方法

※ 貯湯タンク洗浄には水抜きが必要となります。

※ この操作開始後水張り（80ページ参照）完了までは、熱源機を使用することはできません。

※ この水抜きでは、手順の途中にリモコンによる水抜き停止ボタンを操作しますが、その後も手順書に沿って、エア抜き栓、排水バルブの操作を行ってください。

⚠ 注意

水抜き時タンク排水配管には触れない

場合によってはお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。

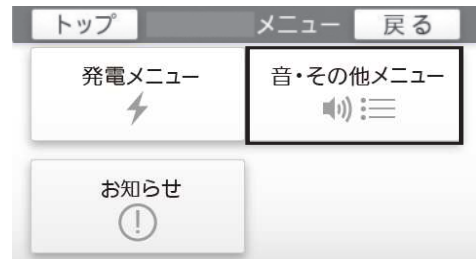


※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑧）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑨～⑩）を行ってください。

① リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（ON/OFFスイッチ部のLEDランプが消える）液晶画面部にタッチしてください。

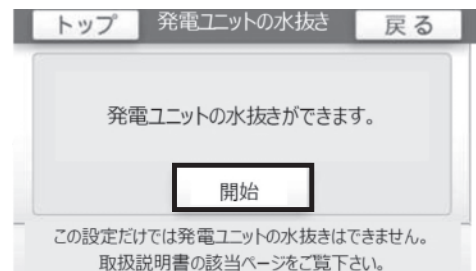
② トップ画面より[メニュー]を選択してください。

③ メニュー画面より[音・その他メニュー]を選択してください。



④ 音・その他メニュー画面より[発電ユニットの水抜き]を選択してください。

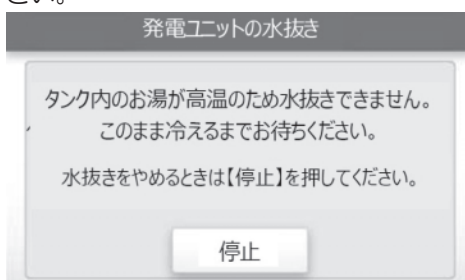
⑤ [開始]ボタンを押してください。



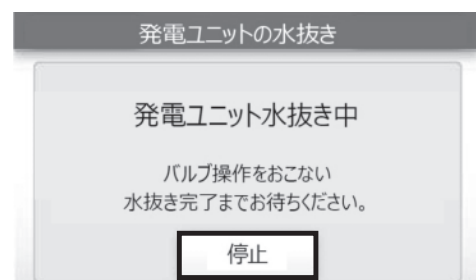
※ タンク内水温が下がると⑥に移行します。停止を押すと⑤に移行します。停止させない場合は、[停止]ボタンを押さないでください。

タンク内
高温時

⑥ タンク内水温が水抜き可能温度です。[停止]ボタンを押してリモコンによる水抜きを停止してください。



※ タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。

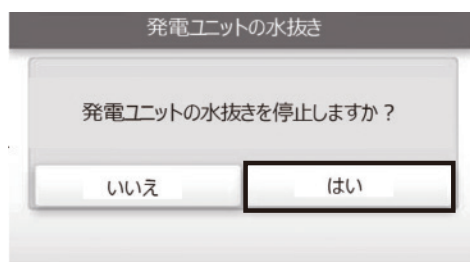


タンク内部
温度冷却後

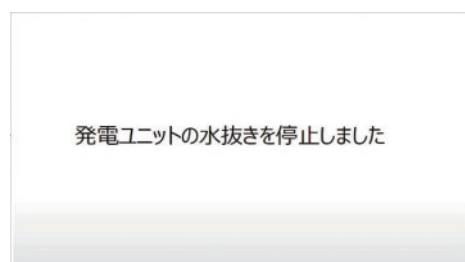
運転について
(発電リモコン)

基本操作の説明

⑦ [はい] ボタンを押してください。

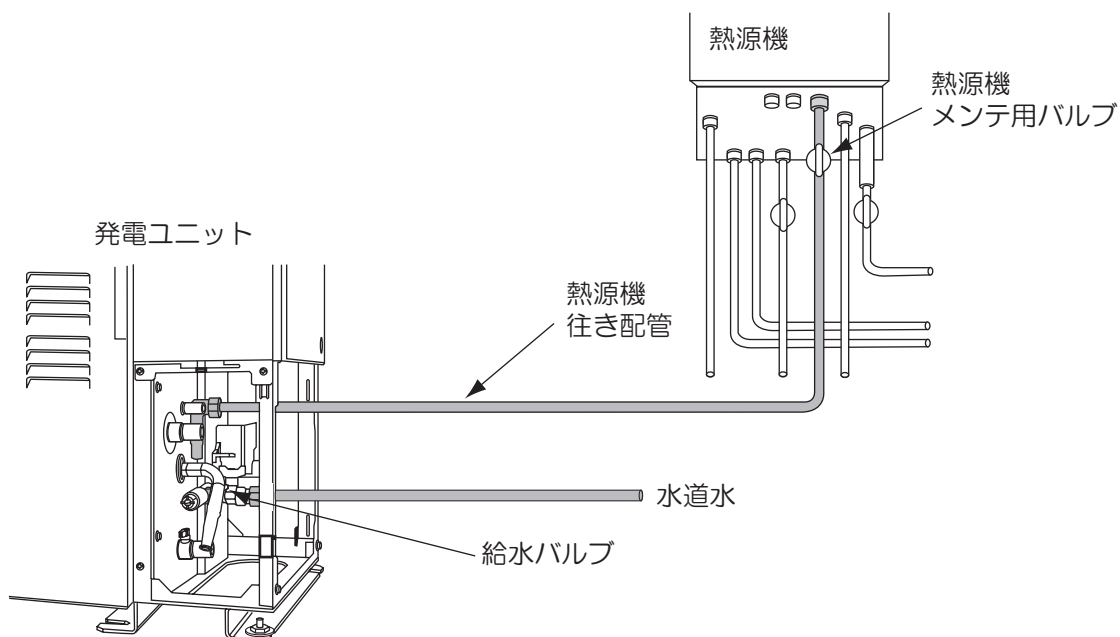


⑧ 下記画面を表示後自動的に、音・その他メニュー画面に切り替わります。



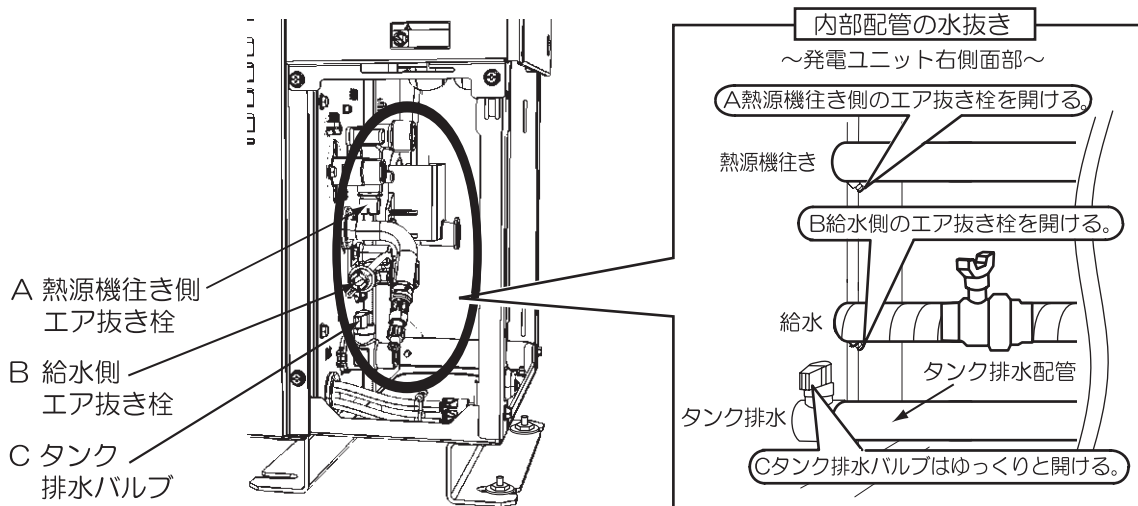
⑨ 音・その他メニュー画面移行後次の操作をしてください。

- ・ 12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外します。
- ・ 給水バルブを閉じます。
※ 給水バルブを閉じずに以降の操作をすると、ユニット内部機器の寿命が著しく短くなりますのでご注意ください。
- ・ 熱源機行き配管途中の熱源機メンテ用バルブを閉じます。



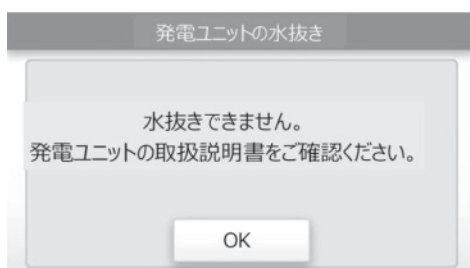
基本操作の説明

- ・ Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- ・ B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を反時計回りに3回転させます。



- ⑩タンク排水配管より湯（水）が出なくなったら、B給水側（下側）、A熱源機行き側（上側）のエア抜き栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。
- ⑪12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合



水抜きは、発電ユニットが停止状態のみ受け付けます。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

基本操作の説明

5. 長期間使用しない場合の発電ユニットの水抜き方法

- 旅行等のため、10日以上使用しないときは、リモコンで「不在停止」にし、発電ユニットを停止させてください。（手順は84ページを参照ください。）
- 1か月以上不在にされる場合もしくは1か月未満でも電源が確保できないことに加えて凍結のおそれがある場合（気温が氷点下になる可能性がある場合）は、下記の発電ユニット水抜き方法に従い水抜きを実施してください。水抜きをしないと故障の原因となります。（お手数ですがお客さまで実施ください。）また、熱源機の水抜きも必ず実施してください。手順は熱源機の取扱説明書をご参照ください。
- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 引越しをされる場合は、その2～3日前までに前もって販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 水抜きを実施する場合は、前日までに発電禁止による停止操作を行ってください。

⚠ 注意

水抜き時タンク排水配管には触れない

場合によってはお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



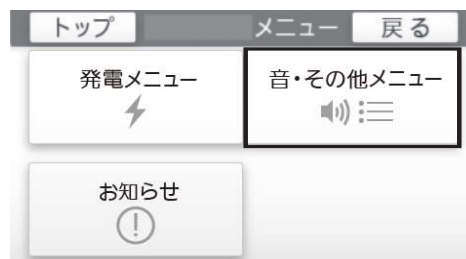
水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。

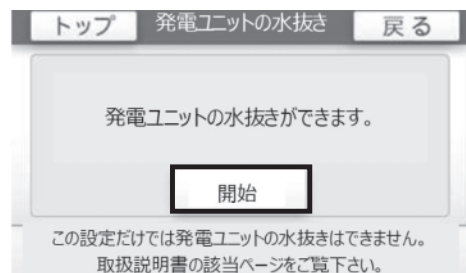


※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑥）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑦～⑩）を行ってください。

- ① リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプが消える）液晶画面部にタッチしてください。
- ② トップ画面より[メニュー]を選択してください。
- ③ メニュー画面より[音・その他メニュー]を選択してください。



- ④ 音・その他メニュー画面より[発電ユニットの水抜き]を選択してください。
- ⑤ [開始]ボタンを押してください。



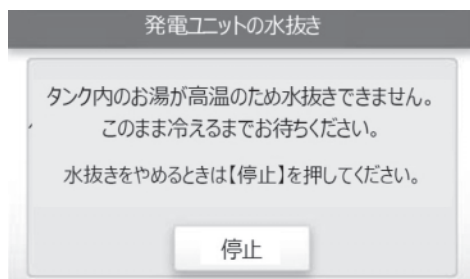
タンク内
高温時

※ タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。

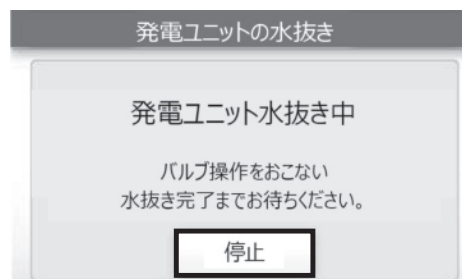
基本操作の説明

※ タンク内水温が下がると⑥に移行します。
[停止]を押すと⑥に移行します。
停止させない場合は、停止ボタンを押さないでください。

⑥ タンク内水温が下がりましたので、12ページの「フロントR小パネルの取り外し方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をしてください。



タンク内部
温度冷却後



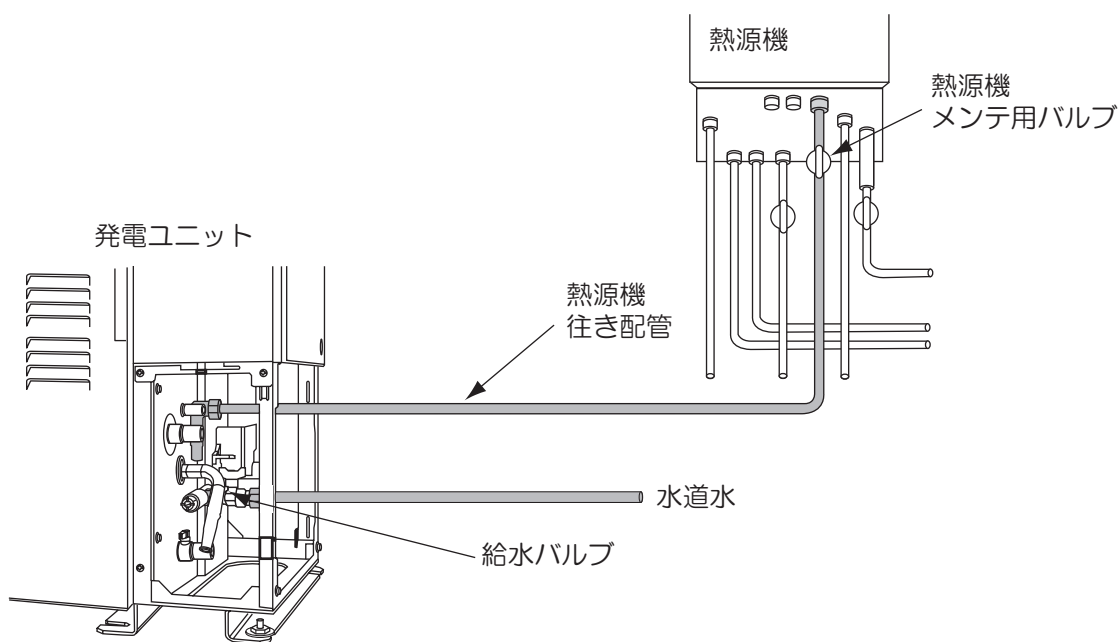
水抜きが完了すると、メイン画面に自動的に移行します。

※ 30分経過しても水抜きが終了しない場合は、[停止]ボタンを押して水抜きを停止し、A~F (90ページ参照) のバルブまたはプラグが開いていることを確認後、再度①より実施してください。

水抜きを停止したい場合は[停止]ボタンを押すと、次ページの※1に移行します。

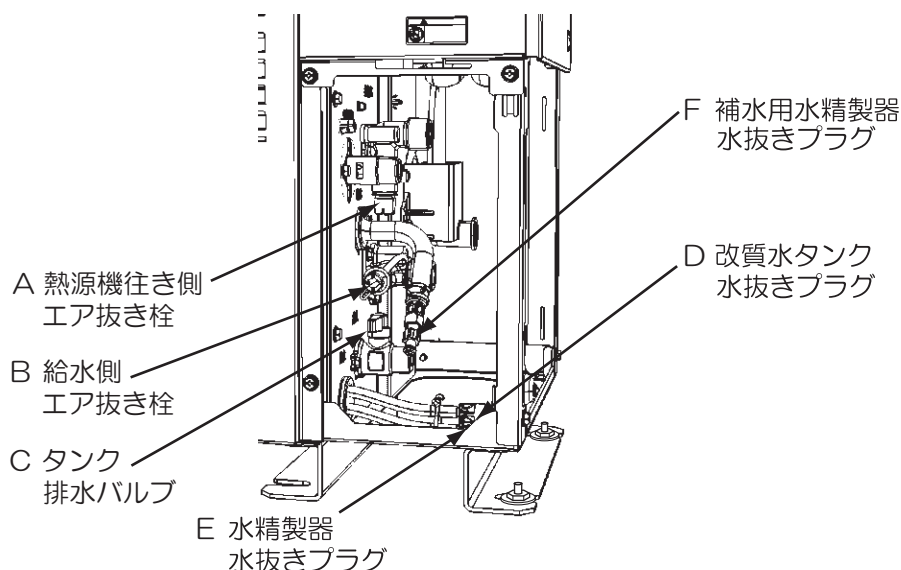
⑦ 下記バルブの操作をしてください。

- ・ 給水バルブを閉じます。
※ 給水バルブを閉じずに以降の操作をすると、ユニット内部機器の寿命が著しく短くなりますのでご注意ください。
- ・ 熱源機往き配管途中の熱源機メンテ用バルブを閉じます。



基本操作の説明

- ・ Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- ・ B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を反時計回りに3回転させます。



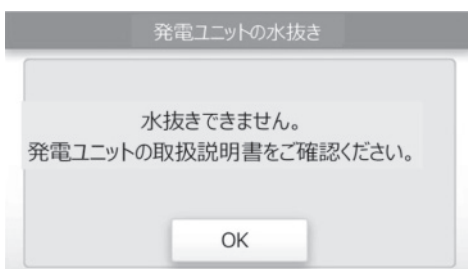
- ⑧D改質水タンク水抜きプラグとE水精製器水抜きプラグ、F補水用水精製器水抜きプラグ計3か所を反時計回りに1回転させ、改質水を抜きます。
(全て排水されるまで、約10分かかります。)
- ⑨リモコンの画面がメイン画面に移行し、タンク排水配管およびD、E、Fの水抜きプラグから水が出なくなったことを確認し、D、E、Fの水抜きプラグを時計回りに回して締めてください。
※ 30分経過してもトップ画面に移行しない場合は、水抜きを中止し、各バルブ確認後、再度手順①より実施してください。
- ⑩B給水側、A熱源機行き側のエア抜き栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。
- ⑪発電ユニットと熱源機のカス栓を閉じ、屋内分電盤の専用ブレーカを「OFF」にします。
- ⑫12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

※1 水抜き途中停止方法



「いいえ」を押すと前の画面に戻ります。

※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合



水抜きは、発電ユニットが停止状態のみ受け付けます。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

運転・停止について

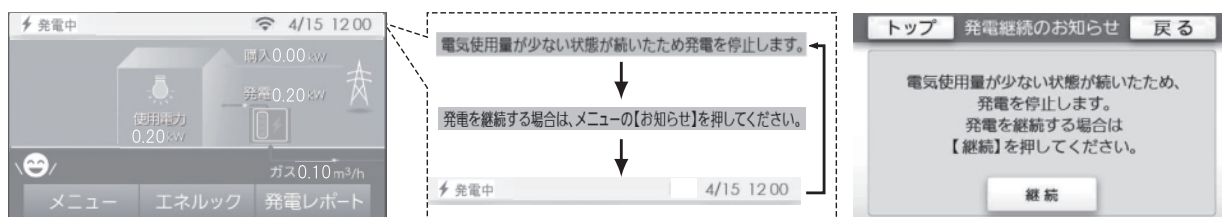
1. 以下の場合、発電ユニットは停止します。

- ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき
ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日連続して運転した場合、27日目に約24時間停止する仕組みとなっており、その停止期間中リモコンにMマークが表示されます。（約24時間停止した後、発電ユニットは自動で運転を再開します。）
ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。

Mマーク



- リモコン操作または、給湯栓からお湯（水）が10日以上使用しなかったとき自動的に不在停止となります。
- 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F03]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）
- 故障診断をしているとき
リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。
- 電気使用量が少ない状態が続いたとき
 - 月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのお知らせ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください」のメッセージが24時間表示され、翌月は自動停止します。
 - 翌月も発電を継続したい場合は、発電継続を選択してください。



- 停止後発電ユニットを起動したい場合は、発電再開操作（82ページ参照）を実施してください。
- 停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

2. 以下の場合、発電ユニットは発電出力を下げます。

- 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。
- 低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器保護のために発電出力を自動的に下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWに下げる場合があります。

運転・停止について

3. 停電のときは

- 発電中に停電した場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
自立運転機能により発電を継続します。
発電した電気は自立運転専用コンセントより出力します。（停電してから約90秒後に出力開始します。）
（93～98ページ参照）
- 発電中に停電した場合（標準モデルのお客さまの場合）
停電中は、アイドル状態になり、復旧待機しています（最長5時間）。ガス、水は閉めないでください。
※ 復旧後約5分で発電が開始します。また、お客さまの発電ユニットの運転状態によっては停電中に停止する場合があります。
※ アイドリング状態とは、運転をしていますが発電電力を出力していない（OW）状態のことです。
- 停電が復旧した場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
自立運転を終了し、通常運転に約5分後自動的に切り替わります。
※ 自立運転専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- 待機中・起動中・停止中に停電した場合
停電中は起動しません。

4. 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっている場合の対応

- 停電が事前に分かっている場合（自立運転機能付きのお客さまの場合）
 - <事前準備>
事前準備は特にありません。
ただし、停電予定期間中に発電をさせたい場合は、94ページの事前準備を行ってください。
 - <停電復旧後>
必要な操作は特にありません。
- 停電が事前に分かっている場合（標準モデルのお客さまの場合）
 - <事前準備>
停電する半日以上前に「発電禁止」操作（83ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
 - <停電復旧後>
「発電禁止からの再開」操作（81ページ参照）を行ってください。
- 断水が事前に分かっている場合
 - <事前準備>
事前準備は特にありません。
※ 断水中は、発電が停止する場合がありますため、お湯、水を使用しないでください。
 - <水道復旧後>
給水栓（レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて）を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。
- ガス停止が事前に分かっている場合
 - <事前準備>
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作（83ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
 - <ガス復旧後>
「発電禁止からの再開」操作（81ページ参照）を行ってください。

5. 緊急時などガス栓を閉にした場合、屋内分電盤の専用ブレーカをOFFした場合

- 再使用前に、13ページの「ご使用前の確認」を行ってください。

6. 暗証番号

- 機器を設置業者からお客さまに引き渡しする際、お客さまに登録していただく番号です。
- 機器に通電していない状態が24時間以上続いた場合は、再通電後に暗証番号を入力する必要があります。
- ※ 暗証番号を入力しない場合は、発電ユニットは起動しません。暗証番号は、リモコンの取扱説明書を参照し入力をお願いします。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

お願い

自立運転専用コンセントが設けられていることを確認する

停電時にエネファームで発電した電気を使用するには、自立運転専用コンセントが必要です。

「エネファーム type S 停電時自立発電専用」と表示のあるコンセントが、自立運転専用コンセントです。

断水時は給水・給湯栓を使用しない

自立運転時に断水状態*のまま水やお湯を使用されますと、発電ユニットが異常停止します。

* 断水状態：停電などの理由により、ご家庭への給水が停止している状態

- 発電ユニットが発電中に停電した場合は、自立運転機能により発電を継続しますので、発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。
- 発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、ガスの供給が停止している場合にも発電できません。以下の場合、発電ユニットは停止しています。
 - ・ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき（詳細は、91ページ「運転・停止について」をご参照ください。）
 - ・ お湯/暖房を10日以上使用しなかったとき
自動的に不在停止となります。
 - ・ 機器保護運転をしているとき
夏期に外気温度が高いときや電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F03]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）
 - ・ 故障診断しているとき
故障診断をしているとき、自動的に停止し一定時間停止したままの場合があります。
- 自立運転機能で利用できる電気の量は最大約700Wです。
 - ※ 熱源機で使用する電気の量も含まれますので、実際にご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。
- 自立運転時は自動的に自立運転専用コンセントに電気が供給されます。
自立運転専用コンセントには「エネファーム type S 停電時自立発電専用」と表示されています。
事前に設置場所を確認してください。
 - ※ 自立運転専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに自立運転専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。
- 停電した場合、熱源機の電源は入りませんが、給湯栓を開ければ、約20～30℃の温水が出る場合があります。
- リモコンに[発電継続のために、お湯を使ってください。]のメッセージが表示された場合は、自立運転を継続させるために、貯湯タンクがお湯で満タンにならないよう給湯栓を開けてお湯を使用してください。



運転について
(発電リモコン)

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

1. 計画停電時の対応

- あらかじめ計画停電など停電が予定されている場合は、以下の操作を行うことで停電時に発電させることができます。
 - ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは一時的に停止します*。
計画停電中の一時的な停止を避けるため、停電予定日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。
 - * 詳細は、91ページ「運転・停止について」をご参照ください。
 - ① リモコンで発電停止予定日までの日数をご確認ください。
 - ② 停電予定期間中に次回停止がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（83ページ参照）により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了（発電状況表示部の ⚡ が交互表示され、約10～12時間後 ⚡ は消灯します。（発電状況表示については79ページを参照してください。））後連続24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器（給湯・床暖房など）を連続で最低70分停止してください。
 - ③ 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が増えていることを確認し、遅くとも計画停電の4時間前までには「発電禁止からの再開」操作（81ページ参照）を実施ください。
停電期間中に次回停止がない場合は、特に操作は必要ありません。
※ ①および③は、リモコンの取扱説明書をご参照ください。
-
- 自立運転ができない場合でも、発電ユニットの貯湯タンク内のお湯（水）を、雑用水として利用することができます。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

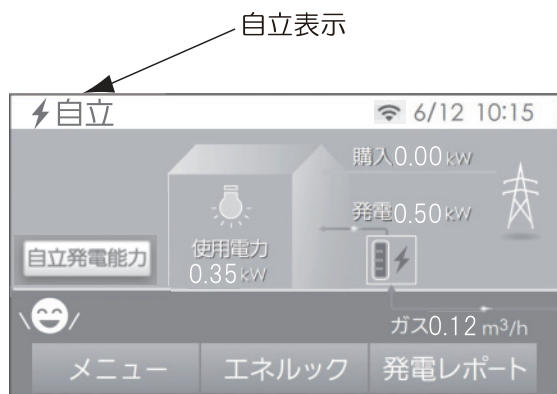
2. 停電が発生したときの対応

※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

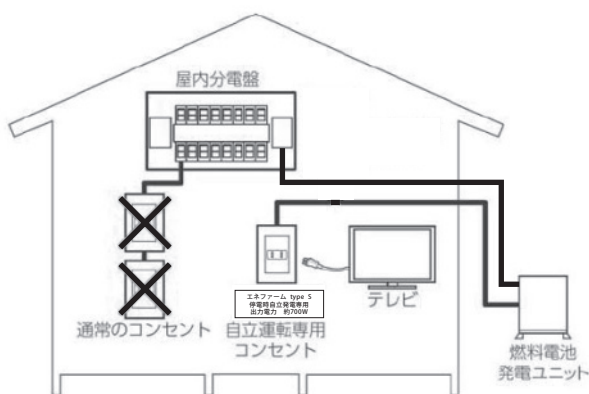
■ 2-1 [自立]の表示がされていることを確認する

- 停電してから約90秒*後に、[自立]の文字部が反転点滅表示になっていることを確認してください。
- 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力モードに切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。

* お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。(最大約10分間)



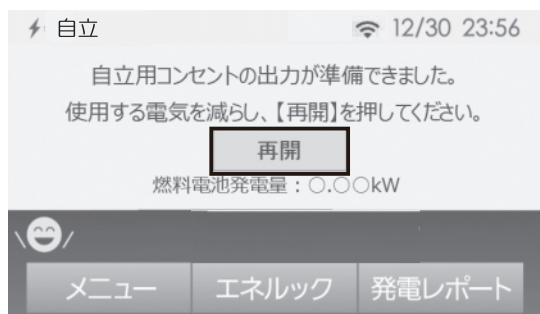
■ 2-2 電化製品の電源プラグを自立運転専用コンセントに差し込む



- 停電時は自立運転専用コンセントしか使うことができません。
- リモコン表示で発電量を確認しながら自立運転専用コンセントに使用したい電化製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が700Wを上回る場合(過負荷)は、自立運転専用コンセントからの電気の供給が一時停止(約90秒~10分)します。一時停止後に自動的に電気の供給が再開します。ただし、過負荷2回目以降は、一時停止した後にリモコン表示内容に従ってリモコン操作を行う必要があります。
- 接続した電化製品の消費電力が発電量を超えないよう、運転状態をこまめに確認してください。

■ 2-3 過負荷復帰操作

[再開]ボタンを押す。



運転について
(発電リモコン)

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

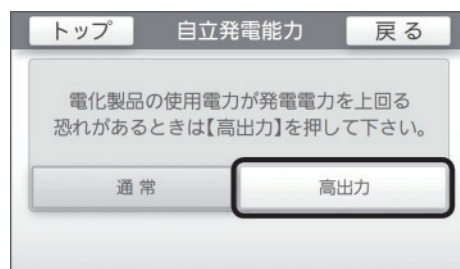
- 自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと自立出力を下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電化製品を使用されるときは下記手順で高出力モードに切り替えてください。

※ 低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げることがあります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[自立発電能力]ボタンを押す。
([自立発電能力]ボタンは、高出力発電が可能なお客さまのみ表示されます。)



- ② [高出力]ボタンを押す。



- ③ 左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



- 高出力設定を通常に戻す場合
②の画面で[通常]ボタンを押します。



※ 通常モードに戻し忘れた場合は消費電力低下から約5分後に自動的に通常モードに戻ります。

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

⚠ 警告

自立運転専用コンセントには以下の機器を接続しない

自立運転専用コンセントには停電時だけ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。途中で電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれがある以下の機器には接続しないでください。

- ・ 全ての医療機器
- ・ 灯油を用いた暖房機器
- ・ 炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- ・ バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器および周辺機器
- ・ 冷蔵庫のような連続的に電力の供給が必要な機器
- ・ その他、電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれのある機器
- ・ 最大電力が700W以上になる機器

主な電化製品の消費電力

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電化製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。(冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどは使用できません。)

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯の充電器	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	75
液晶テレビ32型	150		
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
電気炊飯器	1100	ヘアードライヤ	1200

⇒ご使用できません

⚠ 注意

ガスファンヒータの使用について

- ・ ガスファンヒータのご使用中は、部屋の換気にご注意ください。
必ず1時間に1~2回(各1~2分)、窓を開けるなどして換気を行ってください。
- ・ 自立運転専用コンセントで使用できる電力が少なく、ガスファンヒータを使用すると過負荷が発生するおそれがある場合は使用しないでください。
- ・ ガスファンヒータ運転中に停電が発生すると、ガスファンヒータの冷却が正常に行われず、温風の吹き出し口や機器背面(エアフィルタ部や取っ手部分)が高温になり、手で触れるとやけどのおそれがあります。
- ・ 自立運転専用コンセントでガスファンヒータを使用しているときに異常を感じた場合は、ただちにガス栓を閉じてガスファンヒータの使用を中止し、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。



確認



禁止



確認



確認

運転について
(発電リモコン)

停電時に電気とお湯を使う

(自立運転機能付きのお客さまへ)

お知らせ

- 停電時に使用可能な電力は
最大で約700W*1です。消費電力の合計が発電量を超えないように注意してください。
*1 凍結予防など運転状態によって消費電力が変わりますので、リモコンの発電量と消費電力を確認しながらお使いください。
- 電化製品の電源を入れたとき
電化製品の種類によっては、一時的に使用できない場合があります。使用負荷によって過負荷を検知し、自立運転専用コンセントからの電気の供給が停止することがあります。
これらの場合は最後につないだ電化製品のコードを抜いた状態で電気の供給停止後、約90秒（発電ユニットの状態によっては10分程度必要になる場合があります）ほど待ち、[再開]ボタンを押した後、使用できるようになります。（95ページ参照）
- 自立運転開始直後は
発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電化製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電化製品のコードをさしてください。
- 自立運転中に発電を停止させたい場合は、
リモコン操作により[発電禁止]で停止させてください。ただし、停電が復旧するまで再使用（発電）できません。
操作方法は、83ページ「発電ユニットの停止方法」をご参照ください。
- 自立運転中は、
発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- 断水状態*2時は、使用できる電気量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
 - ・自立コンセントで使用する負荷が小さい場合
 - ・発電ユニットの蓄熱量が多い場合*2 断水状態 停電などの理由により、ご家庭への給水が停止している状態
- 以下の場合は自立運転を停止する場合があります。
 - ・外気温が高く発電ユニット内水温が高い場合※ 停止防止のために貯湯タンクのお湯を利用ください。

故障・異常かな？と思ったら

次の場合は、故障ではありません。

症状	原因
排気口から湯気が出ている。基礎が濡れている。	排気ガス中の水蒸気が凝縮し湯気が立つことがあります。排気口付近に結露が発生することがあります。結露の状況によっては機外へ排水し、基礎が濡れることがあります。
前面パネルの排気口周囲に白い付着物がつく。	排気口付近の結露水に含まれる成分が付着する場合があります。付着した場合は布等により拭き取ることができます。
放熱器吸気口のフィルタに白い付着物がつく。	背面パネルに含まれる成分が放熱器吸気口のフィルタに付着する場合があります。付着した場合は布等により拭き取ることができます。
お湯を使っていないのに運転している。お湯を使っているのに運転しない。	発電ユニットの発電・停止は、お湯を使う時間帯と必ずしも一致しません。
停止後も運転音がする。	機器を保護するために、停止後約10～12時間程度は運転しています。
排水配管から水がポタポタ出る。	排気ガス中の水蒸気が凝縮して水となり、排出されます。
発電出力が上昇するのに時間がかかる。	モジュール内部の温度が急上昇しないようゆっくりと出力を上昇させています。

故障・異常かな？と思ったらときは、まずリモコンの表示をご確認ください。

※ 熱源機およびリモコンの取扱説明書も合わせてご確認ください。

症状	原因	処置方法
リモコンが表示しない。	発電ユニットに接続された専用ブレーカがOFFになっている。	発電ユニットに接続された専用ブレーカをONにしてください。 ※ リモコンが表示したら、リモコンの時計合わせを行ってください。
	発電ユニットがエラー停止している。	停電時、発電ユニットがエラーで発電を継続できなくなった可能性があります。 停電が復旧した後、リモコンにエラーが表示された場合は、104～106ページに記載の処置方法に従って処置を行ってください。
リモコンが表示しない。 (自立運転機能付き)	停電時に自立運転専用コンセントに接続している電化製品の消費電力が発電量を超過している。	すみやかに接続した電化製品を取り外してください。
発電表示が消え、発電停止時にMマークを表示して停止している。	ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するための一時的な停止 (※詳細は、27 (リモコンA)、48 (リモコンB)、69 (リモコンC)、91 (発電リモコン) ページ「運転・停止について」をご参照ください。)	Mマークの表示開始から24時間経過後に自動で運転を再開します。ただし、ガスのご使用状況や機器の動作状況により、リモコンに[01900]を表示し停止を継続する場合があります。その場合は106ページを参照し、処理を行ってください。 Mマーク、発電表示は、リモコン画面上部に表示されます。詳細は各リモコン説明部 (15 (リモコンA)、37 (リモコンB)、58 (リモコンC)、79 (発電リモコン) ページ) を参照ください。

リモコンC
各リモコンのMマーク表示位置
リモコンB
・リモコンA
・発電リモコン

故障・異常かな？と思ったら

症 状	原 因	処 置 方 法
[01900]を表示して停止している。	発電ユニット停止中に熱源機のガス使用が継続し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認できなかった。	処置方法は、106ページを参照してください。
発電出力が家庭の電力需要量を大幅に下回る。	発電出力抑制モード中外気温が高いときなどに、運転継続させるための一時的な発電出力抑制。	しばらくお待ちください。 24時間経過しても発電出力に変化がない場合は販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。
発電エラーと[**F**]が交互に表示されている。	エラーが発生している。	停止完了までお待ちください。（[発電×]または[⊗発電]表示中は再起動できません。）リモコン左上隅にある、発電マークと状態表示が消えたら停止完了です。104～106ページを参照し、エラーの処置を行ってください。
発電ユニットのセルフチェック実施中を知らせる表示がされている。	故障診断のための一時的な停止。	しばらくお待ちください。 24時間経過しても発電ユニットのセルフチェック実施中を知らせる表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。
発電中にリモコン左上の[発電中]の表示が[電圧抑制中]と表示される。	商用電源の電圧が設定値（電力会社による指定値）を超えないように、発電ユニットが電圧を自動検出し、発電量を自動で抑制します。	商用電源の電圧が正常に戻れば[電圧抑制中]の表示は消え[発電中]に戻ります。頻繁に発生する場合は、お買い上げの販売店または電力会社にご相談ください。
発電が停止しリモコン画面左上の「発電中」の表示欄に「↓」が表示される。	お客様の電力の使用量が少ない状態が継続し、十分な省エネ効果が得られないため発電を一定期間停止しています。	お客様の電気使用量が増加すれば自動的に再発電します。電気使用量が増加しなければ長期間発電を停止する場合があります。停止中に起動する場合は【メニュー】→【発電メニュー】から【発電再開】を選択し【開始】または【はい】、【する】を実行ください。

故障・異常かな？と思ったら

症状	原因	処置方法
リモコン設定よりも熱いお湯が出る。	この商品は、熱源機 のガス消費量を抑え るために、熱源機に 供給する水の温度を 発電ユニットの排熱 により予熱していま す。このため、少な い流量でお湯をお使 いの場合、設定温度 よりも高めのお湯が 出る場合があります。 さらにお湯の流量 を絞りすぎると、 燃焼を停止する場 合があります。	お湯の量を増やしてご使用ください。 ※ 混合水栓でお湯と水とを混ぜてお使いの場合は、水栓から流れるお湯の量よりも熱源機を流れるお湯の量が少なくなります。混合水栓のレバーをお湯側にしてお使いください。
お湯を出しても温度が上がらない。		
お湯を出しても、熱くなったりぬるくなったりして、お湯の温度が安定しない。		
発電ユニットの起動時に数分程度音が大きくなる場合があります。	点火時に発生する燃焼音です。	音が継続して止まらない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

エラー表示について

発電ユニットに不具合が生じたとき、熱源機のリモコンにエラーコード[**F**]が表示されます。

発電ユニットのエラーコード一覧 (1/2)

60_01

表示	故障内容	表示	故障内容
01F00	通常停止回数警告	47F00	還流ガス温度センサ故障
01F01	シャットダウン回数警告	47F01	還流ガス漏れ異常
02F00	通常停止回数警告 (起動禁止)	47F02	還流ガス温度低温異常
02F01	シャットダウン回数警告 (起動禁止)	52F01	停止時エア流量異常
03F00	ホットモジュール起動許可条件成立待ち	52F02	エア流量異常
03F01	スタック保護待機状態	53F00	給湯混合弁原点復帰異常
03F03	シャットダウン後起動許可時間タイムアウト	55F00	可燃ガスセンサ1異常
03F05	改質水タンク補給回数警告	55F01	可燃ガスセンサ2異常
03F06	水抜き状態時起動警告	55F10	可燃ガスセンサ1異常
03F07	改質水水量保護動作中	55F11	可燃ガスセンサ2異常
05F00	メンテナンス時間超過1	57F01	伝導度上限異常または水位センサ短絡故障
05F03	可燃ガスセンサ時間超過	59F00	燃焼触媒故障
05F04	可燃ガスセンサ時間超過	60F00	原燃料流量偏差異常
08F00	自立運転保護動作	60F01	原燃料ガスプロアDUTY上限異常
08F02	水不足による保護停止	61F00	エア流量偏差異常
08F03	自立時過負荷検出	61F01	エアプロア故障
10F00	可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常	62F00	改質水ポンプ故障
10F01	可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常	63F00	フロートスイッチ断線故障
10F10	可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常	63F01	フロートスイッチ短絡故障
10F11	可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常	64F00	排熱回収水ポンプ故障
11F00	着火異常	66F00	改質水補給異常
12F00	燃焼部#1失火異常	67F00	水位異常または水位センサ短絡故障
12F01	燃焼部#2失火異常	67F01	水位センサ断線故障
12F04	失火による出力異常	67F04	改質水ライン水張り異常
12F05	失火継続異常	68F00	原燃料入口電磁弁駆動回路異常
15F00	起動異常	68F01	原燃料入口電磁弁異常
19F00	漏電・過電流ブレーカ保護作動	70F00	インバータ通信異常
20F00	冷却ファン故障	70F01	インバータ連系パラメータ受信異常
30F00	改質入口温度センサ故障	72F01	給湯器ラインまたはインバータ異常
30F01	改質入口温度高温異常	72F03	自立出カリレー固着警告
30F02	改質入口温度低温異常	72F04	自立出カリレー固着異常
30F03	改質入口温度センサ不定故障	72F05	給湯器電源リレー系統側固着警告
40F00	燃焼部#1温度センサ故障	72F06	給湯器電源リレー系統側固着異常
40F01	燃焼部#1温度高温異常	76F00	セット構成給湯器通信異常
40F02	燃焼部#1温度低温異常	76F01	後付構成用発電連係リモコン通信異常
40F03	燃焼部#1温度センサ不定故障	76F02	リモコンアンマッチ
42F00	モジュール温度センサ故障	76F03	リモコン電源電圧低下異常
42F01	モジュール温度高温異常	77F00	改質水ポンプ駆動回路異常
42F02	モジュール温度低温異常	77F02	制御装置可燃ガスセンサ増幅回路異常
42F04	モジュール温度センサ不定故障	77F03	制御装置LPガスセンサ増幅回路異常
43F00	燃焼排ガス温度センサ故障	77F04	制御装置パラメータ破損異常
43F01	燃焼排ガス温度高温異常	77F05	FCメンテデータ差異異常
43F02	燃焼排ガス温度低温異常	77F06	FCパラメータ差異異常
		77F08	原燃料流量計通信異常

エラー表示について

発電ユニットのエラーコード一覧 (2/2)

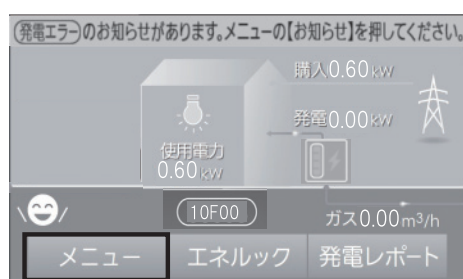
表示	故障内容	表示	故障内容
77F09	カソード エア流量計通信異常	C5F03	インバータ低温警告
77F10	原燃料流量計測値フリーズ異常	C5F04	インバータ高温異常
77F11	カソード エア流量計測値フリーズ異常	C6F01	EEPROM異常
78F15	直流ヒータ過電流警告	C7F00	ハードウェア故障
79F00	コントローラスイッチ部短絡故障	C7F01	インバータ温度センサ故障
80F00	排熱回収水入口温度センサ故障	C7F02	連系リレー故障
80F01	排熱回収水入口温度高温異常	C7F04	24V補機電源電圧上限異常
81F00	排気熱交換器内温度センサ故障	C7F05	24V補機電源電圧下限異常
81F01	排気熱交換器内温度高温異常	C7F06	24V補機電源通電警告
81F02	排気熱交換器内温度低温異常	C7F07	2.5V補機電源電圧上限異常
82F00	排熱回収水出口温度センサ故障	C7F08	2.5V補機電源電圧下限異常
82F01	排熱回収水出口温度高温異常	C7F12	5V補機電源電圧上限異常
82F02	排熱回収水出口温度低温異常	C7F13	5V補機電源電圧下限異常
83F00	補機室上部温度センサ故障	C7F14	スタック電流通信異常
83F01	補機室上部温度高温異常	C7F15	商用電流回路異常
85F00	水道水温度センサ故障	C7F17	インバータソフトウェアバージョン異常
86F00	混合湯温度センサ故障	C7F23	自立周波数不確定異常
86F01	混合湯温度高温異常	C7F25	自立構成異常
86F02	水道水温度センサ/混合湯温度センサ精度異常	C7F26	自立発電電圧不安定異常
88F00	自立ヒータ温度センサ故障	C7F27	自立発電電圧不安定警告
88F01	自立ヒータ上部温度高温異常	C7F28	自立出力準備中シーケンス異常
89F00	自立トランス温度センサ故障	C9F00	インバータ入力過電流
89F01	自立トランス高温異常	E0F00	商用電流検出異常 (誤配線)
93F00	停止時間タイムアウト	E1F00	CT自動補正不能
95F00	改質水タンク水量不足またはフロートスイッチ故障	E1F01	CT誤取り付け警告
A0F00	原燃料供給圧低または圧力センサ故障	E4F00	商用電流検出異常
A1F00	原燃料供給圧低または圧力センサ故障	E7F00	N相過電流異常
B0F00	ホットモジュール高温状態検出	F0F00	系統過電圧警告
B0F02	改質触媒高温状態	F1F00	系統不足電圧警告
B1F02	水張り時エア抜き警告	F2F00	系統周波数上昇警告
B4F01	点火ヒータ連続通電時間オーバー	F3F00	系統周波数下降警告
B6F00	パソコン通信異常	F4F00	単独運転受動方式検出
B8F00	改質水タンク水なし状態検出	F5F00	単独運転能動方式検出
C0F00	スタックトータル電圧低下	F6F00	系統瞬時過電圧
C0F02	コンバータ過電流警告	F7F00	直流過電圧検出
C0F03	直流リンク過電圧警告	F7F01	リンク不足電圧検出
C2F00	スタックトータル電圧未確立	F7F02	リンク過電圧検出
C4F00	直流不足電圧検出	F7F03	出力電流直流分流出検出
C5F01	インバータDC/DC部温度高温異常	F7F05	インバータ側通信異常
C5F02	インバータDC/AC部温度高温異常	F7F06	瞬時過電流
		F9F00	逆潮流検出
		O1900	マイコンメーター内管漏えい警報防止

エラー発生時の処置方法について

エラー発生時の処置方法について

- リモコンにエラーコード[** F **]を表示します。
エラーコードの表示が[** F **]ではない場合は熱源機側の不具合です。熱源機の取扱説明書を参照ください。
- リモコンに下記エラーコードが表示された場合、処置方法に従い処置を行ってください。
- 下表以外のエラーコードについては、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- エラーリセット（異常解除）の方法
 - セット構成の場合は、リモコンの「ON/OFF」スイッチを一度押して「OFF」にしてから、再度押して「ON」にします。（14（リモコンA）、36（リモコンB）、57（リモコンC）ページ参照）
 - 後付構成の場合は、下記手順でリセットします。

①メイン画面より[メニュー]を選択してください。



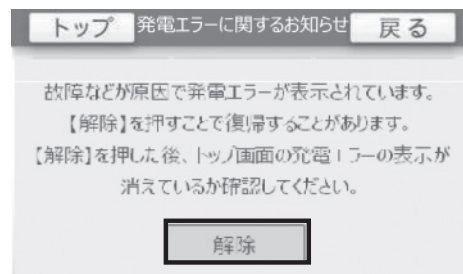
②メニュー画面より[お知らせ]を選択してください。



③お知らせ画面より[発電エラーに関するお知らせ]を選択してください。



④[解除]ボタンを押してください。



- 停止工程に10～12時間かかります。
エラーをリセットしても、停止工程が終了するまで再起動しません。

エラー発生時の処置方法について

⚠ 警告

- お客さま自身で部品の点検・調整はしない
感電・火災・水漏れの原因となります。



禁止

- 機器の異常に気付いたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する
異常のまま運転を続けると感電・火災・故障などの原因となります。



確認

表示	故障内容	原因	処置方法
01F00	・通常停止回数警告	起動停止の回数が多すぎます。	このまま使用を継続されますと、故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外となる場合がありますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
01F01	・シャットダウン回数警告		
03F00	・ホットモジュール起動許可条件成立待ち	発電ユニットが高温であるため起動できません。	冷却されるまでお待ちください。
03F03	・シャットダウン後起動許可時間タイムアウト	起動時にアラームが発生したが、モジュール内部が高温のため、自動再起動ができない。	冷却されるまでお待ちください。
03F05	・改質水タンク補給回数警告	改質水補給回数が設定回数を超えた。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
03F06	・水抜き状態時起動警告	水抜き、水張りが中止された状態で発電ユニットの起動操作が実施された。	発電禁止操作（19（リモコンA）、41（リモコンB）、62（リモコンC）、83（発電リモコン）ページ参照）を行い、エラーをリセット（104ページ参照）し、水張り（16（リモコンA）、38（リモコンB）、59（リモコンC）、80（発電リモコン）ページ参照）を実施後、発電ユニットを起動（17（リモコンA）、39（リモコンB）、60（リモコンC）、81（発電リモコン）ページ参照）してください。
05F00	・メンテナンス時間超過	定期交換部品の交換が必要です。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
05F03	・可燃ガスセンサ時間超過		
05F04			
08F00	・自立運転保護動作	電力使用量が少ないため、保護停止しています。	給湯および電力使用量が350W以上必要です。
08F03	・自立時過負荷検出	電力使用量が700Wを超えています。	104ページを参照してリセットしてください。 1時間経過しても起動しない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

エラー発生時の処置方法について

表示	故障内容	原因	処置方法
10F00	<ul style="list-style-type: none"> 可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常 可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常 	発電ユニット内部でガス漏れが発生した場合、もしくは発電ユニット外部から自動車の排気ガスなどの可燃性ガスが流入した場合に、ガスを検知して停止しています。	ガス供給を遮断していますが念のため発電ユニット専用ガス栓を閉じて、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
10F10			
10F01			
10F11			
81F01	<ul style="list-style-type: none"> 排気熱交換器内温度 高温異常 	断水している可能性があります。	発電禁止操作を実施後に、エラーをリセット（104ページ参照）してください。給水されていることを確認後、発電ユニットの水張り操作を実施してください。水張り完了後、「発電禁止からの再開」を実施してください。再発する場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
82F01	<ul style="list-style-type: none"> 排熱回収水出口温度 高温異常 		
A0F00	<ul style="list-style-type: none"> 原燃料供給圧低または 圧力センサ故障 	ガス栓が閉まっているか、ガスマイコンメーターが遮断されています。	ガス栓が閉まっている場合は、ガス栓を開けてください。 ガスマイコンメーターが遮断している場合は、ガスマイコンメーターを復帰させてから、リモコンでエラーをリセットしてください。 操作方法がわからない場合はガス供給事業者までご連絡ください。
E0F00	<ul style="list-style-type: none"> 商用電流検出異常 	購入電力の検出に異常がある可能性があります。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
E4F00	<ul style="list-style-type: none"> 商用電流検出異常 		
F9F00	<ul style="list-style-type: none"> 逆潮流検出 		
01900	ガスマイコンメーター内管漏えい警報防止（後付構成では発生しないエラーです。）	機器の異常ではありません。発電ユニット停止中に熱源機のガス使用が継続し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認できなかった場合に表示します。	<ul style="list-style-type: none"> 全てのガス機器（暖房を含む）を最低70分停止してください。ただし、機器が凍結予防動作などを行った場合、この表示が消えないことがあります。その場合はさらに70分以上ガス機器を停止してください。作業を実施しても表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。 床暖房の長時間使用により頻繁に[01900]が表示される場合は、給湯や浴室暖房乾燥機などガス機器を使用しない時間帯に、床暖房リモコン等のタイマー設定により床暖房を70分以上停止する時間帯を設定ください。

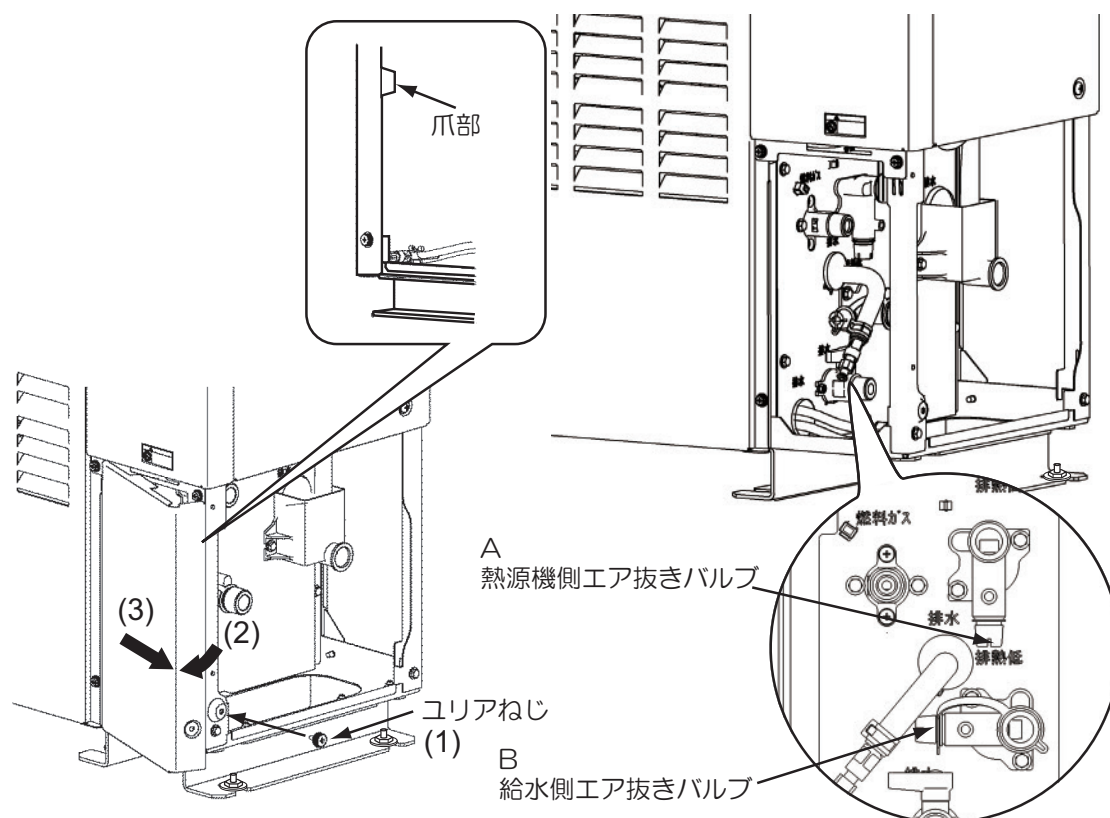
災害時にお湯を使う

災害時などに貯湯タンクからお湯を取り出す

⚠ 警告

エア抜きバルブから熱湯が出る場合がありますのでやけどに注意してください。

■ 断水時や地震などの災害時は、貯湯タンクのお湯（水）を雑用水として利用できます。



- ① 発電ユニットが停止していることを確認してください。
- ② 分電盤の専用ブレーカーを「切」にします。
- ③ フロントRパネル小を外します。
 - (1) ユリアねじを外します。
 - (2) フロントR小パネルの裏の引っ掛けを外しながら手前に寄せます。
 - (3) フロントR小パネルを右にスライドさせて取り外します。
- ④ 給水側逆止弁付バルブと発電ユニットと熱源機の間にあるメンテ用バルブを閉じます。
- ⑤ 熱源機行き側のエア抜きバルブAを回します。
- ⑥ 給水側エア抜きバルブBを回します。

出てきたお湯（水）をバケツなどで受け、雑用水として使用してください。
- ⑦ 取水が終わったら、給水側エア抜きバルブ、熱源機行き側エア抜きバルブの順で閉じます。
- ⑧ 12ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

- 再起動するときは、発電ユニットの水張り（16（リモコンA）、38（リモコンB）、59（リモコンC）、80（発電リモコン）ページ参照）を実施してください。
- 停電時に、リモコンの日時がリセットされていることがあります。その場合は復電時にリモコンの日時設定を入力してください。手順詳細はリモコンの取扱説明書を参照してください。
- 発電ユニットが停電により24時間以上連続停止した場合は、暗証番号を入力してください。手順詳細は28（リモコンA）、49（リモコンB）、70（リモコンC）、92（発電リモコン）ページを参照してください。

お手入れと周囲の確認

《お手入れ》

※機器のお手入れには、手袋を着用してください。

- 機器の外観（パネルおよび放熱器吸気口のフィルタ）が汚れている場合、水に濡らした柔らかい布をかたく絞って、軽く拭きとってください。
 - 機器を水洗いしないでください。
 - 外観のお手入れに、ガソリン・シンナー・ベンジン・みがき粉・スプレーなどを使わないでください。
 - お手入れの際、パネルおよび放熱器吸気口のフィルタを外さないでください。
 - 1年に1回程度、発電ユニット内の貯湯タンクの洗浄をしてください。
 - ①発電ユニットを停止させてください。（19（リモコンA）、41（リモコンB）、62（リモコンC）、83（発電リモコン）ページ、「■ 3-1（発電禁止）」を参照ください。）
 - ②発電停止完了後、水抜きをしてください。（21（リモコンA）、43（リモコンB）、64（リモコンC）、85（発電リモコン）ページ、「4. 発電ユニットの貯湯タンク洗浄のための水抜き方法」を参照ください。）
 - ③水抜き終了後、水張りをしてください。（16（リモコンA）、38（リモコンB）、59（リモコンC）、80（発電リモコン）ページ、「1. 発電ユニットの水張り方法」を参照ください。）
 - ④発電ユニットを起動してください。（17（リモコンA）、39（リモコンB）、60（リモコンC）、81（発電リモコン）ページ、「■ 2-1 発電禁止からの再開」を参照ください。）
- ※ 上記②の開始から③の終了までは熱源機は使用できなくなります。

《周囲の確認》

13ページを参照し、「ご使用前の確認」を月に1回程度行ってください。

⚠ 注意

発電ユニットと熱源機間の配管の上に

乗らない、物を載せない

けが・やけど・水漏れのおそれがあります。



禁止

熱源機行き配管（高温側）に触れない

熱源機行き配管（高温側）は高温になることがあります。
やけどのおそれがあります。



禁止

排気口・換気口・吸気口に指や棒など異物を入れない

けが・やけどのおそれがあります。



禁止

パネルを開けて、発電ユニット内部に触れない

けが・やけど・感電のおそれがあります。



禁止

点検に関して

■ 逆流防止装置の点検

- この機器は給水用具（逆流防止装置）を内蔵しています。機器を安全・快適にお使いいただくために、（社）日本水道協会発行の「給水用の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。時期は4～6年に1回程度をおすすめします。（有償）

■ 発電ユニットの点検

機器への通電開始から10.5年経過後に停止します。引き続き安全にご使用になるためには、点検および定期交換部品、その他の部品の交換が必要になります。（有償）

- リモコンの液晶画面上部に下記のお知らせが表示されたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。
 - ・ [発電ユニットの点検時期が近づいています。]
 - ・ [発電ユニットの点検が必要です。]
 - ・ [発電ユニットの点検時期を過ぎています。]（エラーコード[05F00]も点滅）
- ※ [発電ユニットの点検時期を過ぎています。]の表示になると、発電ユニットは自動的に停止します。
- 点検は、専門のサービスマンが実施いたします。

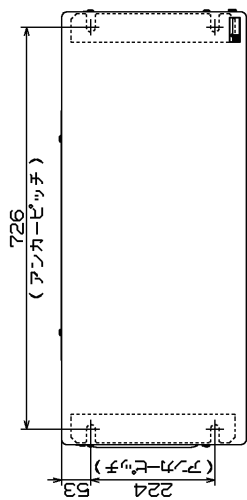
おもな仕様

商品コード	192-AS07		192-AS08		
製品名	自立運転機能付き エネファーム type S 燃料電池発電ユニット		エネファーム type S 燃料電池発電ユニット		
燃料電池の種類	SOFC (固体酸化物形燃料電池)				
型式名	FCCS07B2NJ	FCCS07B2PJ	FCCS07B2N	FCCS07B2P	
設置方式	屋外設置据置型				
タンク貯湯温度	約70℃				
タンク容量	28L				
外形寸法 mm	高1220×幅780×奥行330				
重量 kg	106 (乾燥重量)		100 (乾燥重量)		
接続	ガス	TU (R1/2おねじ)			
	給水・給湯	R3/4 (おねじ)			
	タンク排水	R1/2 (おねじ)			
	排水	QF16ジョイント			
	電気	単相3線式 100/200V			
発電	定格出力 W	700 (自立運転時700)		700	
	電圧 V	200			
	周波数 Hz	50/60			
効率	発電効率 (LHV) %	53.5 (*1)	51	53.5 (*1)	51
	総合効率 (LHV) %	87	85	87	85
インバータ	インバータ方式	自励式電圧型電流制御方式			
	電圧調整方式	PWM方式			
	絶縁方式	高周波絶縁方式			
	接続電気方式	単相3線式			
	出力電気方式	単相2線式 202V			
ガスの種類	都市ガス13A	LPG	都市ガス13A	LPG	
運転環境温度 ℃	-10~43				
停電自立運転設計耐用時間 (のべ) h	500		—		
不在停止の使用目安	10回/年以下				
起動時間 (発電準備)	約3~4時間*2 (機器の状態および気温によって異なります)				
停止動作時間	約10~12時間 (機器の状態および気温によって異なります)				

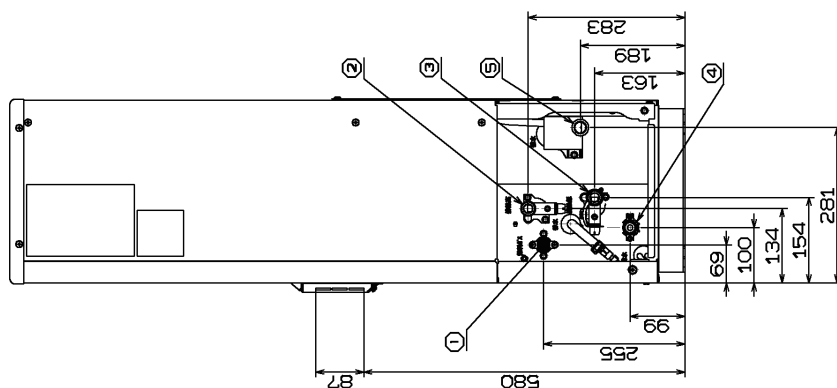
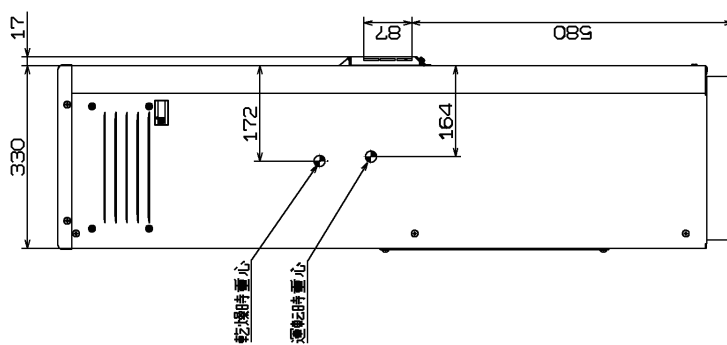
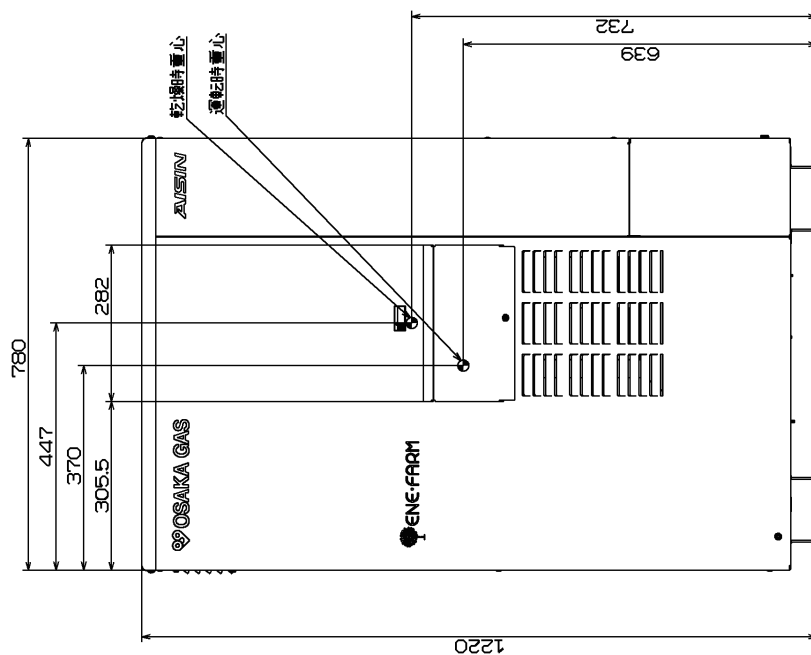
*1 余剰電力買取をしている場合等、10時間以上安定して定格発電を継続した際の発電効率です。
上記以外の場合は、定格発電効率52% (総合効率87%) となります。

*2 発電の停止動作中に起動操作を行った場合でも、停止動作の完了後に再起動となります。

外形図



記号	名称	接続
①	ガス接続口	TUR1/2(おねじ)
②	熱源機向き接続口	R3/4(おねじ)
③	給水接続口	R3/4(おねじ)
④	タンク排水接続口	R1/2(おねじ)
⑤	ドレン排水接続口	GF16ジョイント



アフターサービスと保証について

修理を依頼するとき

修理を依頼される前に、99～101ページの「故障・異常かな?と思ったら」の項目を見て、今一度ご確認ください。不具合があるときはご自分で修理せず、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

● アフターサービスをお申し付けいただくときは、次のことをお知らせください。

1. 商品コード・・・192-AS07、192-AS08
2. 品名・・・エネファーム type S（燃料電池発電ユニット）
3. ガス種・・・都市ガス（13A）/LPG
4. お買い上げ年月日
5. 故障の状況・・・できるだけ詳しく（故障表示など）
6. ご住所、お名前、電話番号
7. 訪問ご希望日

保証について

- この燃料電池発電ユニットには保証書がついています。必ず「販売店名・お買い上げ日等」が記入されていることを確認してください。
- 保証書の内容をよくお読みになった後は大切に保管してください。
- 無料修理期間経過後の故障修理については、修理によって機能が維持できる場合、有料で修理いたします。

引越または機器を移設する場合

発電ユニットを安全で快適にご使用いただくため次のことをご確認ください。移設工事はお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスに依頼し、お客さまご自身ではなさらないでください。

- 引越などで燃料電池発電ユニットを移動・再設置する場合は専門の技術が必要ですので、前もってお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。
- 燃料電池発電ユニットを廃棄する場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

補修用性能部品について

燃料電池発電ユニットの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後10年です。

- 性能部品とは製品の性能を維持するために必要な部品です。

熱源機を買い替える場合

- 熱源機との組み合わせによっては安全・性能が担保できずやけど等の事故が発生する可能性があります。
- 熱源機を買い替える場合は必ず販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。

アフターサービスと保証について

大阪ガス製エネファームフルメンテナンスサポートサービスのご案内

1. フルメンテナンスサポートサービスとは

フルメンテナンスサポートサービス（以下、「本サービス」といいます。）は、大阪ガス株式会社（以下、「大阪ガス」といいます。）または大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、その使用場所で大阪ガス製エネファーム（以下、「エネファーム」といいます。）をご利用いただいているお客さま（以下、「お客さま」といいます。）を対象に、大阪ガスがエネファームの故障時の修理を無償で実施するサービスです。本サービスの内容は、次ページ以降の「フルメンテナンスサポートサービス利用規約」（以下、「利用規約」といいます。）によります。

2. 注意事項

- (1) 利用規約第3条第2項に定める事由に該当する場合は、本サービスの提供期間内においても、故障時の修理は有償となります。（以下、抜粋）
 - ①ご使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷
 - ②お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷
- (2) 利用規約第5条第1項に定める事由に該当する場合は、本サービスの提供を終了させていただきます。（以下、抜粋）
 - ①大阪ガスの事前の同意なく、本サービスの対象機器の所有者が変更された場合
 - ②大阪ガスの事前の同意なく、本サービスの対象機器の設置場所が変更された場合
 - ③大阪ガスまたは株式会社エネアーク関西、豊岡エネルギー株式会社の3社とガス使用契約を締結し、本サービスの提供を受けていたお客さまがガス使用契約を解約し、3社以外の他のガス会社との間でガス使用契約を締結した場合
- (3) 前記（2）により本サービスの提供が終了した場合（利用規約第5条ご参照）や、利用規約に従い有償となる場合（利用規約第3条ご参照）には、数千円～数十万円の費用が必要となります。

アフターサービスと保証について

【フルメンテナンスサポートサービス利用規約】

フルメンテナンスサポートサービス（以下、「本サービス」といいます。）は、大阪ガス株式会社（以下、「大阪ガス」といいます。）または大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、その使用場所で大阪ガス製エネファーム（以下、「エネファーム」といいます。）をご利用いただいているお客さま（以下、「お客さま」といいます。）を対象に、大阪ガスがエネファームの故障時の修理を無償で実施するサービスです。大阪ガスまたは大阪ガスが指定する業務代行店が、以下の各条にしたがい、本サービスを提供いたします。

第1条（本サービスの提供期間）

本サービスの提供期間は、次の通りとします。但し、①または②により定まるサービス提供開始日が、次条に定める本サービスの対象機器の設置日から起算して1年を経過している場合は、設置日から起算して1年を経過した日をサービス提供開始日とします。

①大阪ガスとの間でガス使用契約を締結し、エネファームをお使いいただく場合

サービス提供開始日：設置されたエネファームが初めて系統連系を実施した日またはガスの開栓日のいずれか遅い日

サービス提供終了日：サービス提供開始日から起算して10年を経過する日

②大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、エネファームをお使いいただく場合

サービス提供開始日：設置されたエネファームが初めて系統連系を実施した日

サービス提供終了日：サービス提供開始日から起算して10年を経過する日

第2条（本サービスの対象機器）

本サービスの対象機器（以下、「対象機器」といいます。）は、エネファームを構成する燃料電池発電ユニット、燃料電池発電ユニットと同時に設置した当社指定のバックアップ熱源機、リモコンセット並びにバックアップ熱源機に接続されている大阪ガス製の端末機および別売部品とし、バックアップ熱源機以外の温水機器及び、給湯配管、風呂配管、温水配管、信号線等の施工部分、は含まないものとします。

2.前項の端末機とは、「床暖房リモコン」、「浴室暖房乾燥機」、「ヌックシルエ」等をいい、別売部品とは、「自動電源切替器」、「マルチ計測ユニット」、「ネットアダプタ」をいいます。

3.前条の定めにかかわらず、端末機および別売部品のサービス提供終了日は、接続しているエネファームのサービス提供終了日もしくは当該端末機または当該別売部品の設置日から起算して10年を経過する日のいずれか早い方とします。

第3条（故障時の修理）

本サービスの提供期間内に対象機器が故障したときは、大阪ガスはお客さまの依頼によりすみやかに技術者を派遣し、適切な修理を行います。修理に要した基本料、技術料および部品代金等の費用は無償となります。なお、本サービスの提供期間終了後においても、お客さまの依頼があるときは、修理が不可能または著しく困難な場合を除き、有償で故障の修理を行います。

2.前項の定めにかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、本サービスの提供期間内においても、修理は有償となります。

①ご使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷

②お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷

③火災、塩害、地震、風水害、落雷、煤煙、降灰、酸性雨、腐食性等の有害ガス、ほこり、異常気象、異常電流・電圧・周波数・電磁波、ねずみ・鳥・蜘蛛・昆虫類等の侵入、その他天変地異または戦争、暴動等破壊行為による故障および損傷

④水道管の錆など異物の流入による故障および損傷

⑤車両船舶に備品として搭載された場合に生じた故障および損傷

⑥音、振動、塗装の退色、メッキの軽微な傷、錆など設計仕様の範囲内の感覚的な現象の場合

⑦ガス発電・給湯・暖冷房システムのうち、大阪ガスまたは大阪ガス指定以外の業者の施工部分およびその施工部分に起因した故障および損傷

⑧業務用の場所（喫茶店、理美容院、飲食店、事務所等）で長時間ご使用になられた場合

⑨商品に表示しているガス以外のガスでご使用になられた場合

⑩温泉水、井戸水、地下水を給水したことに起因する不具合

⑪本規約の字句を書きかえられた場合。

⑫大阪ガスが定める定期点検以外での消耗品の交換に伴う、部材費、手数料、基本料

アフターサービスと保証について

- ⑬ 停電時以外で自立運転を頻繁に使用したことに起因する故障および損傷
- ⑭ 手動操作による「起動」「停止」を頻繁に繰り返し行い、機器の耐久性が低下したことによる故障および損傷
 - ※ SOFCタイプの「不在停止」操作は、10回/年を目安とし、10日以上不在となる場合にご利用ねがいます。
- ⑮ エネファーム燃料電池発電ユニット（SOFCタイプ）の最大発電出力の低下範囲が日本ガス機器検査協会の検査規定JIAFO35.15に定める下限値（定格出力の90%）の90%を下回らない場合
- ⑯ 機器の性能・耐久性維持のための定期点検など、大阪ガスからのお願いにご協力いただけず発生した機器の耐久性低下による故障および損傷
- ⑰ 商品に同梱の工事説明書および取扱説明書に指示する方法以外の工事設計または取扱等が原因で生じた故障および損傷

第4条（本サービスの提供に対する協力等）

お客さまは、本サービスの提供が円滑に行われるように、大阪ガスおよび大阪ガスの業務代行店に全面的に協力するものとし、次の各号に定める事項について承諾するものとします。

- ① 本サービスの提供に要する電気、水道、ガス料金その他の費用がお客さまの負担となること
 - ② 本サービスの提供は、原則として、大阪ガスの通常営業時間中に行うこととし、止むを得ず大阪ガスの通常営業時間外に本サービスの提供を行う必要のある場合は、お客さまと大阪ガスが協議のうえ、大阪ガスが指定する時間帯に行うこと
 - ③ お客さまは、転宅または対象機器の譲渡、移転をする場合、大阪ガスまたは大阪ガスの業務代行店に事前に連絡すること
2. 大阪ガスまたは大阪ガスの業務代行店は、本サービスの提供にあたり、十分な注意を払い、誠意をもってこれを行うものとします。

第5条（本サービスの提供の終了について）

次の各号のいずれかに該当する場合は、サービス提供終了日より前であっても、本サービスの提供を終了することについて、お客さまは承諾するものといたします。

- ① 大阪ガスの事前の同意なく、対象機器の所有者が変更された場合
（大阪ガスが事前に所有者の変更へ同意した場合は、本規約にかかるお客さまの地位は、対象機器の新所有者に移転するものとします。この場合、対象機器の旧所有者は、大阪ガスへ何らの請求も行えないものといたします。）
 - ② 大阪ガスの事前の同意なく、対象機器の設置場所が変更された場合
 - ③ 大阪ガスまたは株式会社エネアーク関西、豊岡エネルギー株式会社の3社とガス使用契約を締結し、本サービスの提供を受けていたお客さまがガス使用契約を解約し、3社以外の他のガス会社との間でガス使用契約を締結した場合
 - ④ お客さまが、暴力団、暴力団関係企業をはじめとする反社会的勢力またはその構成員または準構成員に該当することが判明した場合や、自らまたは第三者を利用して次のいずれかに該当する行為をした場合
 - イ. 暴力的な要求行為
 - ロ. 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - ハ. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
 - ニ. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて大阪ガスの信用を毀損し、または大阪ガスの業務を妨害する行為
 - ホ. その他イないしニに準ずる行為
 - ⑤ その他止むを得ない事情により永続的にサービスの提供ができないと大阪ガスが判断した場合
2. 前項の規定により本サービスの提供を終了した場合、お客さまに損害が生じたとしても、大阪ガスは何ら法的な責任を負わないものとします。但し、大阪ガスの責めに帰すべき事由に起因する場合は、この限りではありません。

第6条（本サービスの提供ができない場合等の免責）

次の各号のいずれかに該当する場合は、大阪ガスは本サービスの提供を免れるものとします。

- ① 長期のご不在や、メンテナンススペースの確保が出来ていないなどの止むを得ない事情により、本サービスの提供を行うことができないと大阪ガスが判断する場合
- ② その他止むを得ない事情により一時的に本サービスの提供を行うことができない場合

アフターサービスと保証について

2.大阪ガスは、対象機器の故障発生に伴ってお客さままたは第三者に発生したいかなる損害についても法的な責任を負わないものといたします。但し、大阪ガスの責めに帰すべき事由に起因する場合は、この限りではありません。

第7条（管轄裁判所）

本サービスに関する一切の訴訟については、大阪地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

第8条（その他）

本サービスに関する疑義または本規約に定めのない事項については、お客さまおよび大阪ガスの双方が誠意をもって協議し、円満に解決を図るものとします。

【お客さま情報の利用目的】

当社は、本サービスの提供に関して、当社が直接または業務委託先等を通じて、または電話帳・住宅地図等の刊行物等により、お客さまの氏名、住所、電話番号等の情報（以下「お客さま情報」といいます。）を取得しますが、これらの情報は以下の目的に利用させていただきます。

- ①エネルギー供給およびその普及拡大
- ②エネルギー供給設備工事
- ③エネルギー供給設備・消費機器（厨房、給湯、空調等）の修理・取替・点検等の保安活動
- ④漏洩・火災自動通報、供給の遠隔遮断等のエネルギー供給事業に関連するサービスの提供
- ⑤エネルギー消費機器・警報器等の機器および住宅設備の販売（リース・レンタル等を含む）、設置、修理・点検、商品開発、アフターサービス
- ⑥上記各種事業に関するサービス・製品のお知らせ・PR、調査・データ集積・分析、研究開発
- ⑦その他上記①から⑥に附随する業務の実施

なお、当社は、本サービスの提供を円滑に進めるため、業務代行店等に業務の一部を委託することがあります。その際、当社からこれらの業務委託先に必要な範囲でお客さま情報を提供することがあります。その場合、当社は、業務委託先との間で取扱いに関する契約を結ぶ等、適切な監督を行います。